

# 43. 石谷

- q. 益田市
- s. 美濃郡匹見町
- t. 鹿足郡日原町



索引図

石見備田 (48)	都茂郡 (42)	出合原 (36)
日原 (49)		野入 (37)
津和野 (50)	安蔵寺山 (44)	安芸冠山 (38)

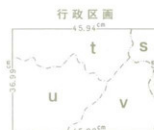
1:35000





## 44. 安蔵寺山

- s. 美濃郡匹見町
- t. 鹿足郡日原町
- u. 鹿足郡柿木村
- v. 鹿足郡六日市町



索引図

日原 (49)	石谷 (43)	野入 (37)
津和野 (50)		安蔵寺山 (36)
砥谷 (52)	六日市 (45)	宇佐郷 (39)

1:35000



# 45. 六日市

- u. 鹿足郡柿木村
- v. 鹿足郡六日市町



索引図

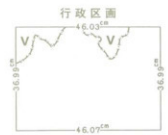
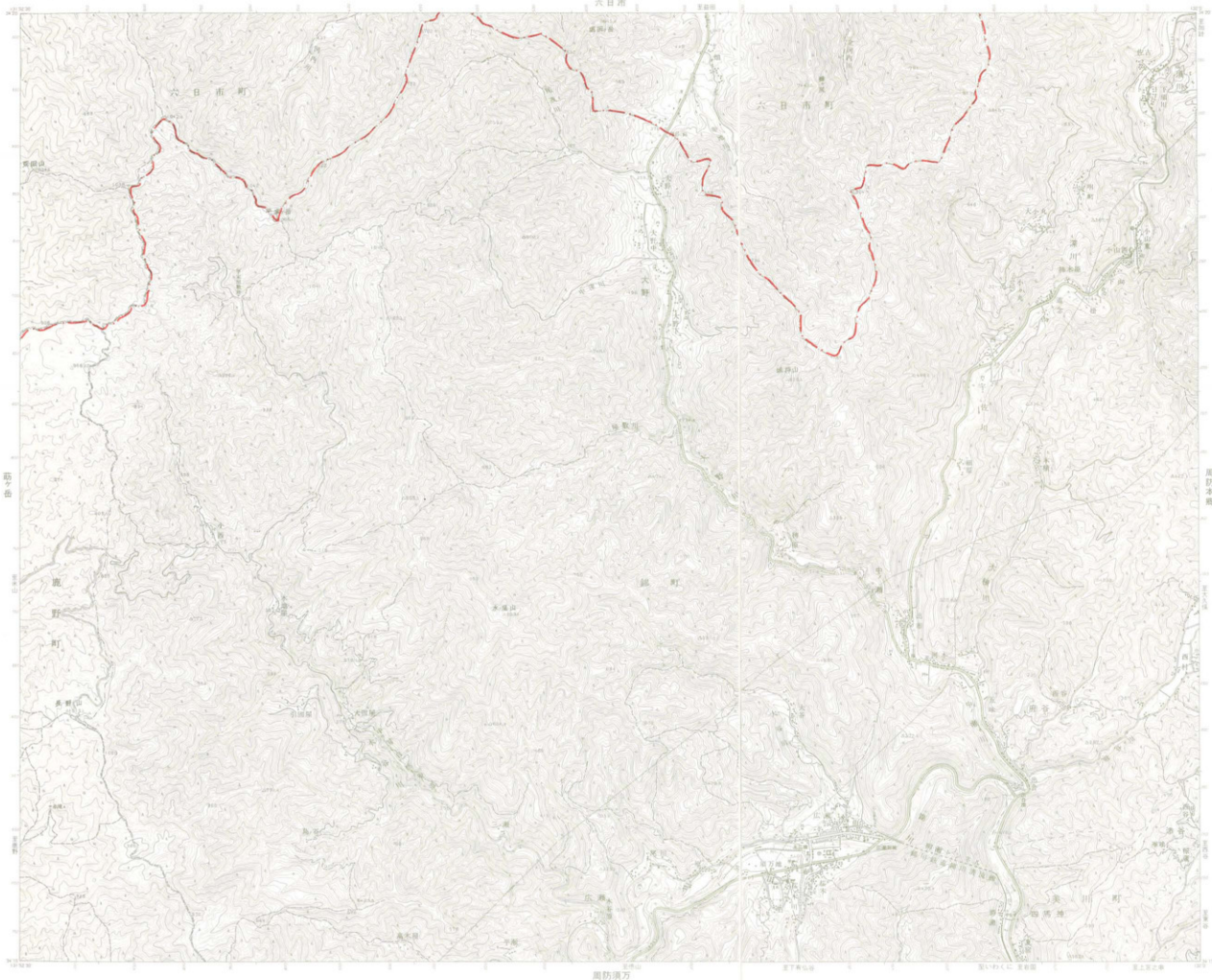
津和野 (50)	安福寺山 (44)	安福寺山 (38)
梶谷 (51)		宇佐郡 (39)
防ヶ岳 (52)	周防広瀬 (46)	周防本郷

1 : 35000



# 46. 周防広瀬

v. 鹿足郡六日市町



索引図

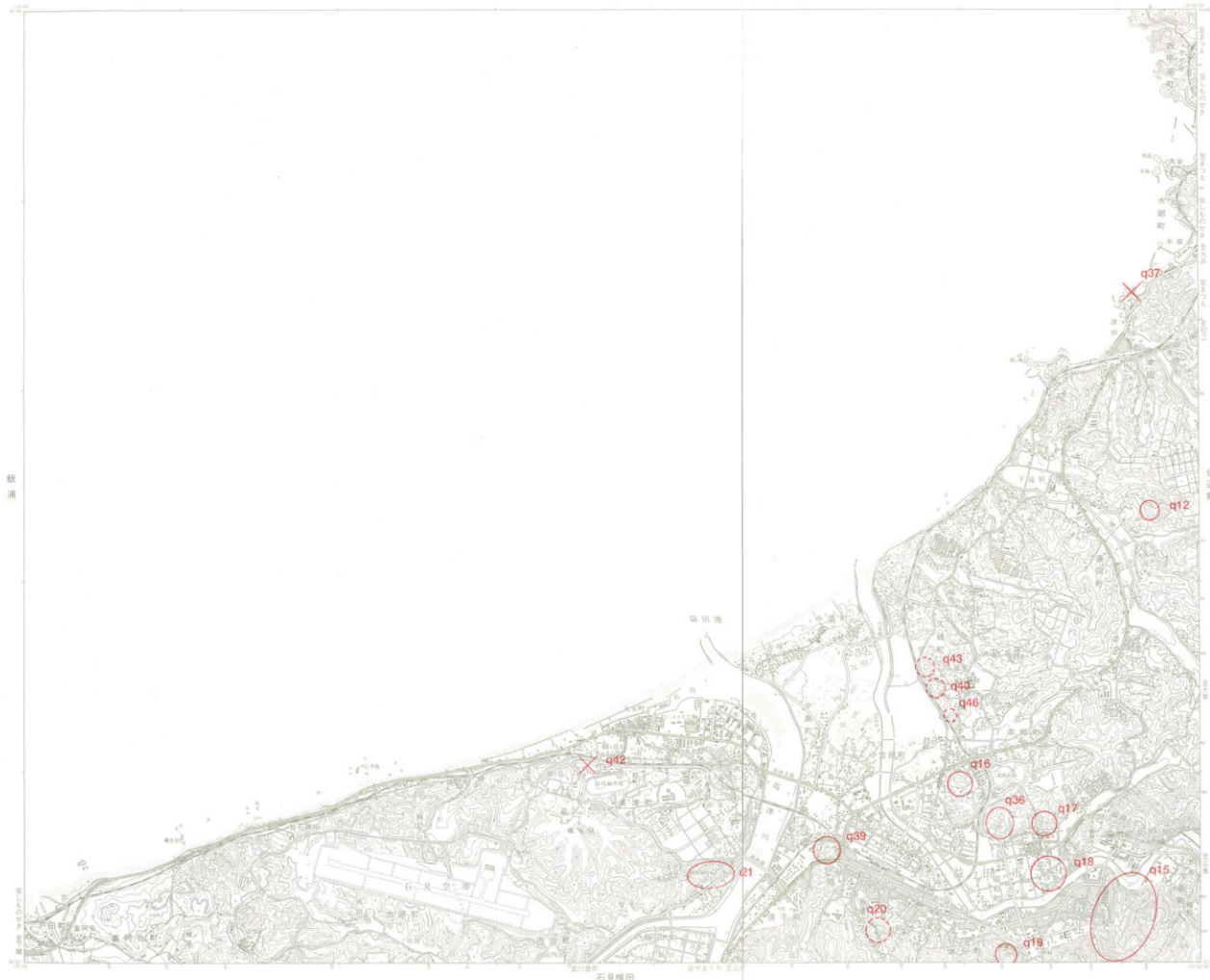
砥谷 (51)	六日市 (43)	宇佐郡 (39)
高+岳 (52)		周防本郷
周防鹿野	周防須方	萩 前

1:35000



# 47. 益 田

q. 益田市



行政区画



索引図

		三 沢 町 (40)
飯 橋 町 (53)		仙 道 町 (41)
江 崎 町 (54)	石 見 横 田 町 (48)	那 茂 町 (42)

1 : 35000



# 48. 石見横田

- q. 益田市
- t. 鹿足郡日原町



索引図

飯沼郡 (53)	益田市 (47)	仙道郡 (41)
上ノ島 (54)		郡茂郡 (42)
民門新市 (55)	日原 (49)	石谷 (43)

1 : 35000





# 49. 日原

- q. 益田市
- t. 鹿足郡日原町
- w. 鹿足郡津和野町

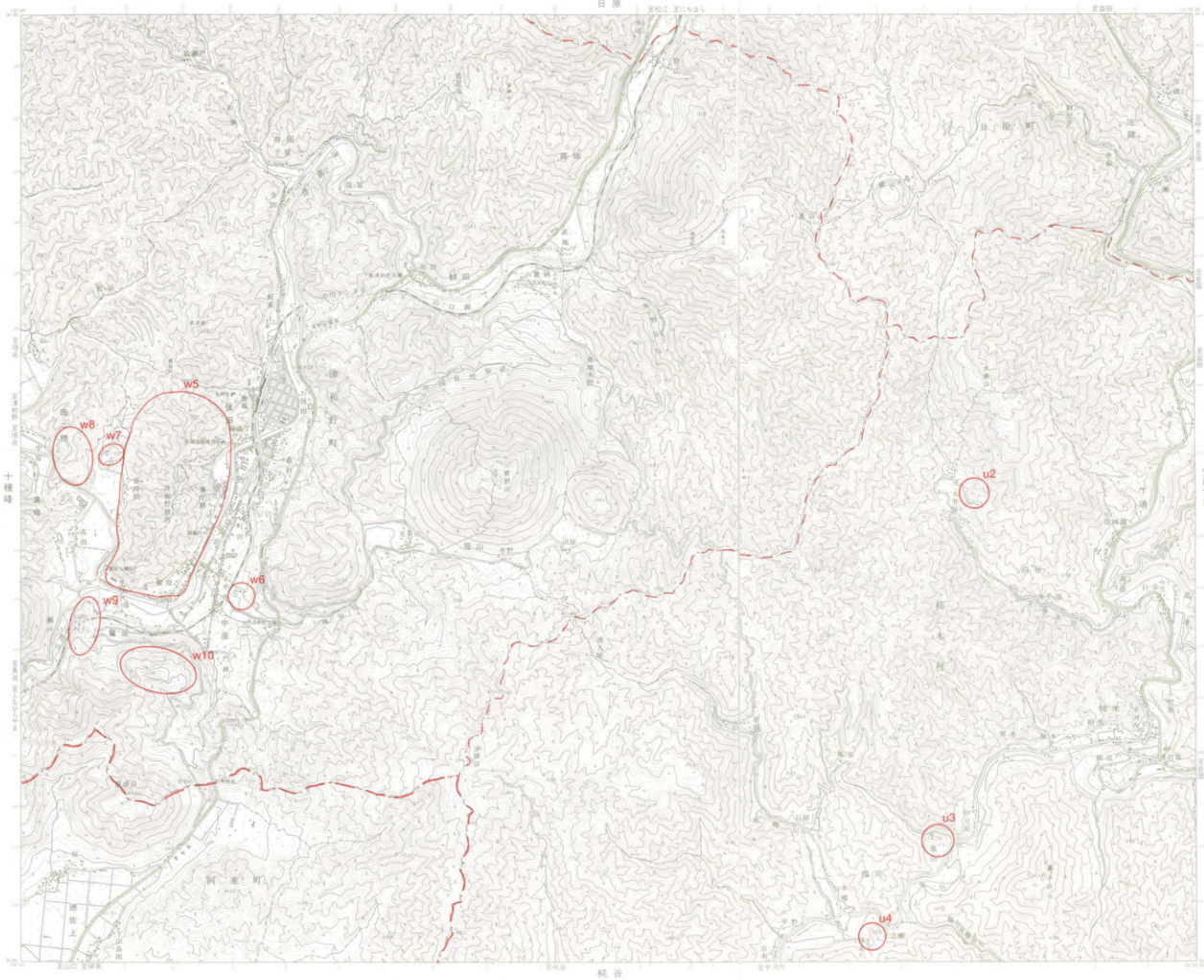


索引図

江崎 (54)	石見横田 (48)	栃茂郡 (42)
真門新市 (55)		石谷 (43)
十種峰 (56)	津和野 (50)	安藤沖山 (44)

1 : 35000





## 50. 津和野

- t. 鹿足郡日原町
- u. 鹿足郡柿木村
- w. 鹿足郡津和野町



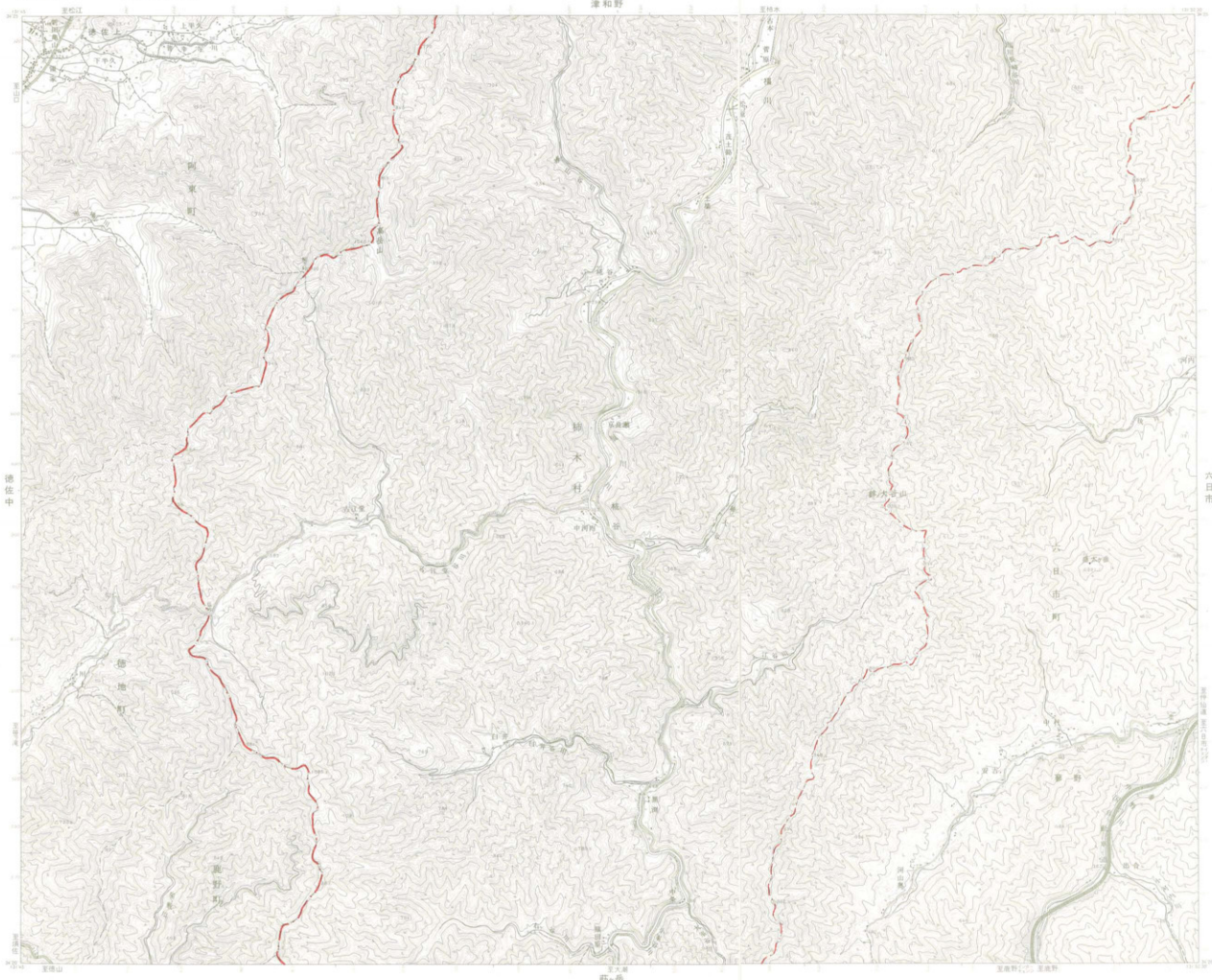
索引図

長門新市 (55)	日原 (49)	石谷 (43)
十津峰 (54)		安藏寺山 (44)
徳住中	梶谷 (51)	六日市 (45)

1 : 35000







# 51. 椹谷

- u. 鹿足郡柿木村
- v. 鹿足郡六日市町



索引図

十層峰 (56)	津和野 (50)	安楽寺山 (44)
徳佐中		六日市 (43)
大原湖	高ヶ岳 (52)	周防式瀬 (46)

1:35000





## 52. 筋ヶ岳

- u. 鹿足郡柿木村
- v. 鹿足郡六日市町



索引図

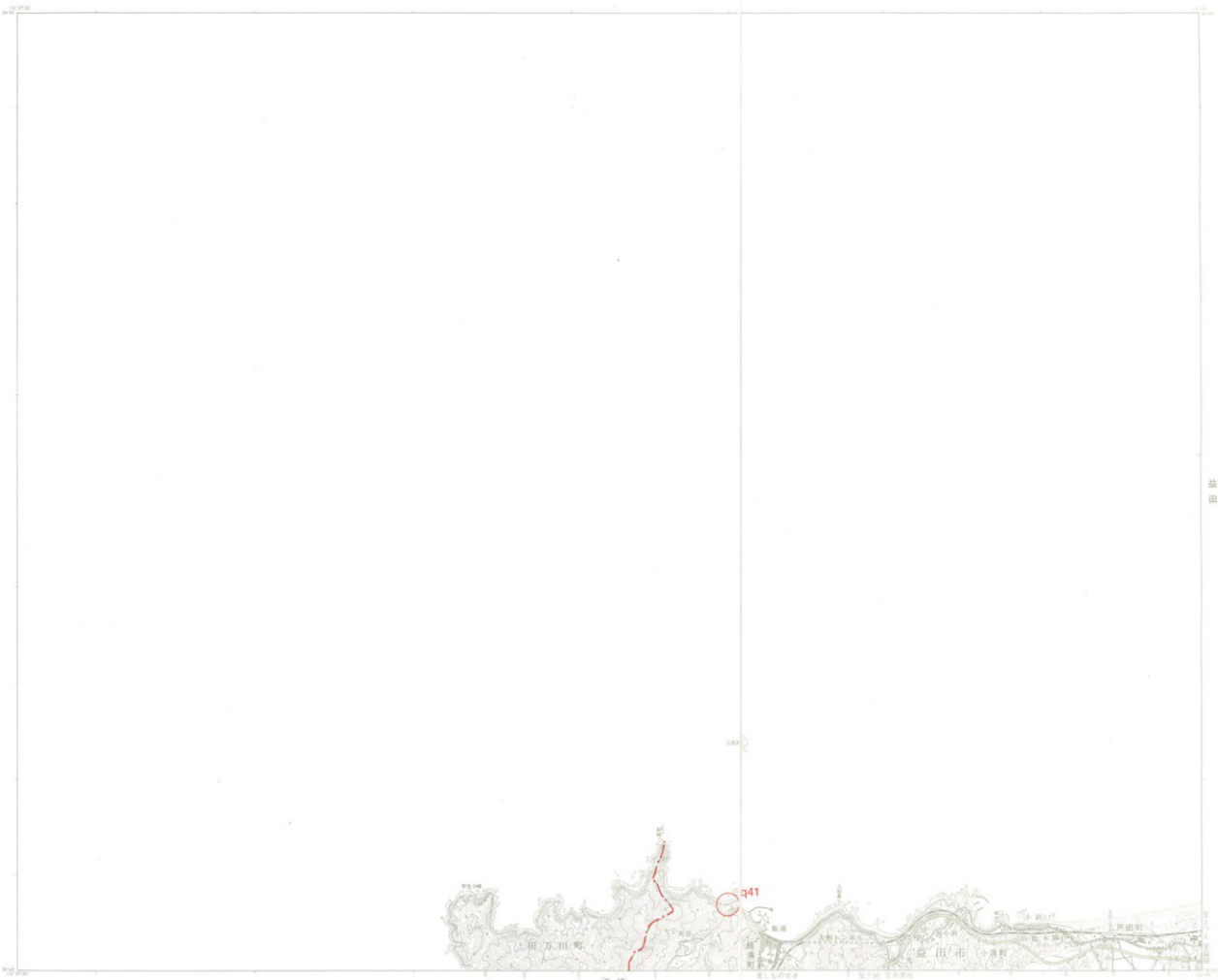
徳佐中	萩谷 (51)	六日市 (45)
大原町		周防広瀬 (46)
周	周防鹿野	周防須乃

1:35000



# 53. 飯 浦

q. 益田市



益  
田



索引図

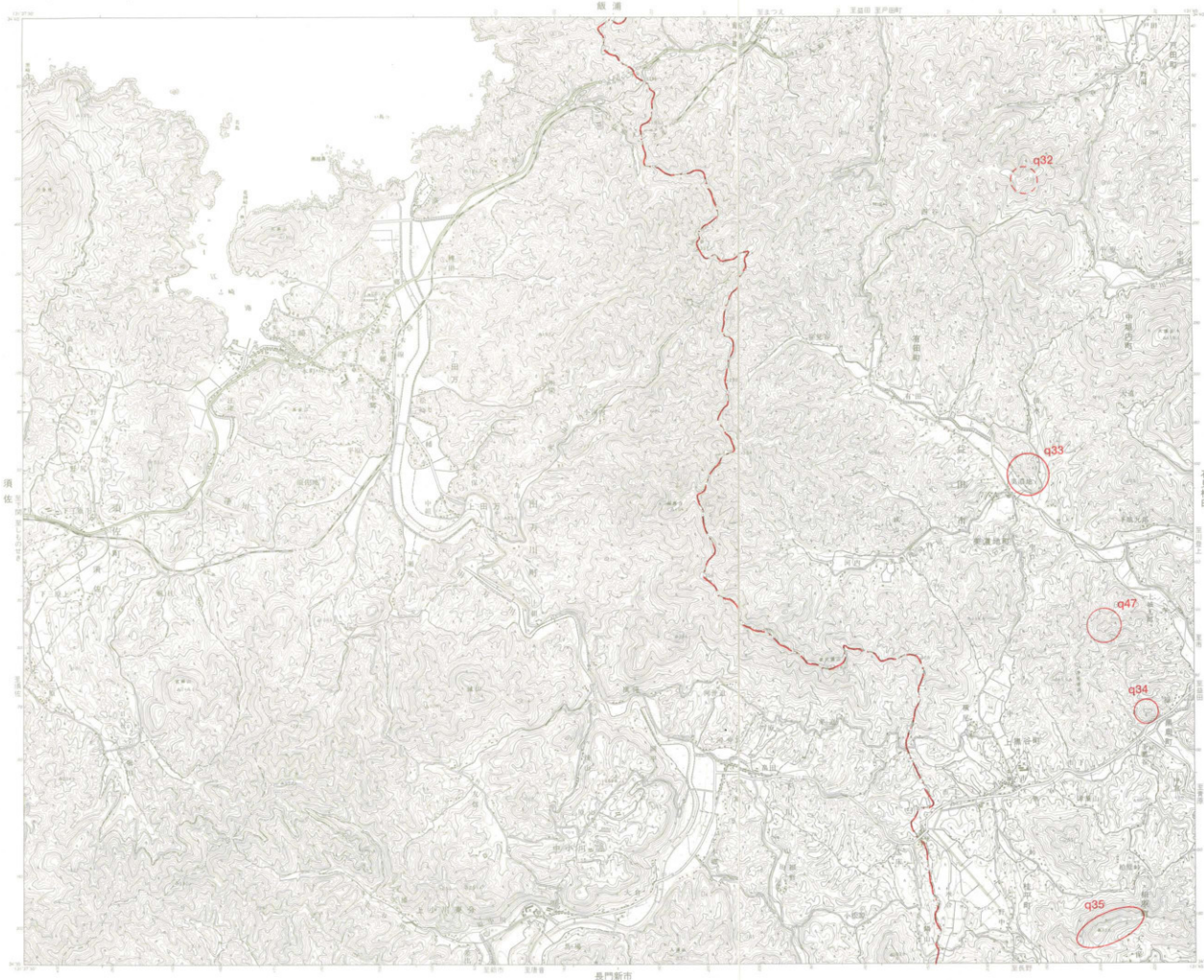
		益 田 (47)
須 佐	江 崎 (54)	石見横田 (48)

1 : 35000



# 54. 江 崎

q. 益田市



行政区画



索引図

	新 湊 (53)	益 田 (47)
須 佐		石見横田 (48)
宇 田	長門新市 (55)	日 原 (49)

1 : 35000



# 55. 長門新市

- q. 益田市
- t. 鹿足郡日原町
- w. 鹿足郡津和野町



行政区画



索引図

須佐 (54)	江崎 (54)	石見横田 (48)
宇田		日原 (49)
長門広瀬	十津峠 (50)	津和野 (50)

1:35000



# 56. 十種峰

w. 鹿足郡津和野町



索引図

宇田	奥門新市 (35)	日原	(49)
奥門広瀬		津和野	(50)
生雲中	徳佐中	梶谷	(51)

1 : 35000



### 3 城館跡一覧

#### 表の見方

- 1 調査対象とした全ての箇所を、調査員から提出された調査カードをもとに一覧表とした。
- 2 〈遺跡番号〉は、頭に各市町村に宛がった a-w の略号を付し、続いて市町村ごとの一連番号を付けた。  
(例) 大田市: a1, a2, a3…  
この番号は、本書の第Ⅱ章「2 城館跡分布図」「4 主要城館跡の解説・略測図」と共通し、太字の城館跡は「4 主要城館跡の解説・略測図」に掲載するものである。  
なお、城館跡の位置が、複数の市町村に含まれる場合は、それぞれの市町村ごとに番号を付けた。
- 3 〈名称〉は、原則として調査カードに記入されたものに従った。ただし、より一般的な名称がある場合はそれを用いた。なお、新発見の城館跡については、地名などから新たに付けた。
- 4 〈所在地〉は、原則として大字まで記した。複数の市町村にまたがる際は、それぞれ市町村の地名によった。
- 5 〈現状〉は、原則として調査カードに記入された「山林・水田・畑・社寺境内・宅地・その他」の区別に従った。
- 6 〈保存状況〉は、原則として調査カードに記入された「良・やや良・不良・消滅」の区別に従った。
- 7 〈立地〉は、城館跡の地形をもとに事務局が記した。
- 8 〈標高〉は、原則として調査カードの記述をもとに、最高所の郭を基準としたものである。ただし、地図上で略測値であり、数値はおよその目安にとどまるものである。
- 9 〈遺構の内容〉は、現地踏査で確認できる明確なもの及び発掘調査で検出されたものを記した。
- 10 〈地図番号〉は、本書第Ⅱ章「2 城館跡分布図」の地図番号である。
- 11 〈備考欄〉は、別称、指定文化財などの特記事項を記した。

遺跡 番号	名 称	所 在 地	現 状	保 存 状 況	立 地	標高 m	遺 構 の 内 容	地図 番号	備 考
<b>a 大 田 市</b>									
a 1	城山城跡	三瓶町志学	山林他	—	丘陵頂部	—	—	2	明確な遺構無し
a 2	城蓋城跡	朝山町朝倉	山林	—	丘陵頂部	—	—	8	明確な遺構無し
a 3	朝倉意命神社館跡	朝山町朝倉	社寺境内	—	丘陵麓部	—	—	8	明確な遺構無し 館跡の可能性あり
a 4	要害山城跡	富山町山中	山林	良	丘陵頂部	299	郭、腰郭、土塁、石垣、虎口	8	富山要害山城 重蔵山要害山城
a 5	土居館跡	富山町土居	水田、畑 宅地	良	丘陵麓部	160	郭	8	
a 6	才坂要害山城跡	富山町本郷	山林	良	丘陵頂部	282	郭、石垣、堀切、堅堀	8	
a 7	小屋原城跡	三瓶町小屋原	山林	良	丘陵麓部	280	郭	9	
a 8	茶臼山城跡	三瓶町	山林	良	丘陵頂部	485	郭、堀切	9	
a 9	旭山城跡	波根町上川内	山林	良	丘陵頂部	129	郭、堀切	8	上川内砦
a 10	刺鹿城跡	波根町中浜	山林、社 寺境内他	—	丘陵頂部	—	—	8	明確な遺構無し
a 11	鰐走城跡	久手町柳瀬	山林	やや良	半島頂部	45	郭	8	
a 12	岩山城跡	久手町刺鹿	山林	良	丘陵頂部	100	郭、堀切、横堀、櫓台	8	
a 13	段山城跡	久手町刺鹿	山林	良	丘陵頂部	200	郭、土塁、石垣、堀切	8	
a 14	松山城跡	大田町松山	山林	良	丘陵頂部	167	郭、帯郭、堅堀、虎口	8	大田城、大田要害山城
a 15	常見の要害城跡	大田町末広	山林、社 寺境内	良	丘陵先端	50	郭、堀切	8	
a 16	吉永陣屋跡	川合町吉永	山林、畑 社寺境内	やや良	丘陵麓部	50	郭、腰郭、土塁、虎口	8、9	
a 17	瓜坂城跡	川合町野城	山林	良	丘陵頂部	220	郭	9	
a 18	鶴降山城跡	川合町鶴府	山林	良	丘陵頂部	538	郭	9	
a 19	鱒ヶ城跡	川合町出岡	山林	良	丘陵頂部	110	郭、土塁、堀切、堅堀、横堀、虎口	9	
a 20	亀谷城跡	川合町忍原	山林	良	丘陵頂部	230	郭	9	
a 21	石阿城跡	烏井町烏井	山林	やや良	丘陵頂部	83	郭、土塁	14	
a 22	金子城跡	烏井町烏井	—	—	—	—	—	14	明確な遺構無し、所在不詳
a 23	貝浪城跡	長久町長久	山林	—	丘陵頂部	—	—	14	明確な遺構無し
a 24	稲用城跡	長久町稲用	山林	良	独立丘陵	69	郭	14	
a 25	城山城跡	久利町畑ヶ中	山林、畑	やや良	丘陵頂部	148	郭、土塁	15	
a 26	赤城跡	久利町久利	—	—	—	—	—	15	明確な遺構無し、所在不詳
a 27	市城跡	久利町市原	山林、畑	やや良	丘陵頂部	160	郭、腰郭、土塁、堀切	15	市原城、市原砦



遺跡番号	名称	所在地	現状	保存状況	立地	標高m	遺構の内容	地図番号	備考
a 28	泊山城跡	五十猛町五十猛	畑	やや良	丘陵麓部	40	郭	14	
a 29	唐郡山城跡	五十猛町五十猛	山林	やや良	丘陵頂部	122	郭	14	
a 30	上草ヶ城跡	大森町銀山	山林	やや良	丘陵頂部	310	郭、腰郭	15	b 13と同じ
a 31	山吹城跡	大森町銀山	山林他	良	丘陵頂部 ～麓部	414	郭、帯郭、土塁、石垣堀切、連続堅堀、虎口	15	要害山城〈国史跡〉 b 16と同じ
a 32	高城跡	祖式町上町	山林	良	丘陵頂部	500	郭、土塁、堀切、櫓台	16	祖式城
a 33	矢滝城跡	祖式町矢滝	山林	やや良	丘陵頂部	634	郭、腰郭、堀切、堅堀虎口	16	c 3と同じ
a 34	神田城跡	大代町大家	山林	不良	丘陵頂部	300	郭、腰郭	16	丸山城
a 35	万邊山城跡	大代町大家	山林	やや良	丘陵頂部	320	郭、帯郭	16	
a 36	尾崎山城跡	大代町大家	山林	良	丘陵頂部	320	郭、腰郭、土塁、堀切	16	
a 37	大嶽山城跡	大代町大家	山林	良	丘陵頂部	360	郭、帯郭、腰郭、土塁堀切、堅堀、虎口	16	
a 38	蓬城寺山城跡	大代町大家	山林	やや良	独立丘陵	360	郭	16	大倉山城 c 10と同じ
a 39	赤城跡	大代町下谷	山林	やや良	丘陵頂部	400	郭、腰郭、土塁	16	c 12、i 13と同じ
a 40	郡代屋敷跡	三瓶町小屋原	宅地	良	丘陵麓部	280	郭、石垣	9	
a 41	矢筈山城跡	山口町山口	社寺境内	不良	丘陵頂部	450	郭、井戸	1	矢筈山城
a 42	多根要害山城跡	三瓶町多根	山林	やや良	丘陵頂部	450	郭	8	
a 43	天神城跡	大代町新屋	山林	—	—	—	—	16	未踏査につき遺構不明
a 44	仙ノ山城郭群	大森町銀山	山林	やや良	丘陵頂部	537	郭	15	

#### b 遼摩郡仁摩町

b 1	復城跡	大字宅野	山林	やや良	丘陵先端	32	郭、堀切	14、15	
b 2	鴨城跡	大字宅野	山林	やや良	丘陵先端	40	郭、腰郭	15	
b 3	宅野城跡	大字宅野	山林	やや良	丘陵頂部	130	郭、横堀	15	
b 4	石見城跡	大字大國	山林	やや良	丘陵頂部	153	郭、帯郭、土塁、堀切	15	石見山城
b 5	大國城跡	大字大國	山林	やや良	丘陵頂部	164	郭、土塁	15	大國要城
b 6	天垣内城跡	大字天河内	山林	やや良	丘陵頂部	130	郭、堀切	15	天河内城
b 7	仁万要城跡	大字仁万	山林	やや良	丘陵頂部	77	郭、帯郭、土塁	15	仁万古城山城
b 8	虹ヶ谷城跡	大字大國	山林	やや良	丘陵先端	90	郭、堀切	15	虹ヶ城
b 9	茶臼山城跡	大字大國	山林	やや良	丘陵頂部	120	郭	15	茶臼谷城

遺跡 番号	名 称	所 在 地	現 状	保 存 状 况	立 地	標高 m	遺 構 の 内 容	地図 番号	備 考
b 10	半城跡	大字天河内	山林	やや良	丘陵頂部	110	郭、堀切	15	
b 11	狐城跡	大字馬路町	山林	やや良	丘陵頂部	100	郭、腰郭	15	
b 12	乙見城跡	大字馬路町	山林	不良	丘陵頂部	313	郭	15	
b 13	上草ヶ城跡	大字大國	山林	やや良	丘陵頂部	310	郭、腰郭	15	a 30と同じ
b 14	草ヶ城跡	大字大國	山林	不良	丘陵斜面	180	郭、石垣	15	
b 15	一夜城跡	大字大國	山林	やや良	丘陵頂部	191	郭	15	
b 16	山吹城跡	大字大國	山林他	良	丘陵頂部 ～麓部	414	郭、帯郭、土塁、石垣 堀切、連続堅堀、虎口 構合	15	要害山城〈国史跡〉 a 31と同じ
b 17	平田城跡	大字大國	山林	やや良	丘陵頂部	274	郭	15	
b 18	鍋ヶ城跡	大字大國	山林	やや良	丘陵先端	230	郭、堀切	15	
b 19	矢筈城跡	大字大國	山林	良	丘陵頂部	480	郭、土塁、石垣、堀切 堅堀、虎口	15	c 1と同じ 前矢滝城？

#### c 瀬摩郡温泉津町

c 1	矢筈城跡	大字湯里	山林	良	丘陵頂部	480	郭、土塁、石垣、堀切 堅堀、虎口	15	b 19と同じ 前矢滝城？
c 2	温泉城跡	大字湯里	山林	良	丘陵先端	100	郭、土塁、堀切	15	
c 3	矢滝城跡	大字湯里、西 田	山林	やや良	丘陵頂部	634	郭、腰郭、堀切、堅堀 虎口	16	a 33と同じ
c 4	三子山城跡	大字荻村	山林	良	丘陵頂部	560	郭、腰郭、堀切	16	
c 5	櫛島城跡	大字温泉津 (櫛島)	山林	やや良	島麓	37	郭、腰郭、土塁	20	櫛山城？
c 6	鶴丸城跡	大字温泉津	山林	やや良	丘陵先端	59	郭、帯郭、土塁	20	
c 7	笠島城跡	大字温泉津	山林	不良	丘陵先端	38	郭	20	
c 8	妙見山城跡	大字福波	山林	良	丘陵頂部	80	郭、帯郭、腰郭、土塁 堀切	21	
c 9	物不言城跡	大字福波	山林	良	丘陵頂部	100	郭、土塁、石垣	21	福光城、不言城
c 10	蓮城寺山城 跡	大字井田	山林	やや良	独立丘陵	360	郭	16	大倉山城 a 38と同じ
c 11	横道城跡	大字井田	畑、宅地 他	消滅	丘陵先端	—	—	16	削平等により大半消滅
c 12	赤城跡	大字井田	山林	やや良	丘陵頂部	400	郭、腰郭、土塁	16	a 39、i 13と同じ
c 13	殿村城跡	大字井田	山林	良	丘陵頂部	340	郭、腰郭、堀切	16	高越城
c 14	要害山城跡	大字井田	山林	良	丘陵頂部	482	郭、石垣、堀切、堅堀	16	
c 15	井田城跡	大字井田	山林	良	丘陵頂部	370	郭、土塁、堀切	16, 21	弥山城
c 16	水黒城跡	大字井田	山林	やや良	丘陵頂部	280	郭、腰郭	16, 21	

遺跡番号	名称	所在地	現状	保存状況	立地	標高m	遺構の内容	地図番号	備考
c 17	御神木城跡	大字井田	宅地他	—	丘陵麓部	—	—	16	明確な遺構無し

#### d 江 津 市

d 1	波来浜大火 穴城跡	後地町波来浜	山林	不良	丘陵頂部	34	郭	21	
d 2	砥谷城跡	波積町本郷	山林	不良	丘陵頂部	92	郭	21	
d 3	利光城跡	波積町本郷	山林	—	—	—	—	21	山が荒れ踏査不可能
d 4	城山城跡	都治町上都治	山林	やや良	丘陵先端	60	郭、堀切	21	
d 5	森の城跡	都治町上都治	山林、畑 宅地他	やや良	丘陵先端	40	郭、堀切	21	一部踏査不可能
d 6	埋築城跡	都治町上都治	山林、宅 地	—	—	—	—	21	明確な遺構無し、所在不詳
d 7	田中城跡	都治町上都治	山林	不良	丘陵頂部	80	—	21	山が荒れ踏査不可能
d 8	佐賀里松城 跡	都治町下都治	山林	良	丘陵先端	52	郭、土塁、堀切	21	要害山城
d 9	今井城跡	都治町下都治	山林、畑 宅地	—	—	—	—	21	明確な遺構無し、所在不詳
d 10	半蔵城跡	松川町畑田	山林	—	丘陵頂部	—	—	21	明確な遺構無し
d 11	林城跡	松川町上津井	山林	やや良	丘陵頂部	232	郭、堀切	22	
d 12	堂床遺跡	松川町市村	山林	—	—	—	土塁？	21	明確な遺構無し、所在不詳
d 13	川上館跡	松川町市村	山林	—	丘陵麓部	—	石列？	21	明確な遺構無し
d 14	堂ヶバナ遺 跡	松川町市村	山林	—	丘陵先端	63	堀切？	21	一部踏査不可能
d 15	松山城跡	松川町市村	山林	良	丘陵頂部	145	郭、腰郭、土塁、堀切 連続堅堀、井戸	21、22	川上城、河上城
d 16	殿畑館跡	松川町市村	山林	—	丘陵頂部	—	—	22	明確な遺構無し
d 17	膳城跡	松川町上長良	山林	良	丘陵頂部	148	郭、土塁、堀切、堅堀	22	籠城
d 18	四つ地藏城 跡	浅利町奥口	山林	やや良	丘陵麓部	67	郭	21	福富城
d 19	雄雄城跡	浅利町	—	—	—	—	—	21	明確な遺構無し、所在不詳
d 20	平山城跡	川平町南川上	山林	—	丘陵頂部	—	—	22	明確な遺構無し
d 21	千本崎城跡	松川町太田	山林	不良	丘陵先端	84	郭	21	一部踏査不可能
d 22	鎌溝城跡	渡津町塩田	山林	不良	丘陵先端	—	—	25	鎌城、嘉万城、一部踏査不可能
d 23	大和田城跡	渡津町長田	山林	—	—	—	—	25	山が荒れ踏査不可能 大渡津城
d 24	蟹ヶ追城跡	渡津町長田	山林	不良	丘陵頂部	57	郭	25	要害城
d 25	龜山城跡	江津町本町	山林	不良	丘陵先端	30	郭	25	一部踏査不可能

遺跡 番号	名 称	所 在 地	現 状	保 存 状 况	立 地	標高 m	遺 構 の 内 容	地図 番号	備 考
d 26	月出城跡	金田町千金	山林	不良	丘陵先端	150	郭	26	一部踏査不可能
d 27	たつ川城跡	跡市町小原	山林	—	丘陵先端	—	—	22	明確な遺構無し
d 28	阿刀城跡	跡市町跡市	山林	不良	丘陵先端	120	郭	26	一部踏査不可能
d 29	神村城跡	二宮町神村	山林	やや良	丘陵先端	110	郭、土塁、塹堀	26	
d 30	神主城跡	二宮町神主	山林	良	丘陵頂部	88	郭、腰郭、土塁	26	高田城跡 一部発掘調査有
d 31	加志岐城跡	有福温泉町湯町	山林	やや良	丘陵先端	100	郭、土塁、堀切、塹堀	26	
d 32	福田城跡	有福温泉町本明	社寺境内	不良	独立丘陵	137	郭、土塁、堀切	26	
d 33	本明城跡	有福温泉町本明	山林	良	丘陵頂部	417	郭、帯郭、腰郭	26	乙明城跡、福屋城跡 <市指定> n 1と同じ
d 34	殿蜂城跡	波子町	山林他	—	独立丘陵	—	—	26	明確な遺構無し
d 35	尾上城跡	波子町	山林	不良	独立丘陵	20	郭、石垣	26	一部踏査不可能

#### e 邑智郡邑智町

e 1	泉山城跡	大字酒谷	山林	やや良	丘陵頂部	640	郭、土塁、堀切、塹堀	3	
e 2	花の谷城跡	大字片山	山林	—	—	—	—	3	明確な遺構無し
e 3	九日市城跡	大字九日市	山林、畑	良	丘陵麓部	199	郭	3	
e 4	木積三高城跡	大字千原	山林	—	丘陵頂部	—	—	3	明確な遺構無し
e 5	熊見小丸城跡	大字熊見	山林	良	丘陵頂部	250	郭	3	
e 6	的場小丸城跡	大字熊見	山林、畑	不良	丘陵頂部	130	郭、帯郭、堀切	3	
e 7	登丸ヶ丸城跡	大字熊見	山林	やや良	丘陵頂部	549	郭、堀切	3	f 1と同じ
e 8	赤城跡	大字粕瀬	山林	不良	丘陵頂部	347	郭、腰郭、土塁	9	氏永城?
e 9	久保城跡	大字久保	山林	やや良	丘陵頂部	160	郭、堀切	10	
e 10	八幡城跡	大字浜原	公園 山林	清滅	丘陵頂部	—	—	10	唐樋山城、公園化により削平
e 11	小丸畑城跡	大字上川戸	山林	良	丘陵頂部	130	郭、堀切	10	
e 12	信喜狐城跡	大字信喜	山林	やや良	丘陵麓部	100	郭	3,10	与右衛門館
e 13	竜岩寺城跡	大字久保	学校地 山林	不良	丘陵部	—	郭? 塹堀?	10	遺構の一部が残存
e 14	井戸ノ丸城跡	大字亀	山林	不良	丘陵頂部	—	—	10	削平され遺構が不明確
e 15	安右工門城跡	大字滝原	山林	良	丘陵頂部	294	郭、腰郭、帯郭、堀切	10	安右工門山城
e 16	九屋城跡	大字葉瀬	山林	良	丘陵頂部	424	郭、帯郭、腰郭	10	野山城

遺跡 番号	名称	所在地	現 状	保 存 状 況	立 地	標高 m	遺 構 の 内 容	地 図 番 号	備 考
e 17	青杉城跡	大字高山	山林	良	丘陵頂部	494	郭、腰郭、土塁、虎口	10	青杉ヶ城
e 18	鼓ヶ崎城跡	大字明塚	山林	良	丘陵頂部	358	郭、帯郭、腰郭、塹堀	10	
e 19	奥山城跡	大字奥山	山林	—	丘陵先端	—	—	10	発掘調査されたが明確な遺構、遺物無し
e 20	松尾城跡	大字吾郷	山林	やや良	丘陵頂部	238	郭、腰郭、土塁	10	
e 21	矢剣城跡	大字乙原	山林	良	丘陵頂部	527	郭、堀切	10	
e 22	小松地城跡	大字小松地	山林他	やや良	丘陵頂部	340	郭	9	
e 23	松尾山城跡	大字志君	山林	—	丘陵頂部	—	—	10	未踏査につき遺構不明
e 24	元山城跡	大字志君	山林	不良	丘陵頂部	421	郭、腰郭	10	
e 25	京覧原城跡	大字京覧原	山林	良	丘陵頂部	257	郭、堀切	10	
e 26	蛇籠山城跡	大字吾郷	山林	不良	丘陵頂部	366	郭、腰郭、堀切、櫓台	10	
e 27	陣ヶ曾根城跡	大字地頭所	山林	不良	丘陵頂部	310	帯郭、腰郭	10	
e 28	地頭所城跡	大字地頭所	山林	良	丘陵頂部	232	郭、堀切	10	地頭所古城
e 29	銅ヶ丸城跡	大字乙原	山林	やや良	丘陵頂部	214	郭、腰郭	11	

#### f 邑智郡大和村

f 1	登矢ヶ丸城跡	大字三朝	山林	やや良	丘陵頂部	549	郭、堀切	3	e 7 と同じ
f 2	潮城跡	大字潮村	山林	良	丘陵頂部	424	郭、土塁	3	
f 3	艾城跡	大字都賀行	山林	—	丘陵頂部	—	—	10	未踏査につき遺構不明
f 4	狼城跡	大字長藤	山林	—	丘陵頂部	—	—	4	未踏査につき遺構不明
f 5	天城跡	大字長藤	山林	—	丘陵頂部	—	—	4	神城 未踏査につき遺構不明
f 6	荒滝城跡	大字長藤	山林	不良	丘陵頂部	313	郭、腰郭	4	
f 7	水玉山城跡	大字都賀行	山林	良	丘陵頂部	130	郭、堀切	11	
f 8	水玉城出城跡	大字都賀行	山林	—	丘陵麓部	—	—	11	明確な遺構無し
f 9	高梨城跡	大字都賀行	山林	やや良	丘陵頂部	178	郭、堀切、塹堀、連続塹堀	11	
f 10	古城跡	大字都賀行	山林	—	丘陵頂部	—	—	11	未踏査につき遺構不明
f 11	竹城跡	大字長藤	山林	—	丘陵頂部	—	—	4	明確な遺構無し
f 12	都賀原城跡	大字都賀本郷	山林	良	丘陵頂部	310	郭、腰郭、堀切	4	熊ヶ城、藤原城
f 13	都賀東城跡	大字都賀本郷	山林	良	丘陵頂部	240	郭、腰郭、土塁、堀切 塹堀、連続塹堀	4	大原城、比丘尼城

遺跡 番号	名 称	所 在 地	現 状	保 存 状 況	立 地	標高 m	遺 構 の 内 容	地図 番号	備 考
f 14	上野城跡	大字上野	山林	やや良	丘陵頂部	288	郭、帯郭、腰郭、土塁 堀切、堅堀	4	
f 15	都賀南城跡	大字上野	山林	—	丘陵頂部	—	—	4	明確な遺構無し
f 16	要路城跡	大字都賀西	山林	良	丘陵頂部	280	郭、帯郭、腰郭、土塁 石垣、堀切、堅堀、櫓 台	4	丁城、養老城
f 17	尼子陣所跡	大字都賀西	山林	やや良	丘陵頂部	273	郭、帯郭、腰郭	4	一部発掘調査有
f 18	陣山城跡	大字都賀西	山林	不良	丘陵頂部	433	郭、帯郭、堀切、堅堀	4	陣床城、陣所城
f 19	土俣小丸山 城跡	大字比叡	山林	—	丘陵頂部	—	—	11	明確な遺構無し
f 20	高丸城跡	大字村之郷	山林	—	丘陵頂部	—	—	11	明確な遺構無し
f 21	山南城跡	大字村之郷	社寺境内	不良	丘陵麓部	—	—	11	明確な遺構無し
f 22	宮内城跡	大字宮内	山林	良	丘陵頂部	383	郭、腰郭	11	

#### g 邑智郡羽須美村

g 1	名刺城跡	大字上田	山林	やや良	丘陵頂部	362	郭	5	妙見城
g 2	比丘人城跡	大字下口羽	山林	やや良	丘陵先端	230	郭、堀切	5	
g 3	琵琶甲城跡	大字下口羽	山林	良	丘陵頂部	280	郭、腰郭、土塁、石垣 堀切、堅堀、連続堅堀 虎口	5	矢羽城
g 4	高畑城跡	大字下口羽	山林	良	丘陵頂部	361	郭	5	
g 5	幡屋城跡	大字下口羽	山林	良	丘陵頂部	320	郭、堀切、堅堀	5	
g 6	横尾城跡	大字上田	山林	良	丘陵頂部	301	郭、堀切、堅堀	5	児玉城
g 7	比丘人城跡	大字上田	山林	やや良	丘陵先端	260	郭、土塁	5	
g 8	宇都井城跡	大字宇都井	山林	良	丘陵頂部	260	郭、堀切、堅堀	5、12	今井城、龍山城、萬の 巢城
g 9	溝本城跡	大字宇都井	山林	やや良	丘陵頂部	223	郭、石垣、堀切	5	
g 10	鷲影城跡	大字阿須那	山林	良	丘陵頂部	422	郭、帯郭、堀切、堅堀	5	
g 11	千日城跡	大字阿須那	山林	やや良	丘陵頂部	309	郭、堀切、堅堀	12	
g 12	比丘尼城跡	大字阿須那	山林	やや良	丘陵麓部	210	郭	12	
g 13	藤掛城跡	大字阿須那	山林	良	丘陵頂部	358	郭、堀切、堅堀、櫓台	12	藤根城
g 14	観音城跡	大字曹田	山林	やや良	丘陵先端	260	郭、帯郭、土塁、堅堀	12	
g 15	坂本城跡	大字曹田	山林	やや良	丘陵頂部	350	郭、腰郭、堀切、堅堀	12	
g 16	殿畑城跡	大字上田	畑	—	丘陵麓部	—	—	5	明確な遺構無し

遺跡 番号	名称	所在地	現状	保存 状況	立地	標高 m	遺構の内容	地図 番号	備考
<b>h 邑智郡瑞穂町</b>									
h 1	城平城跡	大字布施	山林	良	丘陵頂部	510	郭、帯郭、腰郭	11	長源地奥谷城
h 2	布施城跡	大字布施	山林	良	丘陵頂部	500	郭、帯郭、堀切	11	赤羽城
h 3	高野山城跡	大字布施	山林	—	丘陵頂部	—	—	11	未踏査につき遺構不明
h 4	銭宝城跡	大字八色谷	山林	良	丘陵先端	390	郭	11	
h 5	萩原城跡	大字高見	山林	良	丘陵頂部	360	郭、腰郭、堀切、堅堀	11,12	安城
h 6	中善城跡	大字高見	山林	—	丘陵先端	—	—	12	車前城、明確な遺構無し
h 7	琢道城跡	大字高見	採石場	消滅	丘陵頂部	—	—	12	採石により大半消滅 発掘調査後記録保存
h 8	別当城跡	大字和田	山林	やや良	丘陵頂部	437	郭、帯郭、腰郭、土塁 堀切	12	
h 9	弥勒城跡	大字原村	山林	やや良	丘陵頂部	360	郭、腰郭	12	陣平城
h 10	土俵城跡	大字原村	山林	—	丘陵頂部	—	—	12	宝大寺城 未踏査につき遺構不明
h 11	白鹿城跡	大字原村	山林	良	丘陵頂部	460	郭、堀切、堅堀	12	宇山城砦群に含まれる
h 12	赤城跡	大字原村	山林	やや良	丘陵頂部	510	郭、帯郭、腰郭	12	宇山城 宇山城砦群に含まれる 一部発掘調査有
h 13	毛城跡	大字原村	山林	不良	丘陵頂部	486	郭、帯郭、堀切、堅堀	12	家城 宇山城砦群に含まれる
h 14	信友城跡	大字原村	山林	やや良	丘陵先端	320	郭、堀切	12	
h 15	樹光城跡	大字原村	山林	良	丘陵先端	310	郭	12	
h 16	野田原城跡	大字上和田	畑	消滅	丘陵麓部	—	—	12	削平により消滅
h 17	黒岩城跡	大字高見	山林	良	丘陵頂部	476	郭、腰郭	12	
h 18	鼓懸城跡	大字鱒淵	山林	—	丘陵頂部	—	—	12	未踏査につき遺構不明
h 19	鳥打城跡	大字鱒淵	山林	—	丘陵頂部	—	—	12	未踏査につき遺構不明
h 20	広石城跡	大字鱒淵	山林	—	丘陵頂部	—	—	12	明確な遺構無し
h 21	二ツ山城跡	大字鱒淵	山林	良	丘陵頂部	510	郭、帯郭、土塁、石垣 堀切、堅堀	12	
h 22	福城跡	大字下田所	山林	やや良	丘陵頂部	350	郭、堀切	12	福城
h 23	土居跡遺跡	大字下田所	山林、畑	不良	丘陵麓部	350	土塁、堀切、竪堀、櫓 台	12	
h 24	本城跡	大字下田所	山林	やや良	丘陵頂部	486	郭、帯郭、堀切、連続 堅堀、櫓台	12	
h 25	城平城跡	大字岩屋	山林	良	丘陵先端	490	郭	12	
h 26	小屋ヶ丸城跡	大字岩屋	山林	—	丘陵頂部	—	—	12	削平により遺構不明確
h 27	松尾城跡	大字久喜	山林	やや良	丘陵頂部	450	郭	13	

遺跡 番号	名 称	所在地	現 状	保 存 状 況	立 地	標高 m	遺 構 の 内 容	地 図 番号	備 考
h28	小河内城跡	大字上田所	山林	やや良	丘陵頂部	410	郭、腰郭	13	
h29	大草城跡	大字上亀谷	山林	やや良	丘陵頂部	560	郭、腰郭	13	
h30	トヤゴウ城跡	大字上亀谷	山林	—	丘陵頂部	—	—	13	未踏査につき遺構不明
h31	小林城跡	大字上田所	畑、宅地	消滅	丘陵麓部	—	—	19	削平により消滅
h32	平家ヶ丸城跡	大字市木	山林	—	丘陵頂部	—	—	18	未踏査につき遺構不明
h33	的場遺跡	大字市木	墓地他	消滅	丘陵麓部	—	—	19	削平により消滅
h34	陣ヶ丸城跡	大字市木	山林	良	丘陵頂部	445	郭、腰郭	19	小武家城
h35	土居城跡	大字市木	山林	—	丘陵麓部	—	—	18	未踏査につき遺構不明
h36	高城跡	大字市木	山林	やや良	丘陵頂部	420	郭、腰郭、堀切	18	板尾城、高板尾城 一部発掘調査により記録保存、m1と同じ
h37	滝ノ屋谷城跡	大字市木	山林	不良	丘陵頂部	410	郭、帯郭、腰郭、堀切	19	一部発掘調査により記録保存
h38	堀城跡	大字市木	山林	良	丘陵頂部	360	郭、腰郭、堀切、堅堀 井戸	19	板尾城
h39	市木本陣跡	大字市木	水田、宅地	消滅	平地	286	—	18	削平等により消滅

#### 1 邑智郡川本町

i 1	高城跡	大字矢谷	山林	—	丘陵頂部	—	—	11	明確な遺構無し
i 2	赤城山城跡	大字川本	山林	やや良	丘陵頂部	390	郭、帯郭、堀切、連続 堅堀	11	赤城
i 3	会下山城跡	大字市井原	山林	やや良	丘陵頂部	330	郭、腰郭、堀切	11	
i 4	温湯城跡	大字市井原	山林	良	丘陵頂部	219	郭、腰郭、堀切、堅堀 連続堅堀、石垣	11	
i 5	空城跡	大字川内	山林他	—	丘陵先端	—	—	16	明確な遺構無し
i 6	飯の山城跡	大字谷戸	山林	良	丘陵頂部	294	郭、堀切、連続堅堀、 櫓台	17	仙岩寺城、青岩城
i 7	見張城跡	大字三俣	山林	不良	丘陵頂部	230	郭	16	
i 8	三俣城跡	大字三俣	山林	良	丘陵先端	130	郭、腰郭、堀切	16	
i 9	千本城跡	大字三俣	山林	不良	丘陵先端	60	郭、腰郭	16	
i 10	湯谷城跡	大字湯谷	山林	不良	丘陵頂部	160	郭、堀切	16	弥山城？
i 11	戸倉山城跡	大字北佐木	山林	—	丘陵頂部	—	—	16,17	殿倉山城 明確な遺構無し
i 12	白地城跡	大字南佐木	山林	不良	丘陵頂部	340	郭、腰郭、土塁	16	地元伝承では東正面丘 陵頂部を白地城と呼ぶ
i 13	赤城跡	大字北佐木	山林	やや良	丘陵頂部	400	郭、腰郭、土塁	16	a 39、c 12と同じ
i 14	正慶寺山城跡	大字南佐木	山林	良	丘陵頂部	390	郭、土塁、堀切	16,17	



遺跡番号	名称	所在地	現状	保存状況	立地	標高m	遺構の内容	地図番号	備考
i 15	築紫原城跡	大字川下	山林	良	丘陵頂部	210	郭、帯郭	17	
i 16	丸山城跡	大字三原	山林他	良	丘陵頂部	480	郭、腰郭、石垣、虎口 堀立柱建物跡、礎石	17	発掘調査有
i 17	土居城跡	大字田窪	山林	良	丘陵頂部	320	郭、帯郭、堀切、堅堀	17	
i 18	大元山城跡	大字田窪	山林	—	丘陵頂部	—	—	17	k 1 と同じ 明確な遺構無し

### j 邑智郡石見町

j 1	雲井城跡	大字井原	山林	良	丘陵頂部	429	郭、土塁、堀切	18	
j 2	稻積城跡	大字西の原	山林	やや良	丘陵頂部	240	郭、帯郭、土塁、堀切	18	
j 3	平城跡	大字井原	山林	良	丘陵頂部	230	郭、腰郭、堀切、堅堀	18	
j 4	東明寺山城跡	大字井原	山林	—	丘陵頂部	—	—	18	明確な遺構無し
j 5	源太ヶ城跡	大字中野	山林	やや良	丘陵頂部	214	郭	18	
j 6	余勢城跡	大字中野	山林	不良	丘陵麓部	211	郭、虎口	18	
j 7	郡山城跡	大字矢上	山林	不良	丘陵麓部	400	郭、土塁、堀切、堅堀	18	矢上城
j 8	牛の市城跡	大字中野	山林	不良	丘陵頂部	503	郭	17	
j 9	大谷山城跡	大字日和	山林	良	丘陵頂部	551	郭、土塁	17、18	
j 10	日和城跡	大字日和	山林	良	丘陵頂部	496	郭、帯郭、土塁、堀切 堅堀、虎口	17	金比羅城、琴平城 一部発掘調査有
j 11	城ヶ前城跡	大字日和	山林	不良	丘陵頂部	360	郭、堀切、堅堀	18	
j 12	熊ヶ峠城跡	大字矢上	山林	やや良	丘陵頂部	714	郭、帯郭	18	
j 13	大の田城跡	大字日貫	山林、宅地	不良	丘陵麓部	—	—	18	削平され遺構が不明確
j 14	土居城跡	大字日貫	水田、宅地	消滅	丘陵麓部	—	—	18	削平により消滅
j 15	丸子山城跡	大字日貫	山林	良	丘陵頂部	376	郭	18	丸子城、丸山城？
j 16	東屋城跡	大字日貫	山林	良	丘陵頂部	309	郭、石垣、堀切、堅堀 虎口	23	
j 17	土床城跡	大字日貫	山林	やや良	丘陵頂部	286	郭、帯郭、腰郭、土塁	23	
j 18	枕ヶ内城跡	大字日貫	山林	不良	丘陵頂部	255	郭	23	m 4 と同じ

### k 邑智郡桜江町

k 1	大元山城跡	大字谷住郷	山林	—	丘陵頂部	—	—	17	明確な遺構無し i 18 と同じ
k 2	古城跡	大字谷住郷	山林	良	丘陵頂部	412	郭、土塁	22	岩根城

遺跡 番号	名 称	所 在 地	現 状	保 存 状 况	立 地	標高 m	遺 構 の 内 容	地 図 番号	備 考
k 3	鍋腰城跡	大字田津	山林	やや良	丘陵頂部	348	郭	22	
k 4	森ノ小城跡	大字谷住郷	山林	不良	丘陵頂部	451	郭	22	
k 5	平野丸城跡	大字谷住郷	山林	—	丘陵頂部	—	—	22	明確な遺構無し
k 6	鳴石城跡	大字川戸	山林	良	丘陵頂部	99	郭、土塁、堀切、竈堀	22	
k 7	桜井城跡	大字小田	山林	やや良	丘陵頂部	90	郭、堀切	22	
k 8	城山城跡	大字後山	山林	良	丘陵頂部	190	郭	22	
k 9	市山城跡	大字市山	山林	良	丘陵頂部	248	郭、土塁、石垣、堀切 竪堀、虎口	22	<町指定>
k 10	江尾城跡	大字市山	山林	やや良	丘陵頂部	143	郭、堀切	22	
k 11	屋敷城跡	大字長谷	山林	やや良	丘陵頂部	220	郭、堀切	23	
k 12	大石城跡	大字谷住郷	山林、宅 地	不良	丘陵麓部	—	—	22	明確な遺構無し

### Ⅰ 浜 田 市

1 1	龍ヶ城跡	字野町森原	山林	やや良	丘陵先端	117	郭、帯郭、土塁、堀切 虎口	26	
1 2	八反原城跡	上府町三重谷	山林	良	丘陵先端	79	腰郭、土塁、堀切、櫓 台	26	
1 3	笹山城跡	下府町大字横 路	山林	やや良	丘陵先端	66	郭、腰郭、堀切	32	
1 4	小山城跡	後野町	山林	—	—	—	—	27	明確な遺構無し、所在 不詳
1 5	高手山城跡	後野町	山林	—	—	—	—	27	明確な遺構無し、所在 不詳
1 6	雲城山城跡	長見町	山林	やや良	丘陵頂部	667	郭、帯郭、井戸	28	雲来城、n 7と同じ
1 7	正蓮寺山城 跡	後野町	山林	良	丘陵頂部	171	郭、腰郭	33	
1 8	濃城跡	黒川町	山林	良	丘陵先端	80	郭	33	
1 9	三子山城跡	相生町	山林、社 寺境内	やや良	丘陵先端	140	郭、帯郭、腰郭、土塁 堀切、竈堀、虎口	33	三ツ子山城
1 10	三十城跡	牛市町	社寺境内	不良	丘陵先端	30	郭、堀切	33	
1 11	小石見城跡	原井町	山林	やや良	丘陵頂部	153	郭、帯郭、腰郭、石垣	33	
1 12	粟書山城跡	内田町	山林	やや良	丘陵頂部	166	郭、腰郭、土塁、堀切 竪堀、連続竪堀、横堀、 櫓台	33	
1 13	青ノ城跡	西村町	山林	良	丘陵先端	70	郭、堀切	33	青殿
1 14	折居城跡	折井町	山林	不良	丘陵頂部	160	郭	40	二本松城、o 12と同じ
1 15	浜田城跡	殿町	社寺境内 他	不良	丘陵一帯	68	郭、腰郭、石垣、堀切 虎口、櫓台	33	龜田城<県指定> 一部発掘調査有
1 16	薫巢城跡	周布町	山林	良	丘陵頂部	82	郭、腰郭、土塁、堀切 竪堀、連続竪堀、虎口	33	周布城<市指定>

遺跡 番号	名 称	所 在 地	現 状	保 存 状 況	立 地	標高 m	遺 構 の 内 容	地 図 番 号	備 考
117	古城跡	三階町	山林	—	—	—	—	33	明確な遺構無し、所在不詳

#### m 那賀郡旭町

m1	高城跡	大字市木	山林	やや良	丘陵頂部	420	郭、腰郭、堀切	18,19	堀尾城、高城城、一部発掘調査により記録保存、h.36と同じ発掘調査によって記録保存
m2	森迫城跡	大字市木	道路用地 他	消滅	丘陵先端	340	郭、堀切、帯郭	18	発掘調査によって記録保存
m3	内ヶ原城跡	大字市木	道路用地 他	消滅	丘陵頂部	350	郭、土塁、堅堀 掘立柱建物跡	19	早水城、発掘調査によって記録保存
m4	杭ヶ内城跡	大字木田	山林	不良	丘陵頂部	255	郭	23	j18と同じ
m5	野地背戸山城跡	大字和田	山林	良	丘陵頂部	329	郭、堀切、堅堀	23	
m6	重富城跡	大字重富	山林	やや良	丘陵頂部	469	郭	23	尼御前城
m7	大石谷城跡	大字本郷	山林	やや良	丘陵頂部	592	郭、腰郭	23	和田城
m8	高幡山城跡	大字木田	山林	—	丘陵頂部	—	—	23	明確な遺構無し
m9	矢笠山城跡	大字高杉谷	山林	—	丘陵頂部	—	—	23	明確な遺構無し
m10	加古屋城跡	大字今市	山林	良	丘陵頂部	457	郭、堀切	23	両子山城、小屋城、日和山城、三本松城
m11	太鼓丸城跡	大字丸原	山林	良	丘陵頂部	340	郭、帯郭、腰郭、堀切	23	
m12	遠見城跡	大字丸原	山林	良	丘陵頂部	320	郭、腰郭、土塁、堀切	27	n4と同じ
m13	雲井城跡	大字丸原	山林	良	丘陵頂部	660	郭、腰郭、土塁	27	丸原城、n5と同じ
m14	城山城跡	大字今市	山林	良	丘陵頂部	380	郭、腰郭、石垣、堀切	24	

#### n 那賀郡金城町

n1	本明城跡	大字入野	山林	良	丘陵頂部	417	郭、帯郭、腰郭	26	乙明城、福屋城 d33と同じ
n2	草ノ城跡	大字今福	山林	良	丘陵頂部	324	郭、腰郭	23	
n3	田代城跡	大字今福	山林	やや良	丘陵頂部	250	郭	27	皆合城
n4	遠見城跡	大字久佐	山林	良	丘陵頂部	320	郭、腰郭、土塁、堀切	27	m12と同じ
n5	雲井城跡	大字丸原	山林	良	丘陵頂部	660	郭、腰郭、土塁	27	丸原城、m13と同じ
n6	小国城跡	大字小国	山林	やや良	丘陵頂部	503	郭、帯郭、石垣、堀切	28	
n7	雲城山城跡	大字上来原	山林	やや良	丘陵頂部	667	郭、帯郭、井戸	28	雲来城、l6と同じ
n8	波佐一本松城跡	大字波佐	山林	良	丘陵頂部	450	郭、腰郭、土塁、石垣 堀切、堅堀、連続堅堀 橋合	28	波佐城
n9	金木城跡	大字上来原	山林	やや良	丘陵頂部	719	郭、帯郭	28	

遺跡 番号	名 称	所 在 地	現 状	保 存 状 况	立 地	標高 m	遺 構 の 内 容	地 図 番 号	備 考
n 10	火の迫城跡	大字小国	山林	やや良	丘陵頂部	604	郭	28	
n 11	花城跡	大字波佐	山林	良	丘陵先端	485	郭、帯郭、腰郭、堀切	28	中谷城、姫ノ城
n 12	水見城跡	大字長田	山林	良	丘陵頂部	490	郭、帯郭、腰郭、堀切 槽台	28	
n 13	笠松城跡	大字今福	山林	やや良	丘陵頂部	362	郭、石垣	27	
n 14	小松原山城 跡	大字今福	——	——	——	——	——	27	明確な遺構無し、所在 不詳
n 15	吉留城跡	大字下来原	山林	やや良	丘陵先端	300	郭、石垣、井戸	27	小城ヶ嶺砦
n 16	長田城跡	大字長田	山林	やや良	丘陵先端	470	郭、腰郭	28	解ヶ城、岡城

○ 那賀郡三隅町

o 1	王城跡	大字井野	山林	不良	丘陵頂部	500	郭	34	猪股城、p 18と同じ
o 2	鷹泊城跡	大字井野	山林	良	丘陵頂部	485	郭、腰郭、土塁、堀切 竪堀、虎口、槽台	34	p 19と同じ
o 3	白狐城跡	大字的野	山林	不良	丘陵頂部	361	郭	34,35	p 20と同じ
o 4	鳥屋尾城跡	大字井野	山林	やや良	丘陵頂部	490	郭、腰郭、土塁、石垣 竪堀、虎口、槽台	34	
o 5	井野城跡	大字井野	社寺境内	良	丘陵先端	178	郭、土塁、石垣、堀切 竪堀、連続竪堀、横堀	34	井村城
o 6	黒沢城跡	大字黒沢	山林	良	丘陵頂部	371	郭、腰郭	34	木原城
o 7	古和城跡	大字上古和	山林	——	——	——	——	35	明確な遺構無し、所在 不詳
o 8	杖立城跡	大字室谷	山林	やや良	丘陵頂部	315	郭、帯郭、腰郭、土塁 土橋	34	寺山城
o 9	芦谷城跡	大字芦谷	山林	やや良	丘陵頂部	304	郭、腰郭、石垣、堀切	34	茶臼ヶ城
o 10	陣場ヶ嶺城 跡	大字芦谷	山林	不良	丘陵頂部	345	郭	34	
o 11	草井城跡	大字芦谷	山林	——	——	——	——	34	明確な遺構無し、所在 不詳
o 12	折厩城跡	大字東平原	山林	不良	丘陵頂部	160	郭	40	二本松城、I 14と同じ
o 13	岳城跡	大字東平原	山林	不良	丘陵頂部	379	郭、石垣	40	
o 14	水来城跡	大字芦谷	山林	良	丘陵頂部	412	郭	40	西山城
o 15	三本松城跡	大字芦谷	山林	不良	丘陵頂部	283	郭、腰郭	40	水来城
o 16	高城跡	大字三隅	山林 社寺境内	やや良	丘陵頂部	362	郭、帯郭、腰郭、石垣 堀切、竪堀、連続竪堀 槽台	40	三隅城
o 17	河内城跡	大字河内	山林 社寺境内	やや良	丘陵頂部	82	郭、土塁、竪堀	40	
o 18	下古和城跡	大字下古和	山林	不良	丘陵頂部	138	郭、堀切	41	古和城、万の亀城 3分の2は消滅
o 19	八ノ木城跡	大字西河内	山林、畑	不良	丘陵頂部	48	郭、腰郭	40	

遺跡 番号	名 称	所 在 地	現 状	保 存 状 況	立 地	標高 m	遺 構 の 内 容	地 図 番 号	備 考
○20	石田城跡	大字三隅	山林	不良	丘陵頂部	71	郭、腰郭、堀切	40	
○21	梅之城跡	大字三隅	畑	消滅	丘陵頂部	—	—	40	野霧山城、削平により消滅
○22	鐘ヶ尾城跡	大字三隅	山林	やや良	丘陵頂部	110	郭、帯郭、腰郭、土塁堀切、堅堀	40	
○23	今城跡	大字三隅	山林	やや良	丘陵頂部	129	郭、腰郭、土塁、堀切	40	
○24	風呂ノ木城跡	大字西河内	山林、畑	やや良	丘陵先端	47	郭、堀切	40	
○25	古市場跡	大字古市場	山林	消滅	丘陵頂部	—	—	40	消滅
○26	城ヶ迫城跡	大字向野田	山林	やや良	丘陵頂部	93	郭、腰郭、堀切	40	
○27	陣ノ尾城跡	大字向野田	山林	やや良	丘陵頂部	99	郭、堀切	40	
○28	青龍城跡	大字向野田	社寺境内	不良	丘陵麓部	12	—	40	青竜城、青龍寺城
○29	小金町城跡	大字古市場	山林、畑	不良	丘陵先端	38	郭、帯郭、腰郭	40	
○30	針葉城跡	大字古市場	山林、畑	不良	丘陵頂部	51	郭、帯郭、腰郭、石垣	40	針葉山鯉尾城、針葉砦
○31	茶臼山城跡	大字岡見	山林	やや良	丘陵頂部	292	郭、帯郭、腰郭、堀切 堅堀	40	
○32	矢原城跡	大字矢原	山林	不良	丘陵頂部	310	郭	41	徳谷城
○33	普源田城跡	大字岡見	山林、畑	やや良	丘陵先端	70	郭、帯郭、堀切	40	普源田砦
○34	次郎丸城跡	大字岡見	山林	やや良	丘陵先端	65	郭、堀切、堅堀	40	
○35	碓石城跡	大字岡見	山林	不良	丘陵頂部	233	郭、腰郭	40	王山城
○36	大山城跡	大字岡見	山林	—	丘陵頂部	—	—	41	明確な遺構無し、q 2と同じ
○37	大多和外城跡	大字岡見	山林	—	丘陵頂部	—	石列・石垣	40	未踏査につき遺構詳細不明
○38	三隅石塁跡	大字湊浦	社寺境内 (墓地)	不良	沿岸部	7	土塁、石垣	40	

**D 那賀郡弥栄村**

p 1	門田城跡	大字門田	山林	やや良	丘陵先端	458	郭、土塁	28	古城
p 2	古城跡	大字門田	山林	不良	丘陵頂部	557	郭	28	高丸城
p 3	日高城跡	大字高内	山林	やや良	丘陵頂部	395	郭、腰郭	28	
p 4	小坂日高城跡	大字小坂	山林	やや良	丘陵頂部	446	郭	34	
p 5	千穂山城跡	大字小坂	山林 社寺境内	やや良	丘陵頂部	593	郭、腰郭、土塁、堀切 堅堀、連続堅堀	34	高木城、小坂城
p 6	矢懸城跡	大字長安本郷	山林	やや良	丘陵頂部	488	郭、帯郭、腰郭、土塁 堀切、虎口	34	
p 7	矢川城跡	大字大坪	山林	良	丘陵頂部	446	郭、帯郭、腰郭、土塁、 堀切、堅堀、横堀	34	矢ヶ尾城

遺跡 番号	名 称	所 在 地	現 状	保 存 状 況	立 地	標高 m	遺 構 の 内 容	地 図 番 号	備 考
p 8	城ヶ谷城跡	大字程原	山林	やや良	丘陵頂部	520	郭	35	
p 9	天龍山城跡	大字栃木	山林	不良	丘陵頂部	536	郭、土塁、堀切	34	
p 10	鷹の巣城跡	大字稲代	山林	不良	丘陵頂部	495	郭	34	
p 11	火の口城跡	大字稲代	山林	不良	丘陵頂部	462	郭	34	
p 12	大坪城跡	大字大坪	山林	やや良	丘陵頂部	490	郭、腰郭、土塁	34	
p 13	野坂城跡	大字野坂	山林	やや良	丘陵先端	335	郭、帯郭	34	
p 14	田屋城跡	大字木都賀	山林他	不良	丘陵先端	310	郭、土塁、堀切	34	木東城、多家城
p 15	東城跡	大字木都賀	山林	良	丘陵先端	315	郭、土塁、堀切	34	
p 16	天ノ城跡	大字木都賀	山林	やや良	丘陵頂部	488	郭、石垣	34	
p 17	西城跡	大字木都賀	山林	やや良	丘陵先端	345	郭、腰郭、石垣、堀切 塹堀	34	
p 18	王城跡	大字野坂	山林	不良	丘陵頂部	500	郭	34	猪股城、o1と同じ
p 19	鷹泊城跡	大字木都賀	山林	良	丘陵頂部	485	郭、腰郭、土塁、堀切 塹堀、虎口、櫓台	34	o2と同じ
p 20	白狐城跡	大字木都賀	山林	不良	丘陵頂部	361	郭	34,35	o3と同じ
p 21	大鹿城跡	大字木都賀	山林	不良	丘陵頂部	870	郭	35	
p 22	熊の山城跡	大字木都賀	山林	不良	丘陵頂部	307	郭	35	枝熊城

### q 益 田 市

q 1	唐音城跡	西平原町	山林他	不良	丘陵先端	30	石垣、堀切	40	
q 2	大山城跡	金山町金山	山林	—	丘陵頂部	—	—	41	明確な遺構無し、o36 と同じ
q 3	宇治城跡	金山町大字宇 治	山林	良	丘陵頂部	250	郭、腰郭、土塁、堀切 塹堀	41	
q 4	烏帽子山城 跡	赤雁町	山林	—	丘陵頂部	—	—	41	明確な遺構無し
q 5	平家ヶ敷城 跡	下種町	山林	—	丘陵頂部	—	—	41	明確な遺構無し
q 6	大草城跡	大草町	山林	良	丘陵頂部	110	郭、腰郭、堀切	41	出来円山城
q 7	大峠遺跡	久々茂町	畑、道路	不良	丘陵麓部	90	掘立柱建物跡ほか	42	一部道路建設のため免 掘調査後、記録保存
q 8	上久々茂土 居跡	久々茂町	畑、道路	不良	丘陵麓部	90	掘立柱建物跡ほか	42	一部道路建設のため免 掘調査後、記録保存
q 9	原城跡	波田町	水田、畑	やや良	丘陵頂部	220	郭、腰郭、堀切	42	
q 10	波田城跡	波田町	山林	良	丘陵先端	240	郭、土塁、堀切、横堀 虎口、櫓台	42	
q 11	馬谷高嶺城 跡	馬谷町	山林他	やや良	丘陵頂部	460	郭、腰郭、土塁、石垣 堀切、虎口、井戸	42	高嶺城、大屋形城

遺跡 番号	名称	所在地	現 状	保 存 状 況	立 地	標高 m	遺 構 の 内 容	地 図 番 号	備 考
q 12	巖城跡	遠田町	山林	良	丘陵頂部	70	郭、腰郭、堀切、連続 竪堀	47	遠田城
q 13	大谷城跡	大谷町	山林	良	丘陵頂部	114	郭、腰郭、堀切	41	
q 14	大谷土居跡	大谷町	畑	やや良	丘陵麓部	50	郭、腰郭、石垣	41.42	下々々茂土居
q 15	七尾城跡	七尾町	山林 社寺境内	良	丘陵頂部 ～麓部	116	郭、腰郭、土塁、堀切 連続竪堀、虎口、櫓台	47	益田城跡〈県指定〉 一部発掘調査有
q 16	稲岡城跡	下本郷町稲岡	山林他	不良	丘陵頂部	30	郭	47	上の山城
q 17	稲干山城跡	東町	山林	やや良	丘陵頂部	40	郭、腰郭、堀切	47	
q 18	三宅御土居 跡	三宅町	畑、宅地 社寺境内	良	平野部	—	土塁、堀	47	〈県指定〉 一部発掘調査有
q 19	稲横城跡	水分町	山林	不良	丘陵頂部	78	郭、腰郭、堀切	47.48	
q 20	赤城跡	赤城町	山林	不良	丘陵先端	—	—	47	破壊が著しく遺構が不 明確
q 21	高津城跡	高津町	社寺境内 他	不良	丘陵頂部	40	郭、腰郭	47	高津小山城
q 22	角井城跡	須子町	山林	良	丘陵先端	70	郭、腰郭、土塁、堀切 連続竪堀、虎口、櫓台	48	
q 23	松原城跡	白上町	山林	良	丘陵頂部	58	郭、腰郭、堀切	48	
q 24	大巖城跡	虫追町	山林他	不良	丘陵先端	50	郭、腰郭、竪堀、横堀	48	
q 25	安富城跡	安富町	山林	良	丘陵頂部	60	郭、帯郭、堀切	48	
q 26	豊田城跡	横田町上野	山林	良	丘陵頂部	120	郭、腰郭	48	二本松城
q 27	井手カケの 城跡	横田町	山林	良	丘陵先端	120	郭、腰郭、土塁、堀切	48	釣橋山城
q 28	高浪山城跡	神田町	山林	良	丘陵頂部	341	郭、腰郭、堀切、虎口	48	
q 29	向横田城跡	向横田町	山林他	良	丘陵先端	90	郭、腰郭、土塁、堀切	48	片木城〈市指定〉
q 30	三星城跡	神田町	山林	良	丘陵先端	110	郭、堀切	48	
q 31	円ヶ嶽城跡	向横田町	山林	良	丘陵頂部	282	郭	48	丸竹城
q 32	芦田城跡	芦田町	山林	—	丘陵頂部	—	—	54	小野城、明確な遺構無 し
q 33	美濃地城跡	美濃地町	山林	良	丘陵先端	145	郭、腰郭、堀切、竪堀	54	
q 34	原城跡	黒岡町原	山林	良	丘陵頂部	160	郭、腰郭	54	
q 35	横山城跡	柏原町	山林	良	丘陵頂部	350	郭、腰郭、堀切、櫓台	54	黒谷城〈市指定〉
q 36	鷹ヶ松城跡	東町・乙吉町	山林	不良	丘陵頂部	58	郭	47	
q 37	城ヶ浦城跡	津田町	山林	消滅	半島先端	—	—	47	
q 38	高倉山城跡	下穂町	山林	—	丘陵頂部	—	—	41	僅城 未踏査につき遺構不明
q 39	高川城跡	栄町	山林	不良	丘陵先端	—	郭	47	後世の削平により遺構 の詳細は不明

遺跡 番号	名 称	所在地	現 状	保 存 状 況	立 地	標高 m	遺 構 の 内 容	地図 番号	備 考
q 40	普月城跡	久城町	山林	—	丘陵先端	—	—	47	未踏査につき遺構不明
q 41	鎌ノ尾城跡	飯浦町	山林	やや良	丘陵先端	60	郭、土塁、石垣	60	飯浦砦
q 42	鍋島城跡	高津町	山林他	消滅	—	—	—	47	採土により消滅 高津台場跡と同じ
q 43	城角城跡	久城町	畑、宅地	不良	丘陵先端	—	—	47	削平等により遺構不明
q 44	赤雁土器跡	赤雁町	山林他	やや良	丘陵麓部	30	郭、土塁、石垣	41	天道山城、赤雁城
q 45	長原屋敷跡	安富町	山林	良	丘陵麓部	40	郭	48	
q 46	三百坂城跡	本郷町	宅地他	—	—	—	—	47	明確な遺構無し
q 47	朝柄山城跡	黒周町	山林	やや良	丘陵頂部	220	郭	54	有樞城
q 48	権現山城跡	乙子町	山林他	不良	丘陵頂部	358	郭	41	
q 49	城山城跡	種村町	山林	やや良	丘陵頂部	180	郭、堀切	41	
q 50	葦草山城跡	岩倉町	山林	やや良	丘陵頂部	510	郭、堀切	42	城山城
q 51	白上館跡	白上町	社寺境内 他	やや良	平地部	30	郭	48	
q 52	市原氏館跡	内田町	山林	—	丘陵麓部	—	—	48	未踏査につき遺構不明

#### r 美濃郡美都町

r 1	板井川城跡	大字板井川	山林	良	丘陵頂部	290	郭、堀切、竪堀、横堀	35	戸城、戸代城、登代城 <町指定>
r 2	宇津川城跡	大字宇津川	山林	良	丘陵頂部	250	郭、堀切、竪堀	35	鹿ヶ瀬城
r 3	養老谷城跡	大字宇津川	山林	やや良	丘陵頂部	200	郭、堀切、竪堀	35	
r 4	城ヶ谷城跡	大字丸茂	山林	良	丘陵先端	230	郭、帯郭、堀切、竪堀 横堀	35	高陽城？
r 5	丸茂城跡	大字丸茂	山林	良	丘陵頂部	270	郭、堀切、竪堀、連続 竪堀、横堀	35	金城 <町指定>
r 6	古城山城跡	大字都茂	山林	やや良	丘陵先端	280	郭、堀切	35、41	帯ヶ岳城
r 7	都茂城跡	大字都茂	山林	良	丘陵頂部	250	郭、帯郭、堀切、竪堀 横堀	42	古城
r 8	要害山城跡	大字山本	山林	やや良	丘陵頂部	230	郭、腰郭、石垣、堀切	42	山本城
r 9	入船山城跡	大字山本	山林	良	丘陵頂部	370	郭、竪堀、横堀	42	金谷城
r 10	都賀根城跡	大字三谷	山林	良	丘陵頂部	210	郭、竪堀、横堀	41	
r 11	土井山城跡	大字小原	山林	やや良	丘陵頂部	321	郭	41	
r 12	竹城跡	大字小原	山林	やや良	丘陵頂部	210	郭、堀切	41	
r 13	背戸山城跡	大字仙道	山林	やや良	丘陵頂部	199	郭、横堀	41	



遺跡 番号	名 称	所 在 地	現 状	保 存 状 況	立 地	標高 m	遺 構 の 内 容	地 図 番 号	備 考
r 14	四ツ山城跡	大字朝倉	山林	良	丘陵頂部	233	郭、腰郭、堀切、堅堀 連続堅堀、虎口	41	<町指定> 一部発掘調査有

#### s 美濃郡匹見町

s 1	天狗嶽城跡	大字道川	山林	—	丘陵頂部	—	—	36	明確な遺構無し、所在 不詳
s 2	丸子山城跡	大字道川	山林	やや良	丘陵先端	500	郭	36	
s 3	道川城跡	大字道川	山林	良	丘陵先端	490	郭、堀切	36	<町指定>
s 4	丈次郎山城跡	大字道川	山林	良	丘陵頂部	510	郭、堀切、堅堀	36	
s 5	天王城跡	大字落合	山林	良	丘陵頂部	400	郭、堀切、横堀	36	
s 6	笹山城跡	大字落合	宅地他	やや良	丘陵先端	300	郭	36	
s 7	茅谷城跡	大字落合	山林	良	丘陵先端	300	郭、堀切、横堀	37	落合城
s 8	箕巖城跡	大字落合	山林	不良	丘陵頂部	316	郭、腰郭、堅堀	37	
s 9	上ノ山城跡	大字匹見	山林	やや良	丘陵頂部	398	郭、横堀	37	壘山城
s 10	神原城跡	大字匹見	山林	やや良	丘陵麓部	290	郭、腰郭、堀切	37	古城
s 11	諏訪城跡	大字匹見	山林	良	丘陵頂部	302	郭、堀切、堅堀	37	城山
s 12	葦登嶽城跡	大字広瀬	山林	良	丘陵頂部	416	郭	42	<町指定>
s 13	広瀬城跡	大字広瀬	山林他	やや良	丘陵頂部	320	郭、横堀、堅堀	42,43	
s 14	巖城跡	大字澧川	山林	やや良	丘陵先端	250	郭、堀切、堅堀、横堀	42	
s 15	叶松城跡	大字澧川	山林	良	丘陵頂部	290	郭、帯郭、堅堀、横堀	42	<町指定>
s 16	金山城跡	大字澧川	山林	良	丘陵頂部	343	郭、堅堀、横堀	42	
s 17	小松尾城跡	大字紙祖	山林	良	丘陵頂部	440	郭、石垣、堀切、堅堀 馬出、櫓台	37	要害城 <町指定>
s 18	内石城跡	大字石谷	山林	良	丘陵頂部	522	郭	43	
s 19	花ノ木城跡	大字石谷	山林	良	丘陵先端	380	郭、堅堀、横堀	43	
s 20	牛尾城跡	大字紙祖	山林他	—	—	—	—	38	明確な遺構無し、所在 不詳
s 21	殿屋敷跡	大字紙祖	水田	不良	平地	—	—	38	明確な遺構無し

#### t 鹿足郡日原町

t 1	下瀬山城跡	大字河村	山林	やや良	丘陵頂部	317	郭、腰郭、土塁、堀切 堅堀	49	<町指定>
t 2	尾中山城跡	大字青原	山林	良	丘陵頂部	185	郭、腰郭、堀切、堅堀 横堀	49	

遺跡 番号	名 称	所 在 地	現 状	保 存 状 况	立 地	標高 m	遺 構 の 内 容	地 図 番 号	備 考
t 3	大嶽城跡	大字富田	山林	やや良	丘陵頂部	174	郭、腰郭、土塁、堀切	49	小瀬城
t 4	野登呂城跡	大字富田	山林	不良	丘陵頂部	333	郭	49	能登呂城
t 5	中木屋城跡	大字富田	山林	不良	丘陵頂部	376	郭、堀切	49	w 1 と同じ

#### u 鹿足郡柿木村

u 1	木部谷城跡	大字木部谷	山林	やや良	丘陵頂部	498	郭、堀切	44	
u 2	城の尾城跡	大字大井谷	山林	不良	丘陵斜面	470	郭、腰郭	50	
u 3	山田ヶ城跡	大字福田	社寺境内	不良	丘陵先端	254	郭	50	
u 4	三之瀬城跡	大字福川	山林	良	丘陵先端	260	郭、土塁、堀切、堅堀	50	<村指定>

#### v 鹿足郡六日市町

v 1	中山城跡	大字田野原	山林	やや良	丘陵頂部	525	郭、帯郭、堀切、堅堀	39	
v 2	陣ヶ城跡	大字有納	山林	良	丘陵先端	372	郭、腰郭、土塁、堅堀 連続堅堀	45	陣賀城
v 3	茶臼山城跡	大字八ヶ迫	山林	良	丘陵頂部	448	郭、帯郭、腰郭、土塁 堀切、堅堀	45	
v 4	椿ヶ城跡	大字迫	山林	良	丘陵頂部	521	郭、帯郭、腰郭、堀切	45	椿城
v 5	指月城跡	大字沢田	山林	良	丘陵頂部	522	郭、腰郭、土塁、堀切	45	菖尾城
v 6	志目川城跡	大字沢田	山林	やや良	丘陵頂部	529	郭、腰郭、堀切、堅堀	45	獅子城
v 7	大炊城跡	大字沢田	山林	良	丘陵頂部	529	郭、腰郭、土塁、堅堀 横郭、井戸	45	
v 8	広石城跡	大字立戸	山林	良	丘陵頂部	402	郭、帯郭、土塁、堅堀	45	次郎丸城
v 9	五郎丸城跡	大字立戸	山林他	やや良	丘陵先端	355	郭、腰郭、堀切、堅堀 櫓台	45	
v 10	羽生城跡	大字朝倉	山林	やや良	丘陵頂部	424	郭、帯郭、腰郭、堀切 横堀	45	磯多ヶ城
v 11	能美山城跡	大字七日市	山林	良	丘陵頂部	359	郭、腰郭、土塁、堀切 堅堀、櫓台、井戸	45	
v 12	政国城跡	大字真田	山林	やや良	丘陵頂部	395	郭、土塁、堀切	45	横田城
v 13	向日真城跡	大字抜月	山林	やや良	丘陵頂部	358	郭、堀切、堅堀、連続 堅堀、土橋	45	抜舞城
v 14	月和田城跡	大字抜月	山林	不良	丘陵頂部	400	郭	45	

#### w 鹿足郡津和野町

w 1	中木屋城跡	大字豊塚	山林	不良	丘陵頂部	376	郭、堀切	49	t 5 と同じ
-----	-------	------	----	----	------	-----	------	----	---------

遺跡 番号	名 称	所 在 地	現 状	保 存 状 況	立 地	標高 m	遺 構 の 内 容	地 図 番 号	備 考
w 2	土居丸館跡	大字長福	水田	—	平地	—	—	55	明確な遺構無し、所在不詳
w 3	徳永城跡	大字中曾野	山林	良	丘陵頂部	327	郭	55	
w 4	吉見氏居館跡	大字中曾野	水田	良	平地	260	—	55	木園遺跡〈町指定〉一部発掘調査(試掘)されるも、遺構未検出
w 5	津和野城跡	大字後田	山林	良	丘陵一帯	367	郭、帯郭、腰郭、石垣堀切、竪堀、連続竪堀横堀、虎口、槽合	50	三本松城〈国指定〉支城とされる中荒城を含むものとする
w 6	丸山城跡	大字中座	山林他	やや良	丘陵先端	220	郭、堀切	50	
w 7	喜時雨陣城跡	大字田二徳	山林、社寺境内	やや良	丘陵先端	227	郭、帯郭	50	
w 8	御陣場山城跡	大字田二徳	山林	良	丘陵頂部	273	郭、帯郭、腰郭	50	
w 9	茶臼山城跡	大字蟹原	山林	良	丘陵頂部	266	郭、帯郭、堀切、槽合	50	
w 10	陶晴賢本陣跡	大字蟹原	山林	やや良	丘陵頂部	420	郭、帯郭、腰郭、石垣	50	陶ヶ嶽
w 11	御嶽城跡	大字木部	山林	やや良	丘陵頂部	504	郭、土塁、堀切、堅堀虎口	55	



## 4 主要城館跡の解説・略測図

### 解説・略測図の見方

- 1 石見部の主要な城館跡について調査カードをもとに解説と略測図を掲載した。
- 2 城館名の頭に付けた〈遺跡番号〉、〈名称〉、〈所在地〉、〈保存状況〉、〈立地〉、〈標高〉は、本書の第二章「2 城館跡分布図」「3 城館跡一覧」と共通する。各節を比較参照願いたい。
- 3 〈史料〉〈参考文献〉は、各々最も代表的なもののみ取り上げた。この際、発掘調査報告書は割愛したので、本書巻末の「付 主要参考文献一覧」を参照願いたい。
- 4 〈概要〉は、特に統一の用語、文体、表現は用いていない。調査員（今岡、寺井、山根）と事務局（錦田）が協議のうえ分担して執筆した。
- 5 〈略測図〉は、各調査員や市町村教育委員会から提出された図面をもとに、調査員（今岡、寺井、山根）と事務局が加筆修正、浄書を行なって掲載した。その際、原図の表現を重視し極端な改変、表現方法の統一は行っていない。
- 6 〈略測図〉の方位は、原則として図の上方を磁北とした。例外の場合は別途図示している。
- 7 〈略測図〉の縮尺は図下欄外に各々示した。

ようがいさん  
a4 要害山城跡 大田市富山町山中

地図番号 8

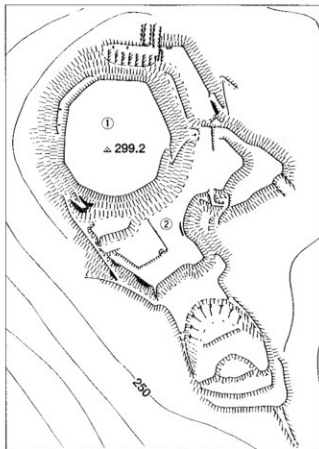
現状 山林 保存状況 良

立地 丘陵頂部 標高 299m 比高 200m

参考文献『日本城郭大系』

概要

この地は、出雲と石見の境に位置する重要な地域であった。①郭(主郭)は公園化によって破壊されているが登城道は確認できる。石垣を多用しているが、石垣のコーナーが直角でない。一抱えもある石材を虎口で使用している。②郭には井戸、石土塁が築かれており、横矢を意識した張り出しも見られ近世城郭に近い縄張りとなっている。城主として富山氏が伝わるが、最終的な状態に改修強化したのは他の勢力であろう。



要害山城跡略測図 (S=1:1,500)

どいやかた  
a5 土居館跡 大田市富山町土居

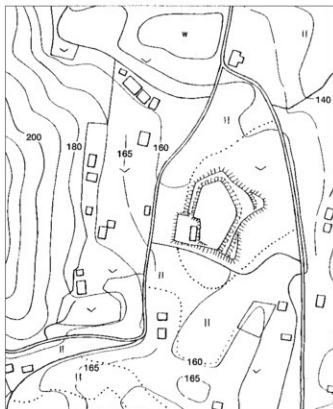
地図番号 8

現状 畑・水田・宅地 保存状況 良

立地 丘陵麓部 標高 160m 比高 5m

概要

周辺には「土居」という地名が残っている。館内に家のある安田資朗氏に聞いたが、寺があったということは聞いているが、城とか館があったという話は知らないとのことである。現在の多伎町へ通じる道は、館の下方を通っている。



土居館跡略測図 (S=1:4,000)

さいさかのうがいきん  
a6 才坂要害山城跡

大田市高山町本郷 地図番号 8

現状 山林 保存状況 良

立地 丘陵頂部 標高 282m

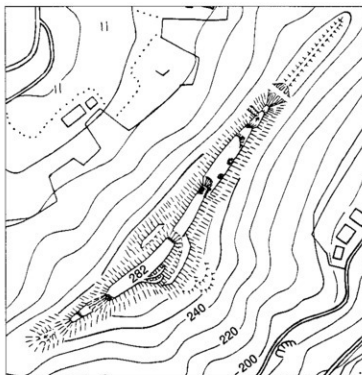
比高 90m

参考文献『島根タイムス大田市制記念号』

概要

尼子方の富永氏が、要害山城とこの城にあって天文23年(1554)まで毛利氏に対抗したという。この時期の街道は高山を経由して出雲へ通じていたと思われ、石見銀山を押さえるにも重要な地域であった。富永氏が毛利方となった永録12年(1569)の尼子復興戦時には尼子勝久方の攻撃を防いだと伝えられる。要害山城同様に、一部に石垣らしいものが見られる。

城跡の北東の神社と寺の部分、北西側の丘陵地は居館跡の候補地となりうる。富永氏の城で竹下和泉守が城主であったと伝えられる。



才坂要害山城跡略測図 (S=1:3,000)

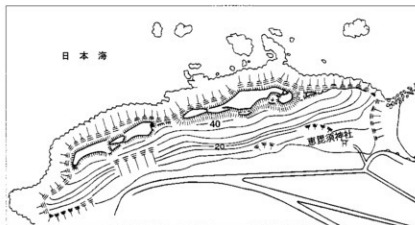
かみしり  
a11 鱒走城跡 大田市久手町柳瀬 地図番号 8

現状 山林 保存状況 やや良 立地 半島頂部 標高 45m

参考文献『日本城郭全集』

概要

現在干拓された波根湖と日本海が接する地に築かれた水軍の城郭である。土塁や堀切は認められない。主郭から松山城(大田要害山城)を望むことが出来る。陸の要衝と水軍の城郭がセットになった好例である。城主には尼子氏の将、牛尾久信が伝わる。



鱒走城跡略測図 (S=1:4,000)

まつやま  
a14 松山城跡 大田市大田町松山 地図番号 8

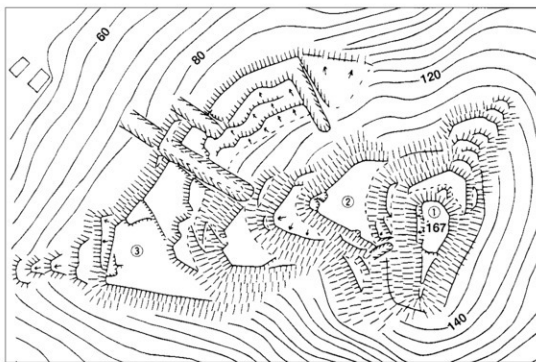
現状 山林 保存状況 良

立地 丘陵頂部 標高 167m 比高 140m

参考文献 「大田市誌」「日本城郭全集」「日本城郭大系」「石見大田城」

概 要

①郭は最高所に築かれているが狭いので、実質的な主郭は②郭であろう。①郭は物見として優れており、大田市街地を一望出来る。又、鰐走城が良く見え、水軍との連携を想定させる。③郭の北側には駐屯空間と思われる削平地が続いている。城主として佐波氏が伝わり、尼子氏にとって重要な拠点の一つであったろう。



松山城跡跡地図 (S=1:2,000)



## a16 吉永陣屋跡 大田市川合町吉永 地図番号 8・9

現状 山林・畑・社寺境内

保存状況 やや良 立地 丘陵麓部

標高 50m 比高 33m

参考文献 『日本城郭全集』『日本城郭大系』『山陰の城下町』

## 概 要

会津若松42万石の加藤明成が寛永20年(1643)に1万石に減封されて築いた陣屋である。陣屋は現在の善林寺付近で、背後の丘陵を土塁状に削り込んでいる。周囲に「かっちゅう」の地名が残っている。また、城下町特有の「枡形」が現集落内に確認できる。道路改良や宅地化によって破壊されてはいるが、随所に陣屋の痕跡を認め得る。天和2年(1682)、加藤氏が近江水口に移封されると陣屋は廃された。



吉永陣屋跡測図 (S=1:4,000)

つるが  
a19 鶴ヶ城跡 大田市川合町出岡 地図番号 9

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 110m 比高 70m

概要

地元、泉弘坊温泉の人によれば、物部神社神職金子氏の城とのことである。現存する遺構の状況からすると、防御された広い谷間に多量の物資や兵員を確保できたものと推測される。前線のベースキャンプ的役割を果たした城を思わせる。



鶴ヶ城跡略測図 (S=1:4,000)

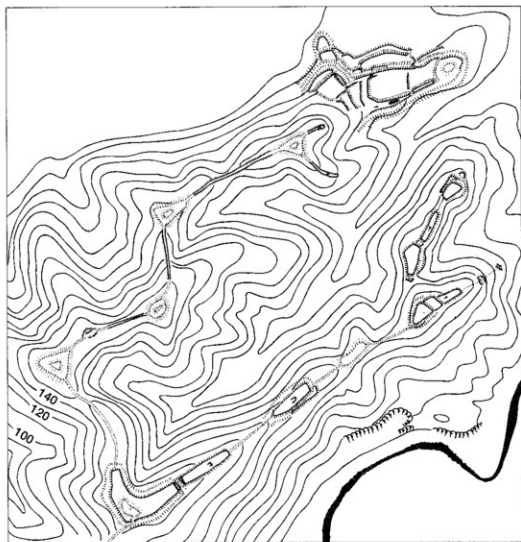
い  
a27 市城跡 大田市久利町市原 地図番号 15

現状 山林・畑 保存状況 やや良 立地 丘陵頂部 標高 160m 比高 100m

史料「久利文書」

概要

銀山川に沿った稜線のピーク上に主郭に配し、堀切で切断している。谷を隔てた北方に分岐する稜線上のピークは削平が曖昧だが、その間を人二人が横並び出来るほどの幅の城道でつないでいる。また、その稜線の裾で赤波川に面した丘陵上は、やや耕作で改変されているが居館跡と推測される。城域は溢を取り込んで広がるものと思われる。



市城跡略測図 (S=1:5,000)

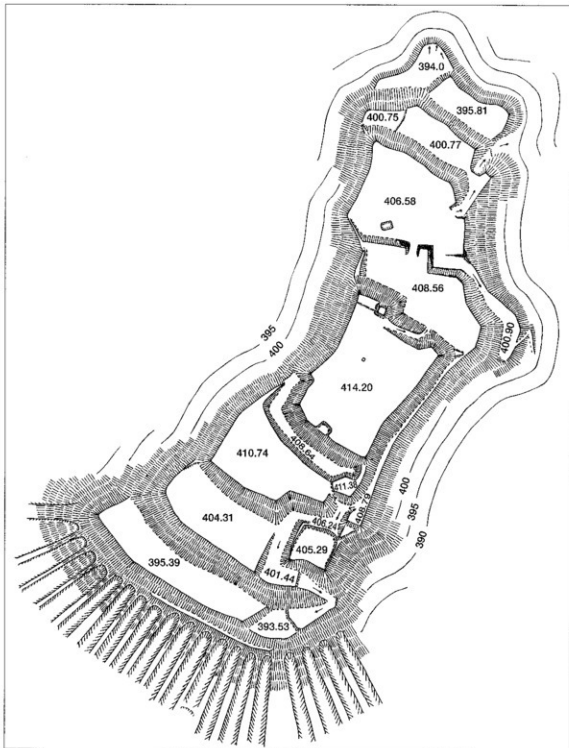
中森山  
a31・b16 山吹城跡 大田市大森町銀山 地図番号 15

現状 山林他 保存状況 良 立地 丘陵頂部～麓部 標高 414m 比高 240m

参考文献 『日本城郭全集』『日本城郭大系』『石見銀山遺跡発掘調査概要 6』

概 要

大森銀山を押さえる城郭であったため、激しい争奪戦が繰り返されたようだ。現存する遺構は外柵形、内柵形、主郭の北側と南側の郭群を結ぶバイパスの存在、槽台と虎口の関係等、近世初頭の城郭の姿を思わせる。また、大森の集落に面した主郭北側の郭にのみ石垣を築いたのは、ここに「見せる」ための建物を築いたためとも想像できる。主郭南側の堀も効果的に築いてあることが実感される。



山吹城跡地図 (S=1:1,500)

<sup>たか</sup>  
**a32 高城跡** 大田市祖式町上町

地図番号 16

現状 山林 保存状況 良

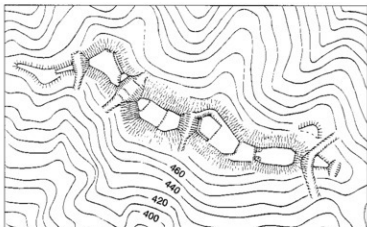
立地 丘陵頂部 標高 500m

比高 250m

参考文献『日本城郭全集』『日本城郭大系』

**概要**

主郭を断定することが難しい。尾根伝いに築かれている矢滝城の出城と言われている。祖式の集落に向けては郭が点在し、旧小学校のあたりが土居との伝承が伝えられている。城主は、祖式氏と伝えられる。



高城跡跡測図 (S=1:2,000)

<sup>やたき</sup>  
**a33・c3 矢滝城跡** 大田市祖式町矢滝 地図番号 16

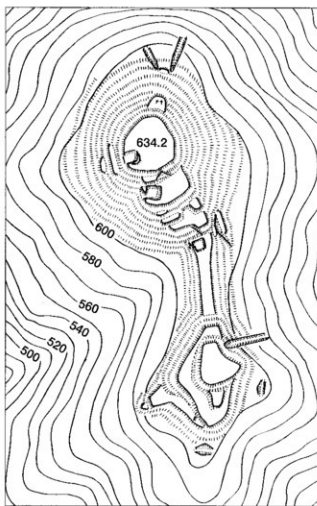
現状 山林 保存状況 やや良

立地 丘陵頂部 標高 634m 比高 430m

参考文献『日本城郭大系』『温泉津町誌』

**概要**

約200mを隔てた南北のピークに郭群を置いている。北方の主郭部は、戦後アメリカ軍のレーダー基地となり、その後はテレビ塔が建設されたために大きく改変されている。西向きに開口した樹形虎口状の遺構は、いずれも城道とのつながりが不明瞭である。南方の郭群は、堀切で守られているが、上面の削平も切岸も主郭部と比較して普請はやや雑である。



矢滝城跡跡測図 (S=1:1,500)

おわたげやま  
**a37 大嶽山城跡**

大田市大代町大家 地図番号 16

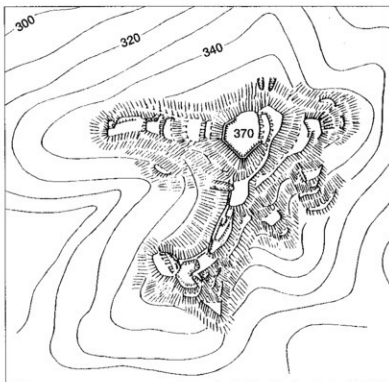
現状 山林 保存状況 良

立地 丘陵頂部 標高 360m

比高 120m

**概要**

大家氏の居城という。大家の町を直接押さえる城であり、2万5千分の1の地図にも上市・下市・四日市の地名と鍵形に曲がる道が残る。大田市祖式町、温泉津町井田・福光、川本町三保・湯谷方面に通じる交通の要所でもある。城の南側尾根続きに攻城時の陣城と思われるものがある。山腹に見られる多数の小さな郭は、城攻めの激しい戦いがあったことを物語るものであろう。土塁などで守られた姿は毛利氏によるものか。



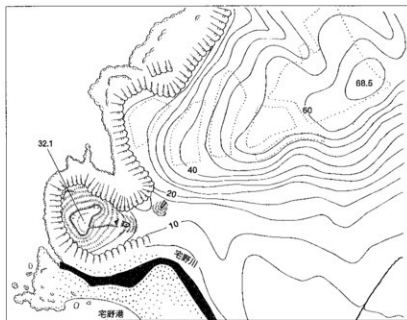
大嶽山城跡略図 (S=1:2,000)

また  
**b1 復城跡** 遼摩郡仁摩町大字宅野 地図番号 14・15

現状 山林 保存状況 やや良 立地 丘陵先端 標高 32m 比高 30m

**概要**

宅野港に向かって突き出した岬上で、上面の削平も十分でない単郭の城だが、東方の丘陵上に平地が広がっている。現状は、耕作によって攪乱されているが、駐屯空間として利用された可能性は高い。宅野港の南端には鴨城があり、両城が呼応して宅野港を扼する役割を果たしていたと考えられる。



復城跡略図 (S=1:3,000)

#### いわみ b4 石見城跡

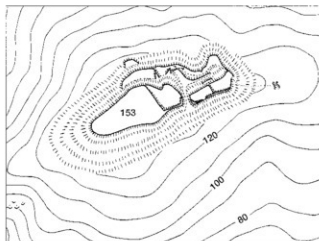
瀬摩郡仁摩町大字大國 地図番号 15

現状 山林 保存状況 やや良

立地 丘陵頂部 標高 153m 比高 130m

#### 概要

潮川の右岸に向かって突き出した岩山の上に郭群を配している。削り残して造られたと思われる土塁はいずれも南方に面しており、潮川の谷口を扼する役割を果たしていたと考えられる。



石見城跡略測図 (S=1:3,000)

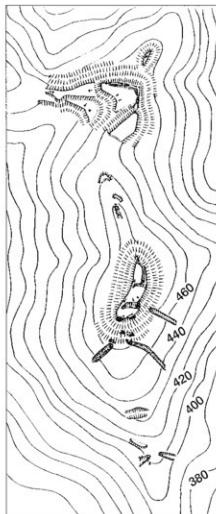
#### やはす b19・c1 矢筈城跡 瀬摩郡仁摩町大字大國 地図番号 15

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部

標高 480m 比高 300m

#### 概要

山頂の主郭部と約40m下方の郭群からなり、中間の斜面に二つの小郭を設けて連絡路を確保している。主郭の南側斜面は堀切と塹堀が掘られているが、防衛は、自然の要害性に依存している。北方の郭群には削り残しの土塁が認められるが、駐屯空間として利用されたものと考えられる。



矢筈城跡略測図 (S=1:3,000)

**c2 温泉城跡** 遼摩郡温泉津町大字  
湯里 地図番号 15

現状 山林 保存状況 良  
立地 丘陵先端 標高 100m  
比高 80m

参考文献「日本城郭大系」  
「温泉津町誌」

**概要**

細長い丘陵上に主郭を中心として南北に郭を配するとともに、東側に派生する稜線上にも郭を配している。南北に土塁をともなう堀切を設け、主要部を防御している。元来、温泉氏の城だったものが石見銀山と湯里港を結ぶルート上に位置するために、戦国期に改修された可能性もある。



温泉城跡略測図 (S=1:4,000)

**c5 櫛島城跡** 遼摩郡温泉津町櫛島 地図番号 20

現状 山林 保存状況 やや良  
立地 島 標高 37m 比高 37m  
参考文献「温泉津町誌」

**概要**

温泉津湾の湾口の東岸に位置し、西岸の箕島城、沖泊湾を隔てた鶴丸城と呼応して、毛利水軍の要港とされた温泉津湾の湾口を扼している。島の周囲は切り立った懸崖をなしており、普請は外海に面する西側と温泉津湾の湾口に面する南側が丁寧で、沖泊湾に面した東側はほとんど加工されていない。



櫛島城跡略測図 (S=1:3,000)



うのまる  
c6 鷓丸城跡 瀬摩郡温泉津町大字温泉津 地図番号 20

現状 山林 保存状況 やや良 立地 丘陵先端 標高 59m 比高 55m

史料 『萩藩閩閩録』 児玉伝右衛門

参考文献 『日本城郭大系』 『温泉津町誌』

概要

温泉津湾の湾口の東岸に位置し、西岸の笹島城、沖泊湾を隔てた北方の備島城と呼応して、温泉津湾の湾口を扼している。大手の櫓形虎口を扶んで東側と西側の郭群で構成されており、西側の櫓形虎口も北方の沖泊湾に向かって開口



鷓丸城跡略測図 (S=1:4,000)

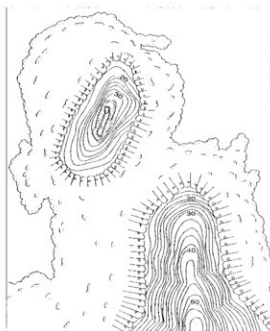
している。東側の郭群には、銃陣を敷くため雄壇状の三段の帯郭が認められる。信頼できる文献史料によって築城の背景がわかる数少ない事例である。

きまじま  
c7 笹島城跡 瀬摩郡温泉津町大字温泉津  
地図番号 20

現状 山林 保存状況 不良 立地 丘陵先端  
標高 38m 比高 36m

概要

温泉津湾の湾口の西岸に位置し、東岸の備島城・鷓丸城と呼応して温泉津湾の湾口を扼している。周囲は切り立った懸崖で、普請の痕跡はほとんど残っていない。岩棚を隔てた南側の丘陵上部には削平地らしい平坦面が認められる。後世の耕作によるものか判然としないが、駐兵空間の可能性が高いと考えられる。



笹島城跡略測図 (S=1:3,000)

みょうけんやま  
c8 妙見山城跡 遼摩郡温泉津町大字福波 地図番号 21

現状 山林 保存状況 良

立地 丘陵頂部

標高 80m 比高 80m

概要

小規模な城郭だが普請は十分に  
行なわれている。主郭から日本海  
を望むことが出来る。周辺に侍の  
墓と伝えられている古墓が多く見  
られる。物不言城から海が見えな  
いため、出城として機能していた  
ものと考えられる。



妙見山城跡略測図 (S=1:3,000)

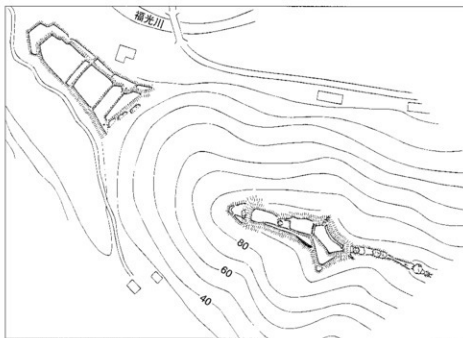
ものいわず  
c9 物不言城跡 遼摩郡温泉津町大字福波 地図番号 21

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 100m 比高 90m

参考文献 『日本城郭全集』『日本城郭大系』『温泉津町誌』『西石見の豪族と山城』『石見福光不言城』

概要

全山にわたって岩肌が露出しており、天然の要害である。主郭東側に土塁を築いてこの方面に備えているが、南側尾根筋には堀切等の防御施設は認められない。この尾根続きに主城が存在するとされているが確認できなかった。主郭西方に石垣が残るが、近世の改修らしい。山麓に残る館は普請が活発になされている。また、西隣りの尾根にも堀切が認められる。弘治2年(1556)に吉川経安が築いたとされるのはこの館かもしれないが、別に福光氏の名も伝えられている。



物不言城跡略測図 (S=1:3,000)

さがりまつ  
d8 佐賀里松城跡 江津市都治町下都治 地図番号 21

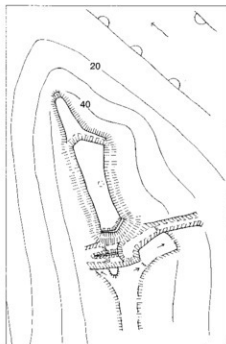
現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵先端

標高 52m 比高 30m

参考文献 『日本城郭大系』 『中世の城砦』

概要

南北朝期平田氏が高師泰に攻められ落城、大永元年(1521)には、都治氏が尼子氏に攻められ落城、永禄元年(1558)には毛利氏に攻められ落城したと伝わる。吉川氏の物不言城と福屋氏の松山城を結ぶ線上にあり、都治川の交通を押さえる要地にある。永禄4年(1561)福屋氏の物不言城攻撃の時、都治氏は、吉川経安とともに籠城したとされる。二重の堀切は改修によるものか。



佐賀里松城跡略測図 (S=1:1,500)

まつやま  
d15 松山城跡 江津市松川町市村 地図番号 21・22

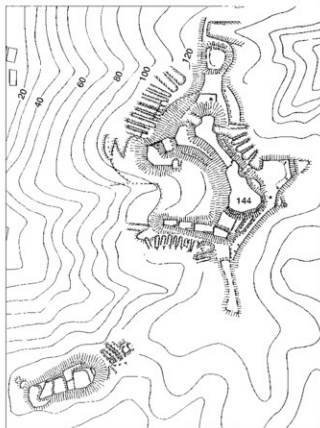
現状 山林 保存状況 良

立地 丘陵頂部 標高145m 比高 130m

参考文献 『日本城郭大系』 『中世の城砦』 『西  
石見の豪族と山城』 『江津市の歴史』

概要

西から南にかけて江川が流れ、北西を都治川、南東を上津井川に囲まれる。南北朝期に川上(中原)氏によって築かれたと伝えられ、つづく佐々木氏も福屋氏に攻められ福屋氏の城となったとされる。福屋氏の東の戦略拠点として重視されただろう。永禄元年(1558)、尼子昭久の攻撃を受け、永禄4年(1561)、毛利氏によって落城したとされる。城将は福屋隆任と伝える。「見世棚櫓」「殿畑」「桜丸」の地名が残る。南側伝桜丸の北東隅に「永禄三庚申」の石塔がある。南側の連続堀切に対して、横矢をかける位置に土塁を築く工夫が目まされる。



松山城跡略測図 (S=1:3,500)

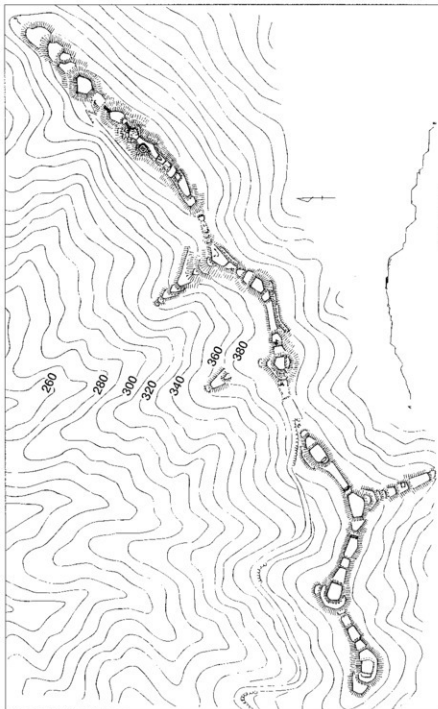
ちとあけ  
d33・n1 本明城跡 江津市有福温泉町本明・那賀郡金城町大字人野 地図番号 26

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 417m 比高 300m

参考文献 『西石見の豪族と山城』『中世の城砦』『日本城郭大系』

概 要

福屋氏後期の拠城とされる。家古屋城から移ったことに関しては諸説があるが、日本海沿岸の水上交通を押さえるのに都合の良い地に移ったのではないだろうか。毛利氏に抵抗した福屋氏は、永祿5年(1562)尼子氏を頼って逃亡したという。なお、福屋氏は城の東北麓の現在福田八幡宮のある丘陵に居住し、福田城と称したと伝えられる。該地には、「土居」「城ノ内」の地名が残っている。



本明城跡跡測図 (S=1:4,000)

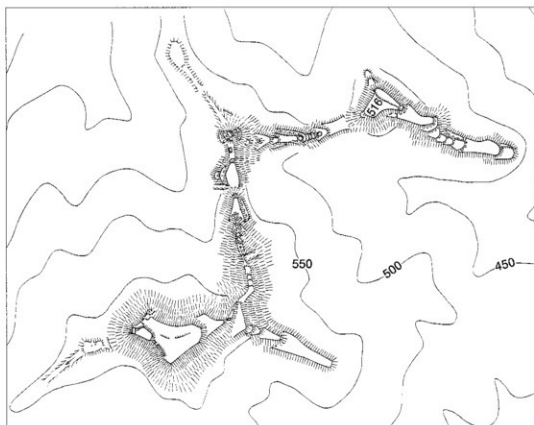
いづみやま  
e1 泉山城跡 邑智郡邑智町大字酒谷 地図番号 3

現状 山林 保存状況 やや良 立地 丘陵頂部 標高 640m 比高 340m

参考文献 『日本城郭全集』『日本城郭大系』『邑智町誌』

概 要

主郭の西端に槽台、そしてその脇に樹形虎口が築かれている。西方の尾根筋には明確な堀切は認められなかった。全山に岩壁が露出する急峻な地形であるため、細い尾根に沿って郭が続く。城主は、佐波氏と伝えられるが、出雲を目指す毛利氏によって改修されたものとも考えられる。



泉山城跡略測図 (S=1:5,000)

このかいら  
e3 九日市城跡 邑智郡邑智町大字九日市 地図番号 3

現状 山林・畑 保存状況 良 立地 丘陵麓部 標高 199m 比高 40m

参考文献 『邑智町誌』『日本城郭大系』

概 要

城の北側には、沢谷川をへだてて邑智町から赤名への道が通り、九日市の集落がある。北側に対しては川もあって堅固だが、南側に向り込まれば比高はほとんど無い。居館は城の東側井元の集落に考えるべきか。町誌は、佐波氏の城とする。



九日市城跡略測図 (S=1:3,000)

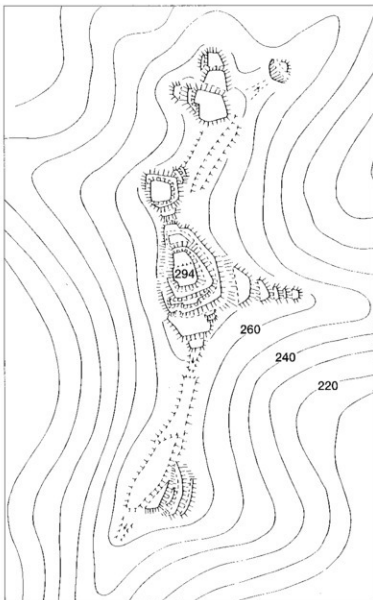
安右工門城跡  
e15 安右工門城跡 邑智郡邑智町大字滝原 地図番号 10

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 294m 比高 250m

参考文献『邑智町誌』『石見誌』

概 要

尾根続き南側にある青杉城に比べ、3か所ないし4か所に分かれた郭間の連絡と防御は不十分である。青杉城に吉川氏の日山(ひのやま)城に類似した虎口などがみられ、吉川氏による改修強化が考えられること、青杉城に佐波氏が拠ったと伝えることからすれば、佐波氏一族がそれぞれ安工門山城・丸屋城・青杉城に分かれて毛利氏の攻撃に抵抗した時の姿を残しているとも想像される。



安右工門城跡略測図 (S=1:2,000)

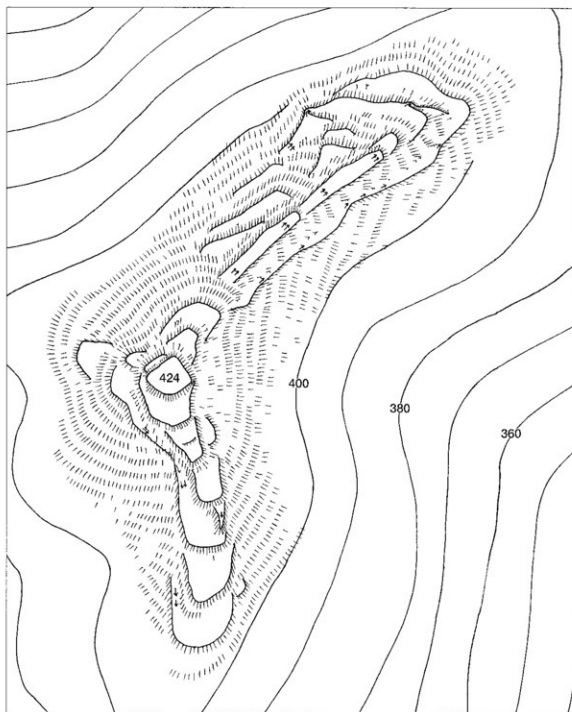
まるや  
e16 丸屋城跡 邑智郡邑智町大字築瀬 地図番号 10

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 424m 比高 350m

参考文献「邑智町誌」

概 要

青杉ヶ城山から北に向かったのびる稜線上に郭を配している。主郭から北東に伸びる稜線の郭群は山腹に沿って細長く難壇状に重ねられている。青杉ヶ城を中心とする佐波氏の支城群の一城として築城されたものを、戦国期に改修した可能性がある。



丸屋城跡測図 (S=1:1,000)



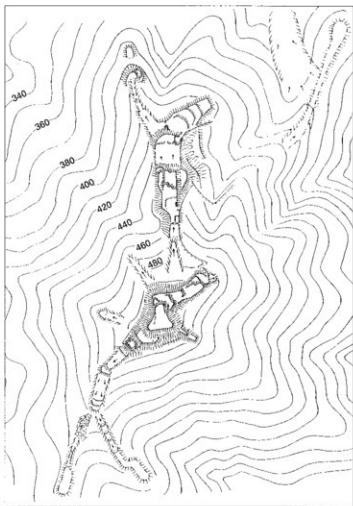
あおやまが  
**e17 青杉城跡** 邑智郡邑智町大字高山 地図番号 10

現状 山林 保存状況 良  
 立地 丘陵頂部 標高 494m  
 比高 420m

参考文献「日本城郭全集」「日本城郭大系」『邑智町誌』

**概要**

主郭は最高所に築かれている。急峻な地形のため堀切は認められないが、虎口がよく発達しており登城ルートが明確である。少し下がった場所にある「寝床」と呼ばれる緩斜面は、駐屯空間として最適である。比高が420mもある高所にこれほどの城郭を整備したことは、この地が戦略的に重要な地であったことを物語っている。城主として佐波氏が知られているが、発達した虎口等からして、改修強化したのは毛利方の古川氏であろう。



青杉城跡地測図 (S=1:4,000)

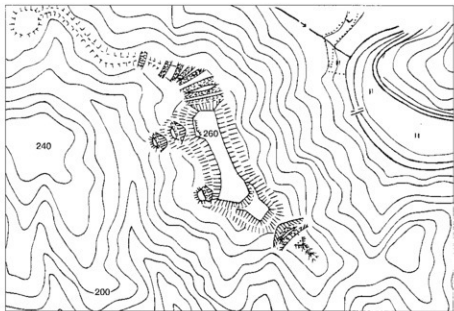
きょうらんばら  
**e25 京覧原城跡** 邑智郡邑智町大字京覧原 地図番号 10

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 257m 比高 130m

参考文献「邑智町誌」  
 「日本城郭大系」

**概要**

堀切によって周囲の尾根から切り離している。北側には7本もの堀切が認められ、尾根続きと西側の尾根からの攻撃を特に警戒しているようである。なお、南側堀切外の小さな郭には岩に柱穴のようなものが2つ残っている。見張り台を建てた跡か。



京覧原城跡地測図 (S=1:4,000)

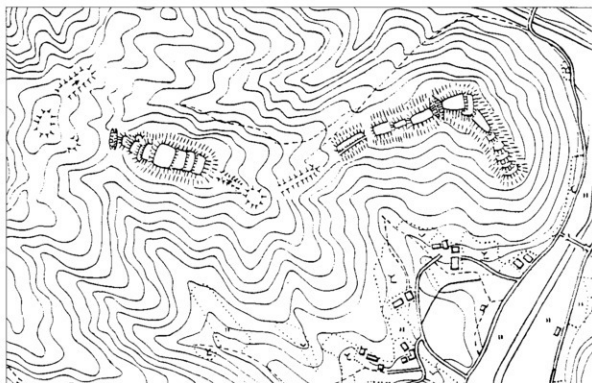
じとうしよ  
e28 地頭所城跡 邑智郡邑智町大字地頭所 地図番号 10

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 232m 比高 150m

参考文献 『邑智町誌』『日本城郭大系』

概 要

城南側の丘は「古城」と呼んでいる。地形的には館が考えられる。現在、福祉施設邑智園が建つ。八幡宮東側山麓には「土居屋敷」の地名が残る。現在、水田になっている部分に水田に似合わない石垣が残り注目される。なお、「土居屋敷」東側山上にも城跡の伝承があり、「陳ヶ曾根」（ちんがそね）と称す。堀切で改修強化されているが、なお精査すれば堀切の外となる尾根にも古い時期の関連遺構が残存するかもしれない。踏査時には笹が繁茂して十分に地表面が観察できていない。



地頭所城跡踏測図 (S=1:5,000)

たかなし  
f9 高梨城跡 邑智郡大和村大字都賀行  
地図番号 11

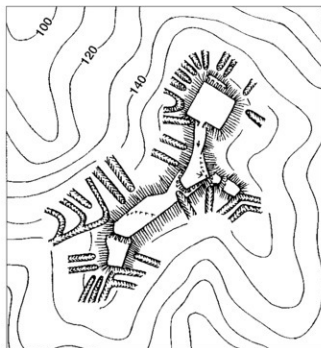
現状 山林 保存状況 やや良

立地 丘陵頂部 標高 178m 比高 160m

参考文献「大和村誌」「邑智郡誌」「日本城郭  
大系」

概要

江川渡河地点を押さえる城である。堅堀で  
守られ、徹底して要塞化されている現在の姿  
は毛利氏によるものと思われる。主郭は送電  
用鉄塔が建てられているため原形を損じてい  
る。堀切の構造が二ツ山城と極めて類似して  
いる。



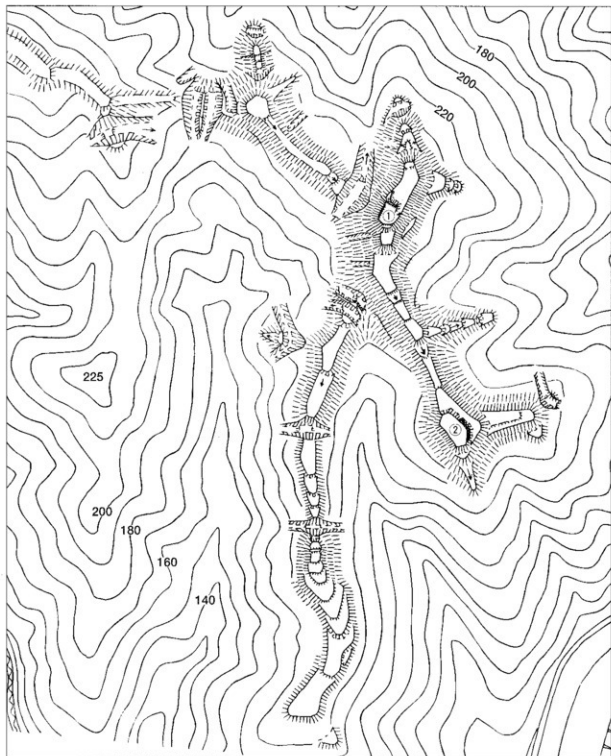
高梨城跡略図 (S=1:2,000)

ようろ  
f16 要路城跡 邑智郡大和村人字都賀西 地図番号 4

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 280m 比高 160m

参考文献『日本城郭全集』『日本城郭大系』

概要 本城郭は安芸吉田から赤名を經由して出雲に至る交通の要地にある。主郭は①郭と考えられ、西から北にかけて土塁が築かれている。主郭西側の尾根筋に対して巨大な堀切が築かれている。この尾根筋に認められる堀切はいずれも深く、他の尾根筋の堀切とは明らかに異なる。これは城域拡大に伴う改修強化によって新たに築き直したものとも考えられる。②郭には石垣が認められる。城主には佐波氏が伝えられる。



要路城跡総測図 (S=1:5,000)

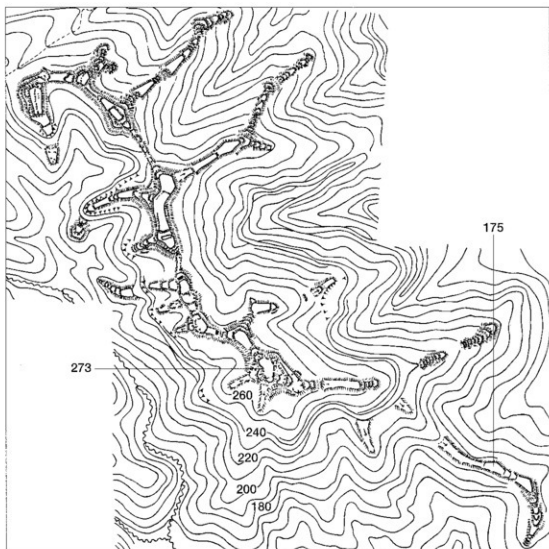
あまこじんしよ  
f17 尼子陣所跡 邑智郡大和村大字都賀西 地図番号 4

現状 山林 保存状況 やや良 立地 丘陵頂部 標高 273m 比高 179m

参考文献『日本城郭大系』

概 要

都賀には古来より知られた江の川の渡川地点が存在する。尼子陣所はこれを押さえるために築かれた橋頭堡である。城域は広大であるが、上郭を断定することはできない。天文10年(1541)に毛利氏を安芸の郡山城に攻めた尼子氏が大内氏の来援によって敗れた際、敗走する軍勢の集結地としてこの陣城を使用したことが伝わる。都賀の地は交通の要衝であったため、尼子氏撤退後も毛利氏によって度々使用されたと推定される。



尼子陣所跡略測図 (S=1:2,500)

じんやま  
**f18 陣山城跡** 邑智郡大和村大字都賀西 地図番号 4

現状 山林 保存状況 不良 立地 丘陵頂部

標高 433m 比高 300m

**概要**

要路城背後の最高所に作られた城である。要路城・  
尼子陣所・都賀東城・上野城などを足下に見下ろすこ  
とができる。また、赤名方面から大和村に通じる峠道  
もほとんどが見通せる。城は、切岸の肩が流れ残存状  
況はあまり良くない。



陣山城跡略測図 (S=1:2,000)

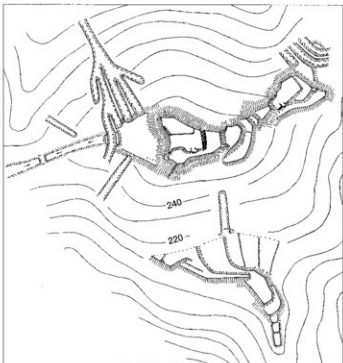
びわこ  
**g3 琵琶甲城跡** 邑智郡羽須美村大字下口羽 地図番号 5

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 280m 比高 160m

参考文献『日本城郭全集』『日本城郭大系』

**概要**

主郭は突出した尾根の頂上付近に構築さ  
れている。その東側斜面には石が一面に  
張ってあり主郭の地盤を補強している。こ  
こには重量感のある建造物が築かれたの  
だろうか。なお、虎口は小規模だが石積が随  
所に認められるものである。主郭西南に  
は規模の大きな郭が築かれている。この  
主郭側の壁は削り込まれているが、尾根  
筋に対しては浅い堀切が2本築かれてい  
るだけである。堀切の北端は、竪堀となっ  
て北側に築かれている連続竪堀群に合流  
している。この連続竪堀群は規模が大き  
く、尾根筋の防御施設と比較するとその  
差が著しい。したがって、主郭西の郭は連  
続して築かれていた堀切を破壊して築か  
れた可能性もうかがえる。主郭南側の中



琵琶甲城跡略測図 (S=1:3,000)

腹には居住空間と考えられる郭が存在する。城主には毛利氏と姻戚関係にある羽刃(志路)氏が伝えられて  
いる。

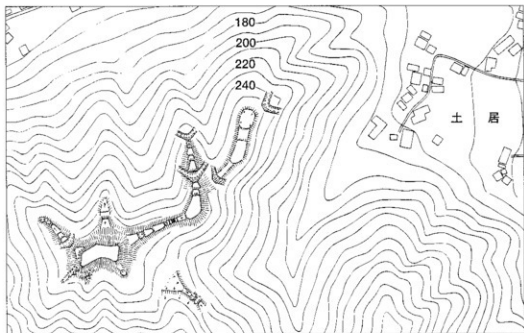
はたや  
g5 幡屋城跡 邑智郡羽須美村大字下口羽 地図番号 5

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 320m 比高 180m

参考文献「日本城郭大系」

概要

主郭から伸びる稜線上に郭を配し、堀切によって支脈伝いの攻撃に備えている。特に東側の稜線が堅固に固められている。その東側の山裾には「土居」の地名が残っており、居館と詰の城の関係を想起させる。



幡屋城跡略測図 (S=1:5,000)

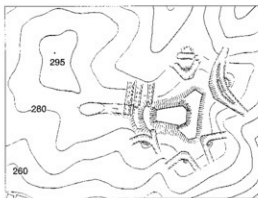
まきお  
g6 槇尾城跡 邑智郡羽須美村大字上田 地図番号 5

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 301m 比高 80m

参考文献「日本城郭大系」

概要

主郭から放射状に伸びる稜線上に堀切を設け、その両端を谷斜面に向かって豎堀状に下ろしている。特に主郭から北東に伸びる稜線上の堀切は、最も大規模で、二重堀切とされ、両端とも谷斜面で合流させている。主郭西側の丘陵上は明確な遺構は認められないが、駐屯空間として利用された可能性がある。

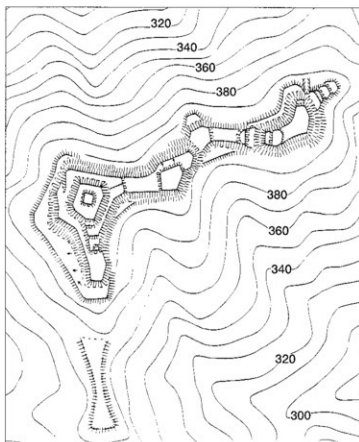


槇尾城跡略測図 (S=1:4,000)

わしかげ  
g10 鷲影城跡 邑智郡羽須美村大字阿須那 地図番号 5

現状 山林 保存状況 良  
立地 丘陵頂部 標高 422m  
比高 230m  
概要

独立峰上の西側に上郭を設けている。そこを取り巻くように配された腰郭間の連絡が良い特色ある縄張となっている。ただし、主郭から東方に伸びる稜線上の郭間には堀切が設けられ、東端の郭群との連絡を遮断している。東端の郭群は、西側に設けられた主郭に対して独立したものとえよう。



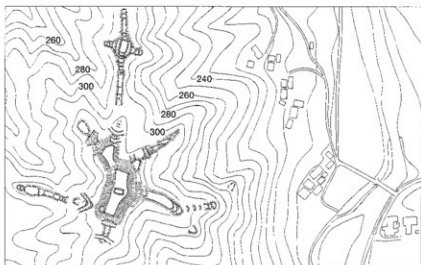
鷲影城跡略測図 (S=1:3,000)

みじかげ  
g13 藤掛城跡 邑智郡羽須美村大字阿須那 地図番号 12

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 358m 比高 180m  
参考文献 『日本城郭全集』『日本城郭大系』

概要

主郭は最高所に築かれており、中央には地元では櫓台と呼ばれている壇状の高まりが認められる。このように主郭の中央に櫓台状の壇を築く例は、川木町の飯の山城、三隅町の高城、松江市の白鹿城に認められる。東側は地形が急峻であるため堀切は築かれていないが、他の尾根筋は全て堀切が築



藤掛城跡略測図 (S=1:6,000)

かれており、防衛を固めている。北側に所在する郭群は主郭周辺と比較して明らかに普請の差が認められるため、古い時代の遺構とも考えられる。城主には高橋氏が伝えられている。



かんのみ  
g14 観音城跡 邑智郡羽須美村大字雪田

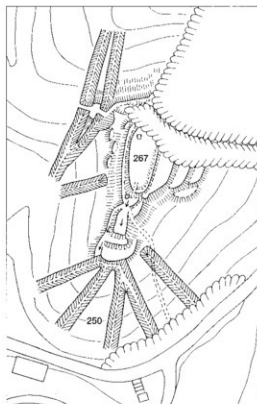
地図番号 12

現状 山林 保存状況 やや良 立地 丘陵先端

標高 260m 比高 30m

概要

伝承等が無く来歴は不詳であるが、丘陵先端の頂部に主郭をもち、帯郭と堅堀が明確に認められる小規模な城郭である。



観音城跡略測図 (S=1:1,500)

さかもと  
g15 坂本城跡 邑智郡羽須美村大字雪田

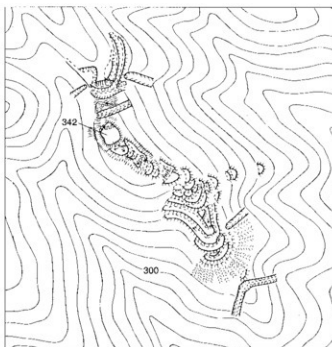
地図番号 12

現状 山林 保存状況 やや良

立地 丘陵頂部 標高 350m 比高 80m

概要

伝承等が無く来歴は不詳であるが、多数の郭が尾根筋に連なっている。尾根筋の先端付近の斜面には連続する堅堀らしき加工がうかがえ興味深い。



坂本城跡略測図 (S=1:2,500)

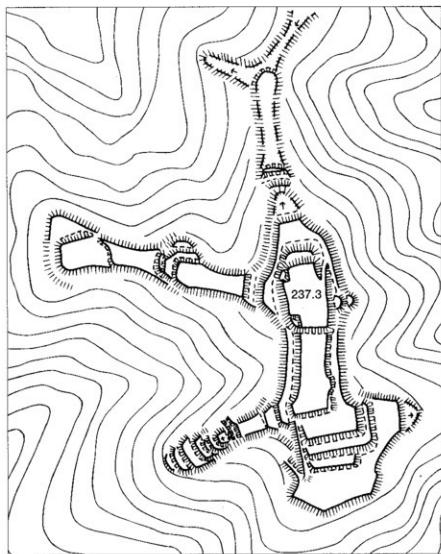
h8 別当城跡 べっとう 邑智郡瑞穂町大字和田 地図番号 12

現状 山林 保存状況 やや良 立地 丘陵頂部 標高 437m 比高 170m

参考文献「日本城郭全集」「日本城郭大系」「瑞穂町誌」

概要

主郭は最高所だが、防衛施設は全山に築かれている。陣城として度々使用されたとされ、在陣した勢力として高橋師光、そして尾子氏の大將として本城経光等が知られる。



別当城跡略測図 (S=1:2,000)

h11・h12・h13 <sup>うやま</sup>宇山城塞群 (白鹿城・赤城・毛城など) 邑智郡瑞穂町大字原村上原

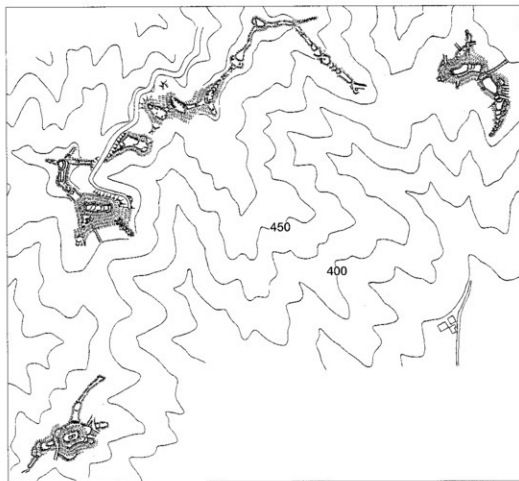
地図番号 12

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 510m

参考文献 『日本城郭大系』 『瑞穂町誌』

概要

この城砦群は、赤城、白髪城、毛城等によって構成された城郭群である。ただし三城とも縄張りが微妙に異なるため、同一時期に整備されたとは断言できない。城主には出羽氏が伝わる。



宇山城塞群跡略測図 (S=1:12,000)

h21 <sup>みたつやま</sup>ニツ山城跡 邑智郡瑞穂町大字鱒淵 地岡番号 12

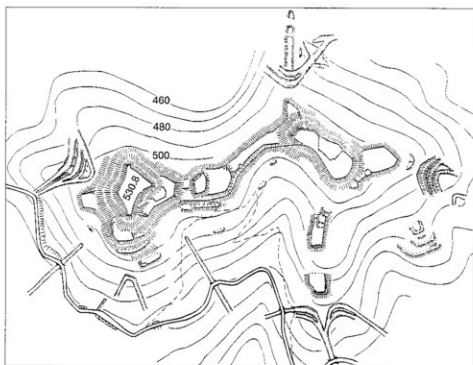
現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 510m 比高 200m

史料 『出羽家文書』『ニツ山家文書』『萩藩閩閩録』

参考文献 『陰徳太平記』『石見誌』『邑智郡誌』『瑞穂町誌』『日本城郭大系』

概要

出羽氏、高橋氏の城として知られる。出羽氏には毛利元就の六男元俱が養子となっている。石積や堀切・塹壕・土塁の見える城の中心部分は、出羽氏が毛利氏に従い養子を迎えてから出雲の頓原に移転させられるまでの1570年代あるいは80年代に一応完成したものかもしれない。城の遺構は中心部分よりさらに南北に広がるが、未踏査・縄張図未作成の部分が残っている。



ニツ山城跡縄張図 (S=1:4,000)

h24 <sup>ほん</sup>本城跡 邑智郡瑞穂町大字下田所 地図番号 12

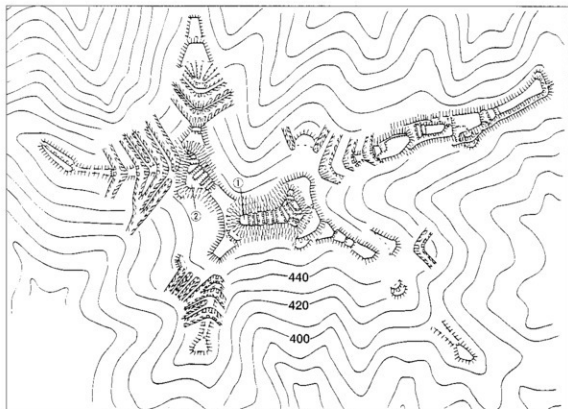
現状 山林 保存状況 やや良 立地 丘陵頂部 標高 486m 比高 160m

参考文献 『日本城郭全集』『日本城郭大系』『瑞穂町誌』

概 要

①郭(主郭)は最高所と考えられるが、郭全体が刻み込まれている。また、②郭も同様に刻み込まれており防衛拠点としての使用は不可能なものになっている。これは破城によるものと推察されるが、ここまで徹底的に破壊された事例は、国内でもほとんど例を見ない。破壊したのは毛利氏であろうか。

高橋(本城)氏の居城として知られている。



本城跡地形図 (S=1:2,500)

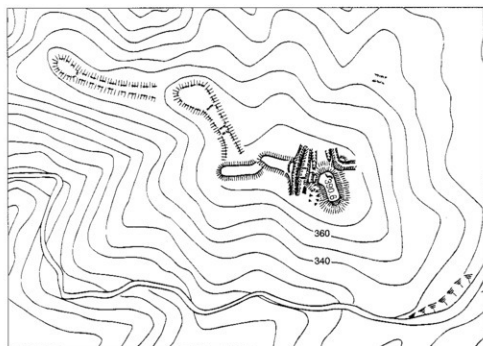
i2 赤城山城跡 邑智郡川本町大字川本 地図番号 11

現状 山林 保存状況 やや良 立地 丘陵頂部 標高 390m 比高 90m

参考文献 「日本城郭全集」 「川本町誌」

概要

温湯城より先に築かれ、温湯城に小笠原氏の本拠が移されてからは温湯城の出城として扱われたとされる。温湯城を見下ろす位置にあり、江川が見渡せる。赤城山、中山、城山から構成される大きな城だが、毛利氏の進攻時に小笠原氏によって中心部だけが改修強化されたものと推測される。「土居」「赤城山」「中山」「城山」の字名が残る。



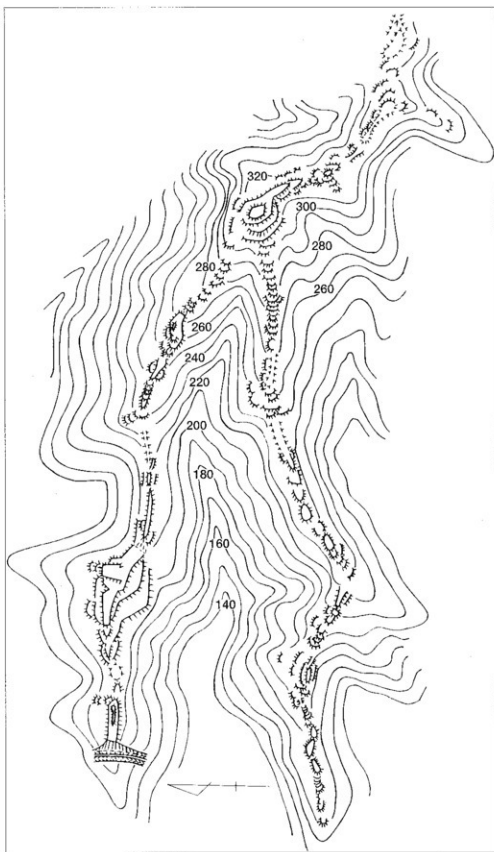
赤城山城跡略測図 (S=1:3,000)

い3 <sup>えびや原</sup>会下山城跡 邑智郡川本町大字市井原 地図番号 11

現状 山林 保存状況 やや良 立地 丘陵頂部 標高 330m 比高 300m

概要

毛利氏が温湯城の小笠原氏を攻めた時に築いた陣城であろう。東側は温湯城に接し、一番東側にある堀切から温湯城の間には、平坦な尾根が50mほどある。小規模で加工も粗略な削平地が重なるが、実戦に有効だからこそ築かれたのであろう。温湯城に接近した地点に築かれた二重堀切は、注目に値する。



会下山城跡略測図 (S=1:4,000)

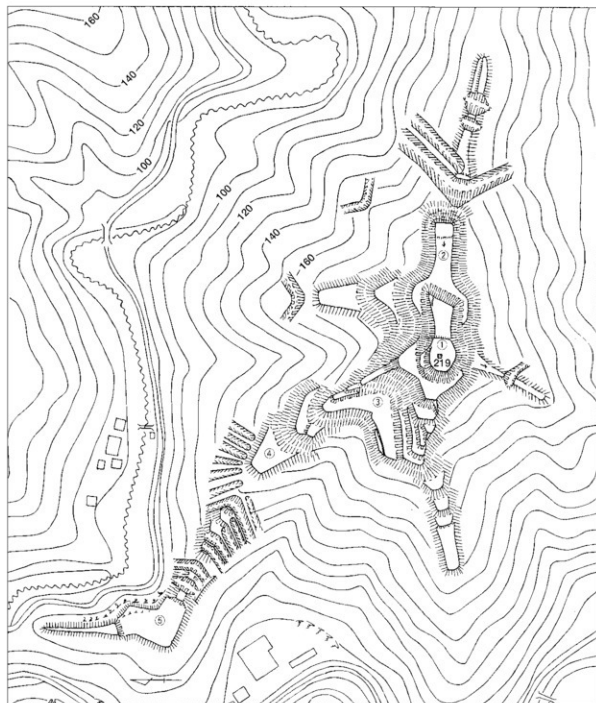
i4 温湯城跡 邑智郡川本町大字市井原 地図番号 11

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 219m 比高 180m

参考文献 『日本城郭全集』『日本城郭人系』『川本町誌』

概要

①郭(主郭)は2段から成り、北側に虎口が認められる。②郭の東端の高まりは櫓台と思われる。尾根筋は櫓台と連続竪堀によって遮断している。石垣が築かれている③郭は「バセンバ」と伝えられているが、居住空間の可能性がある。「テラヤシキ」と伝えられている④郭から「クラヤシキ」と伝えられる⑤郭にかけて連続堀切群と連続堅堀群が築かれている。この城は一時石見銀山を領した小笠原氏の居城とされる。



温湯城跡地図 (S=1:3,000)



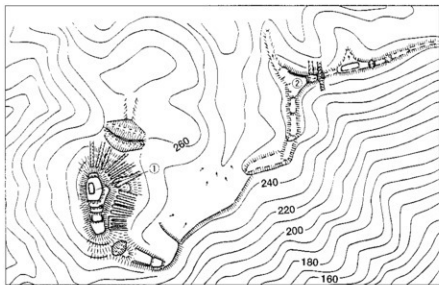
いいのやま  
i6 飯の山城跡 邑智郡川本町大字谷戸 地図番号 17

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 294m 比高 260m

参考文献 『日本城郭大系』 『川本町誌』

概 要

①郭(主郭)には櫓台状の壇が築かれている。①郭北側から東側にかけて連続竪堀群が築かれており、連続堀切とともに尾根筋からの攻撃に備えている。②郭は東方の尾根筋に備えた郭で、土塁と連続竪堀によって遮断している。①郭と②郭によって囲まれた空間は高地にかかわらず水の確保が容易であるなど、生活空間(駐屯空間)としては最適で、この空間の確保が築城目的の一つと思われる。城主には、福屋氏、小笠原氏が伝えられる。



飯の山城跡略測図 (S=1:2,000)

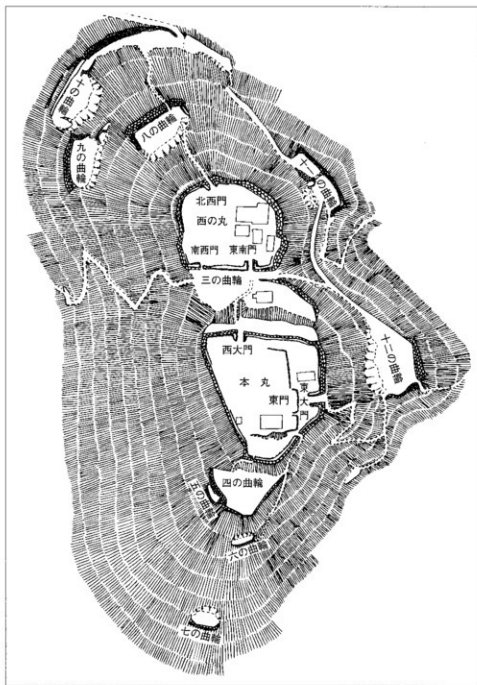
実るやま  
i16 丸山城跡 邑智郡川本町大字三原 地図番号 17

現状 山林他 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 480m 比高 250m

参考文献 『日本城郭大系』 『川本町誌』

概要

基本的に総石垣の城郭である。主郭の周囲に石塁を巡らすが、虎口の部分だけ石垣を高く積み、他は背丈程の高さしかない。また、横矢を射るための折りも、櫓台等の防衛施設も認められない。発掘調査で複数の礎石が検出された。築城は、毛利氏によって温湯城を追われた小笠原氏によるものとされる。



丸山城跡跡測図 (S=1:2,000)  
(川本町教育委員会原図を一部改定して使用)

<sup>どい</sup>  
**17 土居城跡** 邑智郡川本町大字田窪

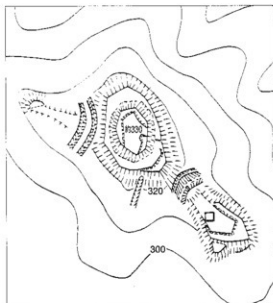
地図番号 17

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部

標高 320m 比高 60m

**概要**

堀切・竪堀などに改修の痕跡を認め得るが、城の基本デザインはかなり古いことをうかがわせる。桜江町から三原中心部に通じる道を押さえる交通の要地にある。小笠原氏に関係する城と伝えられている。雑草が繁っていて、踏査は不十分である。



土居城跡略測図 (S=1:3,000)

<sup>くもい</sup>  
**18 雲井城跡** 邑智郡石見町大字井原 地図番号 18

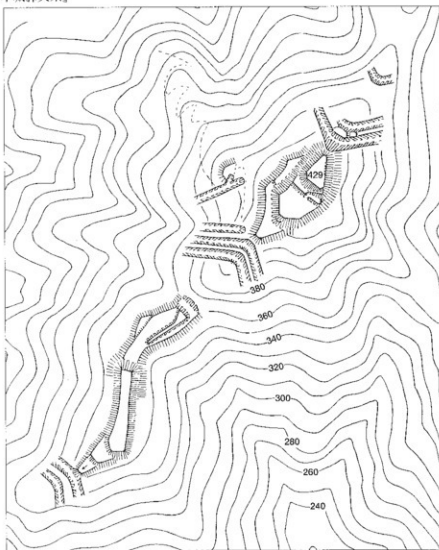
現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部

標高 429m 比高 260m

参考文献「石見八重葎」【日本城郭大系】

**概要** 広島へ通じる

交通の要路にあたり、「鯖市」ともいわれた「五日市」の地名が仏原に残っている。また、「馬場」「土居」「御本地」「寺止院」の字名もある。天蔵寺は、かつての城主の菩提寺と伝えられる。城主には久永荘を治めた久永氏の名を伝えるが、その後は井原氏の名も見える。中世末には小笠原氏の城となって、弘治3年(1557)5月吉川元春に攻められ落城したという。地元伝承では、尼子氏の多胡時隆が東明寺山に陣を築いて攻撃し落城したという。雲井城向かいの山は「陣在地」(じんざいち)という。なお、主郭の南東方向にのびる尾根上にも郭が認められる。



雲井城跡略測図 (S=1:4,000)

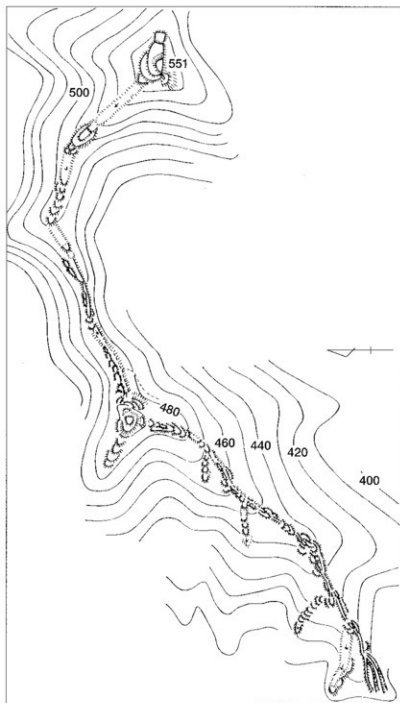
おあたにやま  
j9 大谷山城跡 邑智郡石見町大字日和 地図番号 17・18

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 551m 比高 200m

概 要

吉川元春が日和城を攻めるために築いた城で、吉川喜兵衛が居城したと伝える。

小さな削平地を延々と重ねて、ひたすら日和城の方向へ城が伸びる形態が認められ、日和城攻撃のための陣城という伝承と重なる。主郭は断定できないが、小さな削平地が日和城の間近まで築かれている。



大谷山城跡略測図 (S=1:4,000)

k9 市山城跡 邑智郡桜江町大字市山 地図番号 22

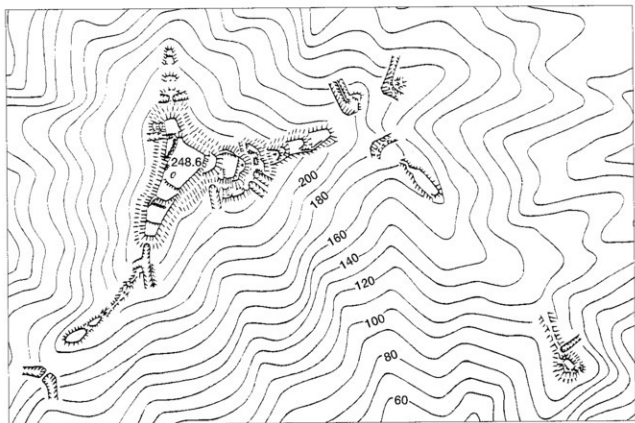
現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 248m 比高 230m

史料 『都治羽積根本之事』 『吉川家文書』

参考文献 『桜江町誌』 『日本城郭大系』

概要

築城者は康永元年(1342)、天野道兼という。また、延元4年(1339)南朝方に攻められるという。正平5年(1350)には上杉・高向氏に攻められる。永禄3年(1560)、吉川氏に攻められ落城したという。土塁・石垣・堀切・連続堅堀・虎口によって守られた城の現況は、吉川氏によって地域を制圧する拠点として強化された姿を示すものであろう。



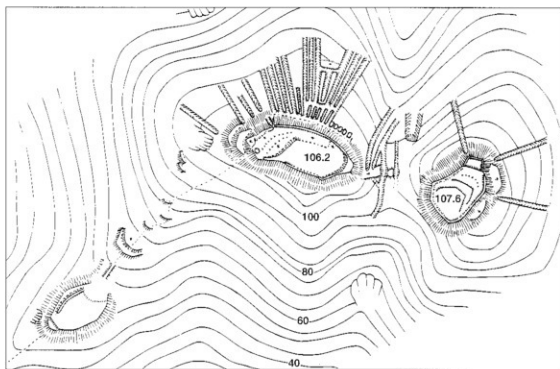
市山城跡地形図 (S=1:3,000)

ようがいま  
112 要害山城跡 浜田市内田町 地図番号 33

現状 山林 保存状況 やや良 立地 丘陵頂部 標高 166m 比高 80m

概要

南から浜田市周布へ入る、周布川の流れる谷がようやく広くなったカーブに位置する。堅堀・堀切・土塁において戦国末期の改修がうかがわれるが、郭が2～3に分散する形態からして相互の連絡は悪そうである。最新のパーツと古い設計が共存するものと思われ興味深い。



要害山城跡略測図 (S=1:2,000)

はまだ  
115 浜田城跡 浜田市殿町 地図番号 33

現状 社寺境内他 保存状況 不良 立地 丘陵一帯 標高 68m 比高 67m

参考文献 『浜田市誌』『日本城郭全集』『日本城郭大系』『山陰の城下町』

概要

浜田の地は「番馬塔」として明国に知られるように貿易港として栄えてきた。一般に江戸期になって古田氏が入封して初めて城が築かれたと言われるが、それ以前に毛利氏が夕日ヶ丘に陣屋を築きこの地を支配していたとされる。夕日ヶ丘は近世城郭に取り込まれ現在は宅地になっているが、中世城郭の面影を随所に認めることが出来る。また、江戸期の主郭の北方に空堀と堀切が確認されたことから、この地点も古田氏以前の城郭を推定させる。近世の浜田城は主郭周辺を石垣で固めていたが、破損が著しい。特に主郭の石垣はほとんど破壊されている。さらに、近年の公園化、石垣の積み直しにより護国神社から主郭までのルートも変更された。護国神社東側の谷間に石垣で築かれた中門の跡が残る。現在民家に埋もれているが、当時は大手門からのルートと裏門からのルートがここで合流する要衝であったと推定される。城主は、古田氏、松平(松井)氏、本多氏、松平(松井)氏と続き、竹島駆動の後に入封した松平氏が長州軍に攻められるまで続いた。

(略測図は、187頁参照)



酒田城跡略測図 (S=1:3,000)

とびのす  
116 高巣城跡 浜田市周布町 地図番号 33

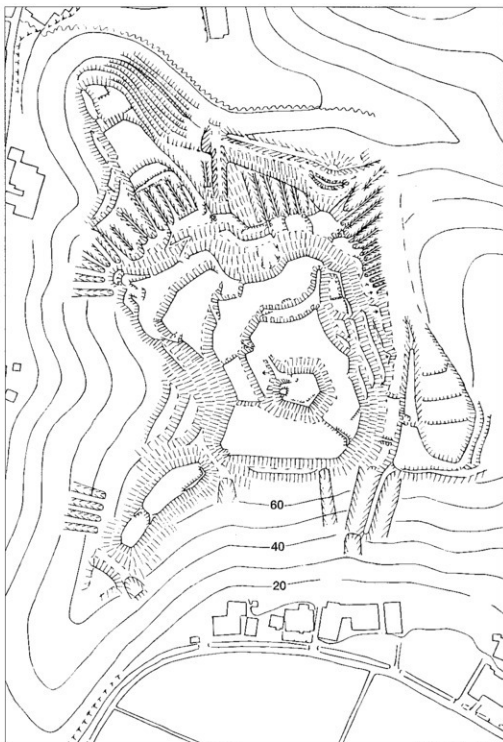
現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 82m 比高 70m

参考文献『日本城郭全集』『日本城郭大系』『西石見の豪族と山城』

概要

周布氏の居域として知られる。主郭は最高所の檜台状に削り込まれた地と考えられる。主郭の周囲は郭を取り巻くが、下位の郭との段差はいずれも低い。この南側から西側にかけては急峻な地形のため西

南の尾根筋に堀切を2本築くのみであるが、やや緩やかな地形である東側の尾根筋から北西側にかけては重点的な普請がなされている。具体的には、東側の尾根筋に対して壁を削り込んだ堀切を設け、尾根上を掃射する位置に土塁を築いて防衛を固めている。堀切の北方は、再び地形が緩やかになるためここに連続縦堀を築いている。また、水溜兼用とも考えられる空堀も築かれており苦心の跡がうかがえる。



高巣城跡地形図 (S=1:2,000)



おおいしだに  
m7 大石谷城跡 那賀郡旭町大字本郷 地図番号 23

現状 山林 保存状況 やや良

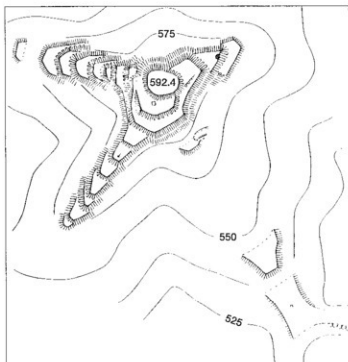
立地 丘陵頂部 標高 592m

比高 280m

参考文献『和田村誌』

概要

中継所が建っているが、縄張りは良く残っている。主要地方道浜田作木線(旧広島街道)沿いに位置し、縄張りは、全体的に西へ向いている。福屋氏の城と伝えらる。「城山」の名を今に伝えている。



大石谷城跡略地図 (S=1:3,000)

かこや  
m10 加古屋城跡

那賀郡旭町大字今市 地図番号 23

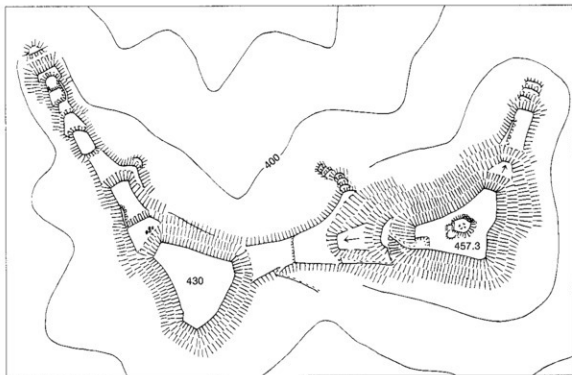
現状 山林 保存状況 良

立地 丘陵頂部 標高 457m

比高 150m

参考文献『西石見の豪族と山城』『旭町誌』『日本城郭大系』

概要 福屋氏初期の拠城とされる。城の南西麓に今市の集落が形成されている。周辺に「下城」「小谷城」「御神本」「上居」などの地名が見られ、今市に福屋氏の居館を推定する説もある。しかし、縄張りが北に向かって展開しており、北麓の清水谷周辺の可能性もある。東麓には、「小城谷」の地名が残っている。



加古屋城跡略地図 (S=1:2,000)

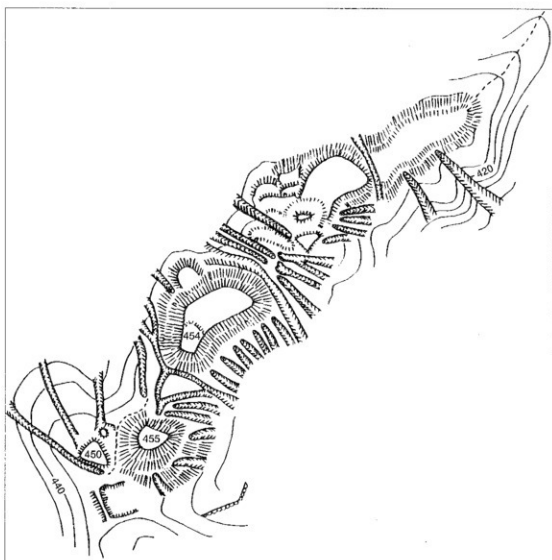
は ぎ いっほんまつ  
n8 波佐一本松城跡 那賀郡金城町大字波佐 地図番号 28

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 450m 比高 80m

参考文献『日本城郭人系』

概 要

周布川と周布川支流の長田川の合流点に位置し、北に波佐中心部をのぞむ丘陵先端部にある。広島県境に近く、交通の要地をおさえる城である。ただ、堀切・堅堀・連続駱駝を多用しながら、郭間の連絡は悪い。村田修三氏も指摘しているように、尾根続きのさらに南側にある水見城など、周辺部をさらに踏査して評価する必要がある。



波佐一本松城跡略測図 (S=1:2,000)

とやごう  
○4 鳥屋尾城跡 那賀郡三隅町大字井野 地図番号 34

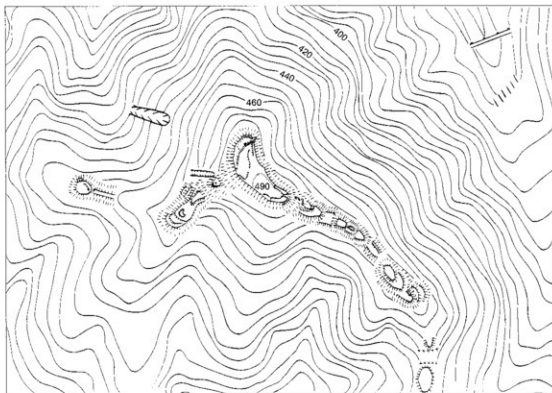
現状 山林 保存状況 やや良 立地 丘陵頂部 標高 490m 比高 200m

史料『益田家文書』『古川家文書』

参考文献『西石見の豪族と山城』『三隅町誌』『日本城郭大系』

概要

現浜田市の周布との交通路を押さえ、しかも北側周布氏所領との境界の近くに位置する。土塁などで強化改修された姿から井村氏(三隅氏)支配の後も、重要拠点として整備されたと考えられる。



鳥屋尾城跡地形図 (S=1:2,000)

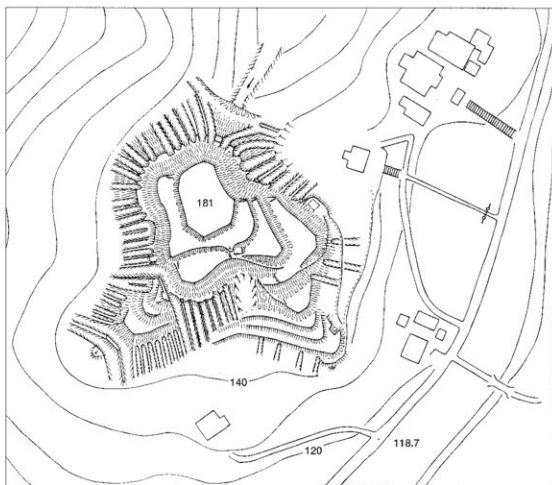
05 <sup>いの</sup>井野城跡 那賀郡三隅町大字井野 地図番号 34

現状 社寺境内 保存状況 良 立地 丘陵先端 標高 178m 比高 60m

参考文献『日本城郭全集』『日本城郭大系』『三隅町誌』『西石見の豪族と山城』

概要

三隅氏の高城(三隅町)と永安氏の矢懸城(弥栄村)のほぼ中間に位置する。放射状に連続竪堀群を設けているが、築き方には、直接斜面に築くパターン、土壘を破棄して築くパターン、削平地を破壊して築くパターン等が認められる。主郭の南西に存在する窪地は井戸とされているが、虎口がこの窪地に接して築かれているようなので空堀の可能性が高い。



井野城跡略測図 (S=1:2,000)

たかじょう  
o16 高城跡 那賀郡三隅町大字三隅 地図番号 40

現状 山林・社寺境内 保存状況 やや良 立地 丘陵頂部 標高 362m 比高 200m

史料 「益田家文書」「古川家文書」

参考文献 「西石見の豪族と山城」「三隅町誌」「日本城郭大系」

概要

三隅氏の居城である。昭和58年(1983)の大水害で斜面各所が崩れ落ちている。登山道と水害の崖崩れのために損壊した郭や塹壕がありそうだ。主郭を中心に小さな削平地が見られるのは激しい攻城戦があったという伝承と一致する。堀切と塹壕で区画された中心部の外側に古い三隅城の遺構が残っていると推定される。



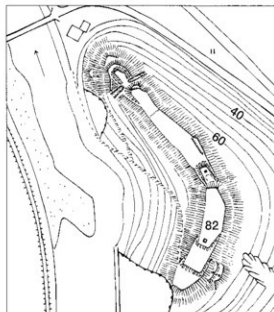
高城跡跡測図 (S=1:3,500)

○17 <sup>こうち</sup>河内城跡 那賀郡三隅町大字河内  
地図番号 40

現状 山林・社寺境内 保存状況 やや良  
立地 丘陵頂部 標高 82m 比高 60m  
史料 『萩藩閩閩録』周布吉兵衛  
参考文献 『西石見の豪族と山城』『三隅町誌』『日本城郭大系』

概要

西側の尾根との間には三隅川が流れ、独立した丘陵全城を城としている。三隅氏一族の三浦氏の拠城と伝えられている。谷が狹まったところにあり、北側三隅の町と南側の交通を監視する要地にある。



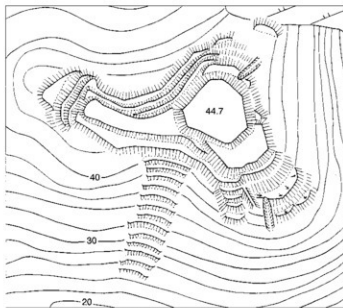
河内城跡略測図 (S=1:3,000)

○30 <sup>はりも</sup>針藻城跡 那賀郡三隅町大字古市場 地図番号 40

現状 山林・畑 保存状況 不良 立地 丘陵頂部 標高 51m 比高 44m  
史料 『益田家文書』  
参考文献 『日本城郭大系』『西石見の豪族と山城』『三隅町誌』

概要

現在は三隅川の河口左岸の、湊浦港を見下ろす独立丘陵の東端に位置するが、針藻島とも呼ばれているように元来は島であったらしい。主郭を中心に三方に階段状に郭を配しているが、北東側は道路建設のために削られているので旧状は判然としない。城の西部の丘陵を七檜と呼んでおり、耕作によって形跡は残らないものの、わずかなピークごとに郭を配していたことが推測される。



針藻城跡略測図 (S=1:2,500)

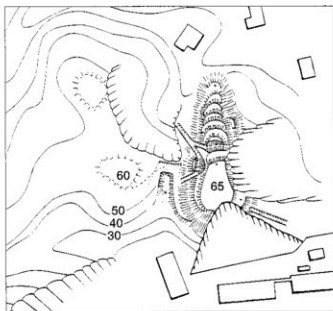
じろうまる  
o34 次郎丸城跡 那賀郡三朗町大字岡見 地図番号 40

現状 山林 保存状況 やや良

立地 丘陵先端 標高 65m 比高 50m

概要

破壊されて城の全貌がうかがえないのが残念である。堀切・堅堀を使って背後の尾根を遮断し、小さいながらも厳重に守られている。岡見川にも近く、水上交通を含めて交通の要所を押さえる目的を持った監視哨といったところか。



次郎丸城跡略測図 (S=1:2,000)

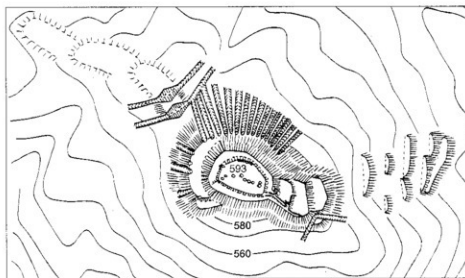
ちほやま  
p5 千穂山城跡 那賀郡弥栄村大字小坂 地図番号 34

現状 山林・社寺境内 保存状況 やや良 立地 丘陵頂部 標高 593m 比高 180m

参考文献 『弥栄村誌』『日本城郭大系』

概要

永安氏が吉川勢に攻められて落城したと伝えられる。街道を押さえ矢懸城とセットで長安本郷の地を守るのが主な任務の城であろう。西側堀切外側の普請の不十分な削平地は、古い城の姿を残したもののか。東側の何段かの削平地は籠城に際し改修されたものであろうか。



千穂山城跡略測図 (S=1:3,000)

やがほ  
p6 矢懸城跡 那賀郡弥栄村大字長安本郷 地図番号 34

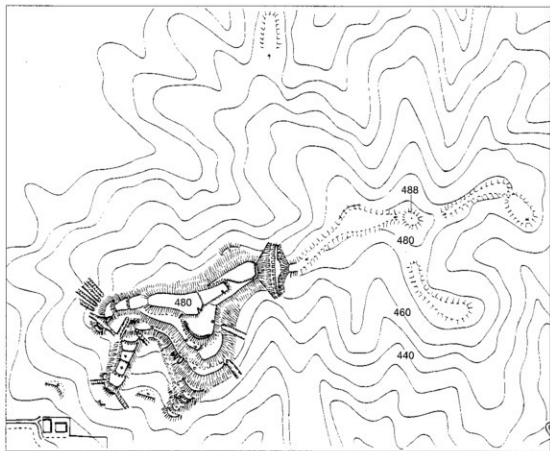
現状 山林 保存状況 やや良 立地 丘陵頂部 標高 488m 比高 90m

史料 『萩藩閩閩録』山田吉兵衛

参考文献 『西石見の豪族と山城』『六日市町史』『弥栄村誌』『日本城郭人系』

概要

永安氏の在地支配の拠城と伝える。永安氏は後に益田氏に従い陶方として毛利に抗したという。天文23年(1554)、一説には弘治元年(1555)あるいは弘治3年(1557)に吉川氏など毛利方の攻撃を受け落城したと伝えられる。城の現況は、さらにそれ以降のものかもしれない。城の登り口まで重機掘削による登山道がつけられている。



矢懸城跡地測図 (S=1:2,500)



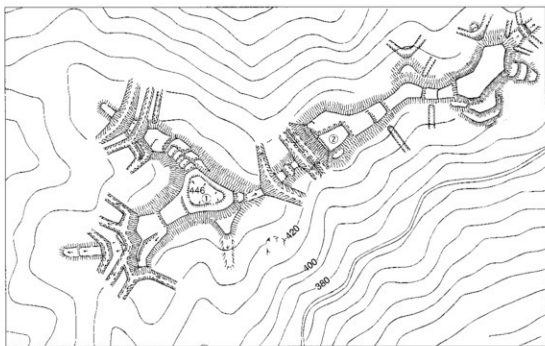
ヤがわ  
p7 矢川城跡 那賀郡弥栄村大字大坪 地図番号 34

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 446m 比高 86m

概 要

永安氏の居城である矢懸城がよく見える場所に位置している。主郭は最高所の①郭と考えられるが、普請が不十分なものとなっている。しかし尾根続きは横掘と塹堀によって遮断している。横掘と塹堀を組み合わせた防御施設は県内でも類例が少ない。

②郭は、普請は活発に行なわれたものと判断されるが、①郭からは見下ろされる位置にある。主郭が②郭から①郭に移行した可能性も考慮する必要がある。



矢川城跡略測図 (S=1:2,500)

たき  
p14 田屋城跡 那賀郡弥栄村大字木部賀 地図番号 34

現状 山林他 保存状況 不良 立地 丘陵先端 標高 310m 比高 40m

参考文献『日本城郭全集』『日本城郭大系』『西石見の豪族と山城』

概要

主郭は台地の先端に位置し、土塁と堀切によって遮断されている。現在、竹東小学校の建つ地点も城域であった可能性があるが、現状では確認できない。小学校の南側に「ホリワリ」の地名が残る。城主に三浦氏が伝えられて

いる。なお、堀切に接して三浦兼春の墓と称する古墓がある。



田屋城跡略測図 (S=1:3,000)

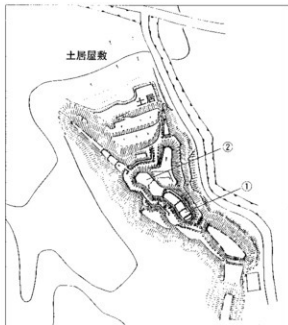
はだ  
q10 波田城跡 益田市波田町 地図番号 42

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵先端 標高 240m 比高 40m

参考文献『西石見の豪族と山城』『中世益田氏の遺跡』

概要

主郭南端の櫓台と連続堀切によって尾根筋を遮断している。主郭西側に横掘が築かれており、この横掘は②郭の北側を取り巻いて土居まで続く。土居から②郭までは明らかに堀底道として使用しているが、主郭の付近では堀底を仕切るように土塁が築かれている。これは侵入勢力を誘い込む施設と考えられる。城主には波田氏が伝えられている。



波田城跡略測図 (S=1:2,000)

うまのたにのみかだけ  
q11 馬谷高嶽城跡 益田市馬谷町 地図番号 42

現状 山林他 保存状況 やや良

立地 丘陵頂部 標高 460m 比高 210m

参考文献『日本城郭全集』『西石見の豪族と山城』『益田市誌』

概要

上郭は最高所の①郭で土塁と虎口が認められる。②郭には山口神社の跡が残る。北側に虎口が築かれており、石で補強してある。これを下りると「馬釣井戸」と称する井戸がある。③郭西方には土塁が築かれており、この方面からの備えとしている。③郭から北に続く尾根筋は連続堀切で遮断している。②郭南方にまとまった郭が築かれており、横井戸の存在が伝えられている。

城上には、平宗範、足利直冬、杉森氏等が伝えられている。



馬谷高嶽城跡測図 (S=1:4,000)

おおたにどい  
q14 大谷土居跡 益田市大谷町  
地図番号 41・42

現状 畑 保存状況 やや良

立地 丘陵麓部 標高 50m

参考文献『日本城郭大系』『西石見の豪族と山城』『中世益田氏の遺跡』

概要

本館跡は尾根の先端部に築かれており、周囲に「土居原」、「下屋敷」、「土居のそね」、「明神丘」等の地名が残る。館の周囲は川の付け替えによる改変が著しい。尾根筋に防御施設が認められないことから、古い時代の姿を留めているものと考えられる。



大谷土居跡測図 (S=1:3,000)

q15 <sup>ななね</sup>七尾城跡 益田市七尾町 地図番号 47

現状 山林・社寺境内 保存状況 良 立地 丘陵頂部～麓部 標高 116m 比高 110m

参考文献 『日本城郭全集』『日本城郭大系』『西石見の豪族と山城』『中世益田氏の遺跡』『益田七尾城史』

概要

①郭の南端の上塁は破壊された櫓台である。この櫓台と深い堀切、そして③郭東側に築かれた連続縦堀群によって尾根伝いを遮断している。連続縦堀群は北西の「良の出入」にも築かれている。②郭の北端にも櫓台が築かれているが直下の堀切は堀底道として使用されていた可能性が高い。近年の調査により多くの礎石や瓦片、カワラケ片等が発見されている。

この城は、益田氏の本拠で、毛利氏にしたがって長州須佐に移るまで機能していた。

(略測図は、201頁参照)

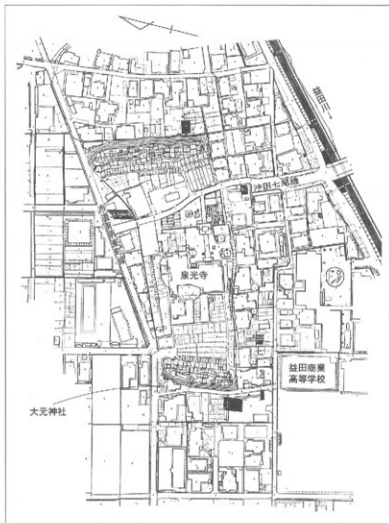
q18 <sup>みやげおどい</sup>三宅御土居跡 益田市三宅町 地図番号 47

現状 畑・宅地・社寺境内 保存状況 良 立地 平野部

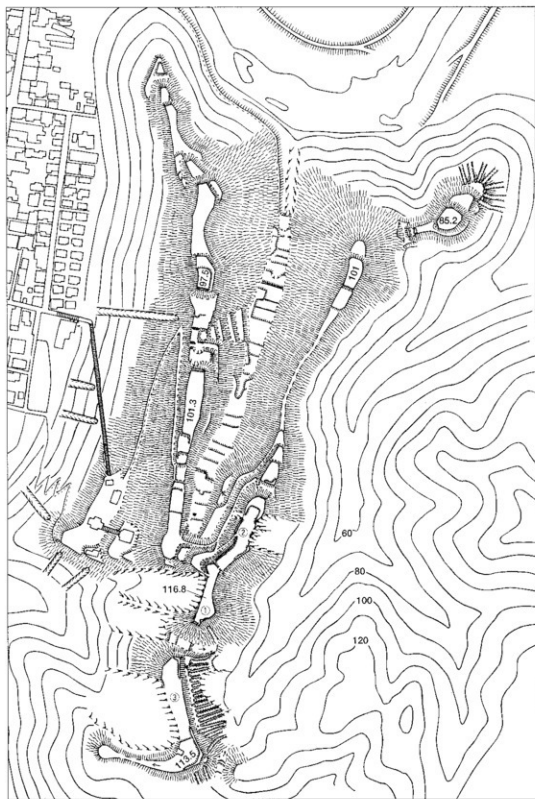
参考文献 『日本城郭全集』『日本城郭大系』『西石見の豪族と山城』『中世益田氏の遺跡』『益田七尾城史』

概要

益田川が大きく蛇行して谷あいから平野部に流れこんで西流するあたりの右岸、周囲と比較して微高地となっている松光山泉光寺境内地一帯に存在する中世豪族、益田氏の居館跡である。益田氏11代、兼見が応安元年(1369)以後の数年のうちに築いたとされ、慶長5年(1600)20代、元祥が、長門の須佐に移るまで居館として存続した。遺跡の現況としては、居館跡のほぼ中央に泉光寺の本堂と庫裏があり、東西には大規模な土塁の跡を認めることができる。居館跡は土塁を含む東西の長さが約180mを測る大規模なものと推定される。近年の発掘調査によって、居館周囲の堀の存在や土塁等各種遺構の良好な遺存状況、時期、規模、構造、性格が徐々に明らかになりつつある。



三宅御土居跡現状平面図 (S=1:2,700)  
平成4年3月 益田市教育委員会発行『三宅御土居跡Ⅱ』より記載 一部改変



七尾城跡跡測図 (S=1:4,000)

いづみ  
q19 稲積城跡 益田市水分町 地図番号 47・48

現状 山林 保存状況 不良 立地 丘陵頂部 標高 78m 比高 60m

史料 『益田家文書』

参考文献 『日本城郭大系』 『西石見の豪族と山城』

概要

益田平野に突き出した丘陵上にL字形に郭を配している。主郭の下方に東側の郭群と北側の郭群をつなぐ通路が認められる。耕作による擾乱や崩落と採石のために遺構は判然としない。南朝方の日野邦光が立てこもった城との伝承があるが、現存する遺構は後世の縄張りによるものであろう。



稲積城跡略測図 (S=1:3,000)

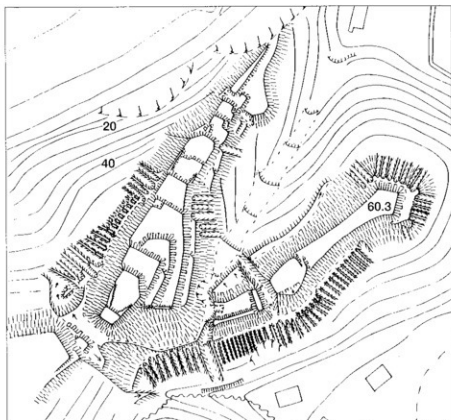
ついで  
q22 角井城跡 益田市須子町 地図番号 48

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵先端 標高 70m 比高 65m

参考文献『西石見の豪族と山城』

概要

主郭の西南の櫓台と巨大な堀切によって尾根筋が遮断されている。主郭の両側から尾根の先端に向かって連続竪堀が築かれている。竪堀の築き方に井野城同様、幾つかのパターンが確認できる。主郭の北東の尾根に堀切が築かれているが、この堀切と連続竪堀がうまくかみあっていない。この連続竪堀の構築は、城の改修強化時になされたものかもしれない。



角井城跡略測図 (S=1:2,000)

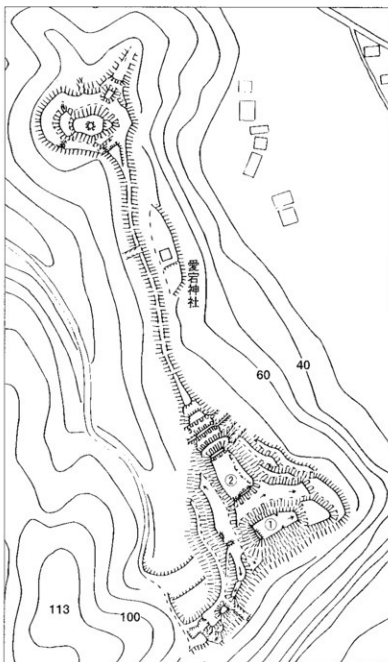
わかいよこた  
q29 向横田城跡 益田市向横田町 地図番号 48

現状 山林他 保存状況 良 立地 丘陵先端 標高 90m 比高 70m

参考文献 『日本城郭全集』『日本城郭大系』『西石見の豪族と山城』『中世益田氏の遺跡』『益田市誌』

概要

高津川に面した①郭が主郭である。①郭西方の尾根筋には堀切を築いている。①郭の北側には堀切が築かれており、堀底道として使用されていたらしい。②郭の南側に土塁が築かれているのは、堀底道に侵入した敵に対する備えである。②郭の北側の尾根筋は連続堀切で遮断している。この尾根の先端にも郭が確認できたが、①郭、②郭と構造が異なるため、向横田城を攻めた勢力の陣城の可能性もある。城主には領家氏、城市氏が伝えられる。





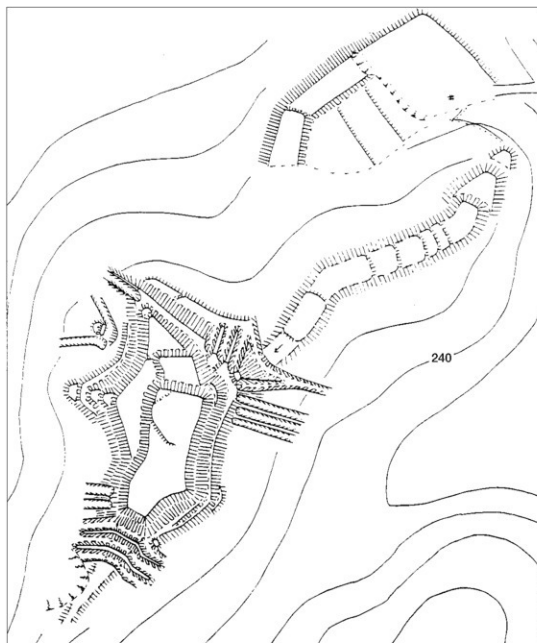
美濃  
r5 丸茂城跡 美濃郡美都町大字丸茂 地図番号 35

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 270m 比高 50m

参考文献 「西石見の豪族と山城」 「美都町史」

概要

東西の溢に挟まれた丘陵を、北側に一本、南側に二本の堀切を設け、切断して城域としている。主郭の北側と北東・南西には連続縦堀を配している。北側の堀切に続く丘陵上部の削平は大まかで古式を残している。この北方の丘陵斜面には、井戸をとまう上居が築かれている。



丸茂城跡測図 (S=1:1,000)

## r14 四ツ山城跡 美濃郡美都町大字朝倉 地図番号 41

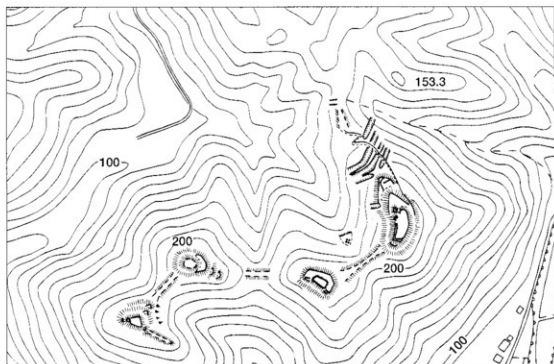
現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 233m 比高 143m

参考文献 『日本城郭全集』『日本城郭大系』『西石見の豪族と山城』『益田市誌』『四ツ山』

## 概要

ほぼ同じ高さに並んだ独立丘陵のそれぞれの頂に郭が築かれている。岩石の露出した急峻な地形と崩れやすい地質は攻める側に多大な損害を与えたと想像される。主郭は尾根に接した一番東の頂に築かれた郭と見られ、尾根筋に対して連続堀切を築き、この方面からの攻撃に備えている。また、主郭の北側の沢で井戸が発見されている。

城主には益田兼弘、三隅氏の臣である須懸氏が伝えられる。



四ツ山城跡略測図 (S=1:5,000)

かのうまつ  
s15 叶松城跡 美濃郡匹見町大字澄川 地図番号 42

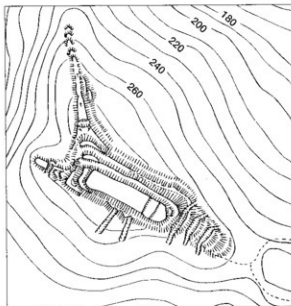
現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部

標高 290m 比高 140m

参考文献『日本城郭大系』『西石見の豪族と山城』  
『匹見町史』

概要

匹見川に向かって突き出した丘陵上に主郭を置き、支脈にはそれぞれ堀切を設け切断している。南方だけが比較的緩やかなので、三本の堀切が認められる。東麓の澄川発電所敷地に城主の居館跡があったという。



叶松城跡地測図 (S=1:3,000)

こまつお  
s17 小松尾城跡 美濃郡匹見町大字紙祖 地図番号 37

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部

標高 440m 比高 130m

参考文献『日本城郭大系』『西石見の豪族と山城』  
『匹見町史』

概要

小原川と紙祖川に挟まれた急峻な痩せ尾根上に、南北に一直線に郭を配している。南西から主郭に至る稜線は四本の堀切で切断している。



小松尾城跡地測図 (S=1:4,000)

しらせやま  
t1 下瀬山城跡 鹿足郡H原町大字河村 地図番号 49

現状 山林 保存状況 やや良

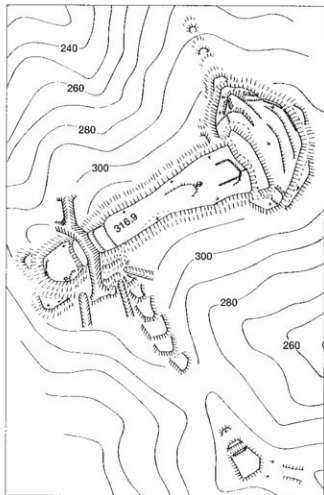
立地 丘陵頂部 標高 317m 比高 270m

史料 『萩藩閩閩録』下瀬七兵衛

参考文献 『西石見の豪族と山城』『日原町史』  
『日本城郭大系』

概要

吉見氏一族の下瀬氏の城と伝えられている。下瀬氏はこの城にあって現在の日原町のあたりを支配したという。天文20年(1551)益田藤兼が攻めたと伝える。毛利氏に従い長門に退き、一國一城令で破棄されるまで続いたという。山容は急峻であるが、主郭部の普請は不十分なものとなっている。主郭の中央部には、建物跡に伴うとされる石列が残る。また城域の内に広大な駐屯空間が築かれており、文書にみえる民衆の収容場所と考えられる。



下瀬山城跡略測図 (S=1:3,000)

きんのせ  
u4 三之瀬城跡 鹿足郡柿木村大字福川 地図番号 50

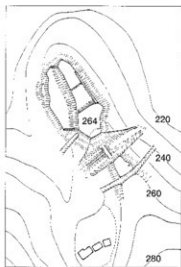
現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵先端

標高 260m 比高 80m

参考文献 『西石見の豪族と山城』『日本城郭大系』

概要

津和野から杉ヶ峠を越える笹山道と山口県方面から<sup>かばらに</sup>椎谷經由の街道の交差点にある。交通の要所に位置するのと、比高が低いために堀切り・上塁・堅堀で徹底的に強化されており戦国末期に改修があったと推測される。



三之瀬城跡略測図 (S=1:3,000)

じんが  
v2 陣ヶ城跡 鹿足郡六日市町大字有綱 地図番号 45

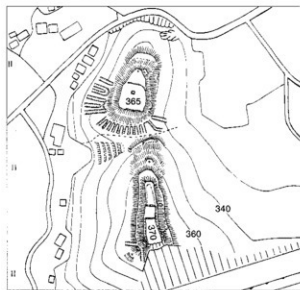
現状 山林 保存状況 良 立地 山林 標高 372m 比高 60m

史料『吉賀記』

参考文献『西石見の豪族と山城』『六日市町史』

概要

丘陵背後は高速道で断ち切られている。右飯の平野に突き出た丘陵上にあり、広島県側からの交通を監視し、六日市の町を守る位置にある。堀切と連続堅堀で強化された姿は、戦国末期に最前線の城となったことを示すものかもしれない。茶臼山城の支城といわれている。



陣ヶ城跡跡測図 (S=1:3,000)

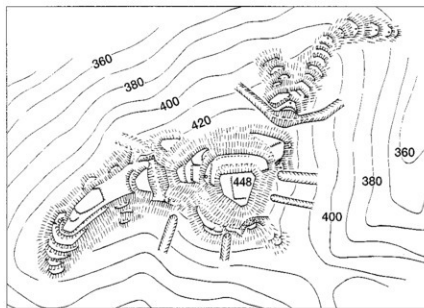
ちやうすやま  
v3 茶臼山城跡 鹿足郡六日市町大字八ヶ迫 地図番号 45

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 448m 比高 130m

参考文献『西石見の豪族と山城』『六日市町史』『日本城郭大系』

概要

六日市の町を北西に望む位置にある。東からの交通・南からの交通を監視・遮断する立地である。北側を中心に多数の削平地が城の周囲にあるのは、激しい攻城戦があったことを物語る。



茶臼山城跡跡測図 (S=1:2,000)

つばあか  
v4 椿ヶ城跡

鹿足郡六日市町大字泊 地図番号 45

現状 山林 保存状況 良

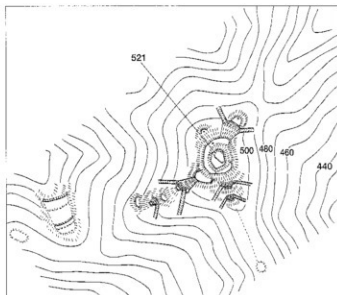
立地 丘陵頂部

標高 521m 比高 210m

参考文献『西石見の豪族と山城』〔六日市町史〕

概要

六日市の町の北にそびえる山上にある。六日市の町を直接守り、周囲を監視する城であろう。古くから使われていた城を戦国末期に改修したことが縄張図からうかがえる。



椿ヶ城跡略測図 (S=1:3,000)

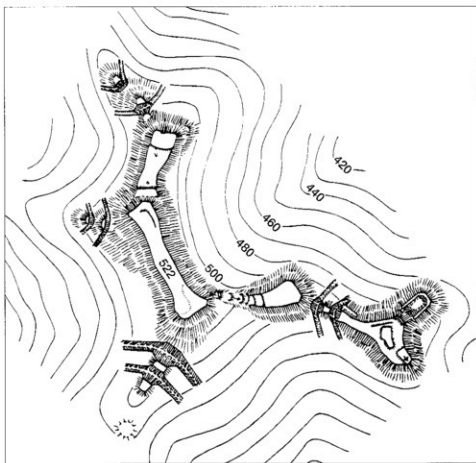
v5 指月城跡 鹿足郡六日市町大字沢田 地図番号 45

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 522m 比高 220m

参考文献『西石見の豪族と山城』〔六日市町史〕〔日本城郭大系〕

概要

城のある山の下を高津川が流れ、六日市の町を北東に望む位置にある。津和野吉見氏がこの地を支配するための城という。天文23年(1554)、陶晴賢が津和野を攻めた際落城したと伝えられる。現存する遺構は、さらにそれ以降のものかもしれない。



指月城跡略測図 (S=1:2,000)

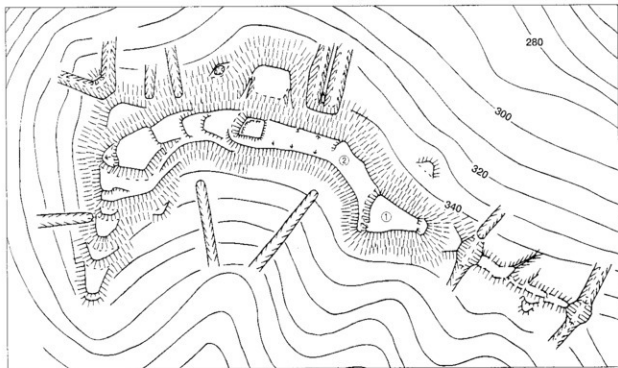
のあやま  
v11 能美山城跡 鹿足郡六日市町大字七日市 地図番号 45

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 359m 比高 100m

参考文献 『日本城郭全集』『日本城郭大系』『西石見の豪族と山城』『六日市町史』

概要

主郭は最高所である①郭と考えられ、尾根続きは連続堀切によって遮断されている。②郭は長大な郭であるが普請は不十分なものとなっている。東端には櫓台が築かれており、水の手を見下ろすことができる。城主は横田氏とされる。



能美山城跡跡地図 (S=1:2,000)

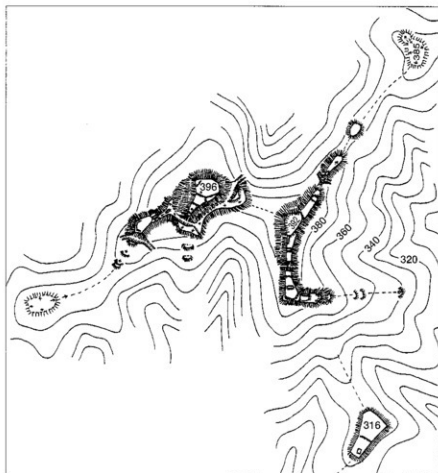
まきくに  
v12 政国城跡 鹿足郡六日市町大字真田 地図番号 45

現状 山林 保存状況 やや良 立地 丘陵頂部 標高 395m 比高 150m

参考文献 『西石見の豪族と山城』『六日市町史』『日本城郭大系』

概要

吉賀川と高尻川にはさまれた通称中山にある。山の下は郡内最大の穀倉地帯といわれる田丸平野である。能美山城主横田氏の一族の拠城と伝える。城には改修が加えられているが、中山の全域にわたって郭を展開した横田氏の時期かと思われる古い城の形も残っている。2万5千分の1の地図を見ると、国道が直角に曲がるあたりに「上市」・「中市」・「下市」の地名が残り、付近に「七日市」の地名があるのが注意される。



政国城跡縮刷図 (S=1:3,000)



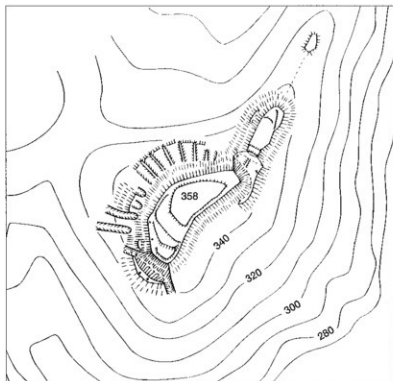
v13 向日真城跡 鹿足郡六日市町大字抜月 地図番号 45

現状 山林 保存状況 やや良 立地 丘陵頂部 標高 358m 比高 110m

参考文献『西石見の豪族と山城』『六日市町史』

概要

吉賀川をはさんで政国城と相対する位置にある。六日市から柿木へ通じる道を押さえることと、政国城とセットとなって一帯の平野を守る役割を果たすのであろう。天文23年(1554)、陶軍に攻められた際、毛利氏に援軍を要請した話が伝わるが、現存の縄張りの状況と一致するかもしれない。



向日真城跡略測図 (S=1:2,000)

w5 <sup>つわの</sup>津和野城跡 鹿足郡津和野町大字後田 地図番号 50

現状 山林他 保存状況 良 立地 丘陵一帯 標高 367m 比高 190m

参考文献 『日本城郭全集』『日本城郭大系』『津和野町史』『西石見の豪族と山城』

概要

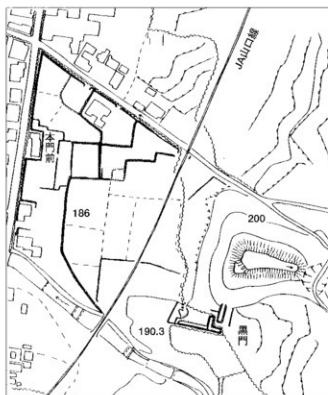
津和野城(三本松城)は総石垣の城郭として明治まで存続したが、元々坂崎氏が入城するまでは吉見氏の本拠であった。城域は広く、蕨坂峠から南側が全て城域である。堀は深く、特に南端の郭に築かれている連続竪堀群と横堀からなる防衛施設は圧巻である。この防衛施設の正面に陶晴賢が津和野城を攻めるために本陣を築いた陶ヶ嶽が位置している。なお、防衛施設の位置から察すると、吉見氏の時代と近世以降の主郭の位置は同一場所であったと考えられる。(略測図は、215頁参照)

w6 <sup>まるやま</sup>丸山城跡 鹿足郡津和野町大字中庄 地図番号 50

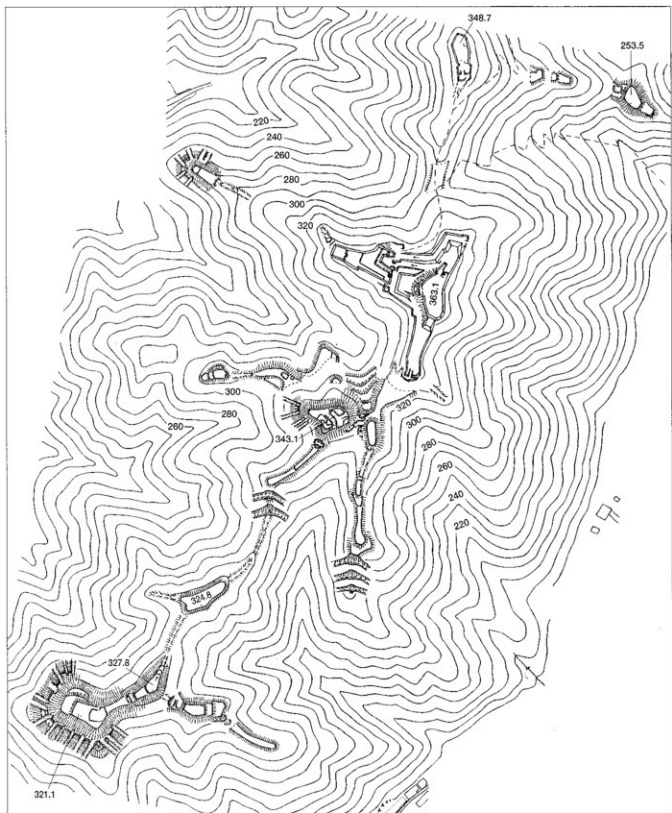
現状 山林他 保存状況 やや良 立地 丘陵先端 標高 220m 比高 40m

概要

現在公園化されている丘陵の最高所に築かれている。この地から津和野城東側の山麓を見渡すことが出来る。陶氏が吉見氏を攻めた時期に陣城として使用された可能性は高い。江戸期には、西側山麓に高崎亀井家屋敷が築かれた。屋敷と称しているが総石垣造りであり、東側には「黒門」と呼ばれる食い違い虎口が残る。庭園跡や井戸等も確認できる。



丸山城跡略測図 (S=1:3,000)



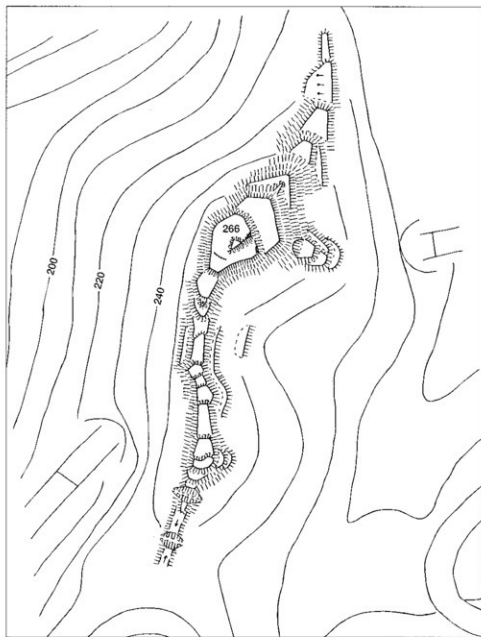
津和野城跡略測図 (S=1:5,000)

## w9 茶臼山城跡 鹿足郡津和野町大字鷲原 地図番号 50

現状 山林 保存状況 良 立地 丘陵頂部 標高 266m 比高 80m

## 概 要

最高所周辺部分は、削平などの加工が活発にされており、櫓台のようなものもあるので主郭と推定される。南側の郭群は尾根筋への備えとして築かれたものである。主郭部分から南側の郭にかけての削平は十分になされているが、壁はあまり加工されていない。主郭周辺は陶氏が改修したものかもしれない。吉見氏の重要な城であったが、天文23年(1554)に陶氏に占領され陣城として使用されたといわれる。現JR山口線建設の際に、陶氏菩提寺の茶釜が出土している。



茶臼山城跡略測図 (S=1:2,000)

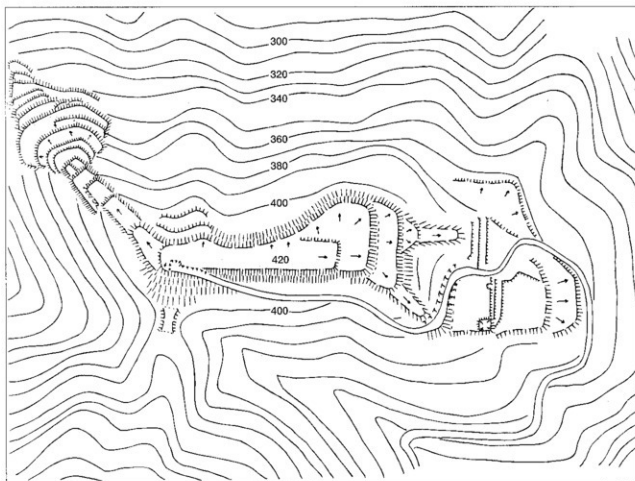
w10 陶晴賢本陣跡 鹿足郡津和野町大字鷲原 地図番号 50

現状 山林 保存状況 やや良 立地 丘陵頂部 標高 420m 比高 220m

参考文献 『西石見の豪族と山城』 『津和野町史』

概要

天文23年(1554)に吉見氏を攻めるために築いた陶氏の陣城である。津和野城を見下ろすことが出来るが、山頂は急峻な地形のため普請は不十分なものとなっている。東側にまとまった削平地が残る。また、西側には地元で「段原」と呼ばれる削平地が山麓まで認められる。南側尾根筋の防御が弱いため、この方面にも駐屯空間が存在した可能性がある。なお、この部分には防御施設と思われる石積が認められたが、図化は未了である。



陶晴賢本陣跡略図 (S=1:4,000)

あまけ  
w11 御嶽城跡 鹿足郡津和野町大字木部 地図番号 55

現状 山林 保存状況 やや良

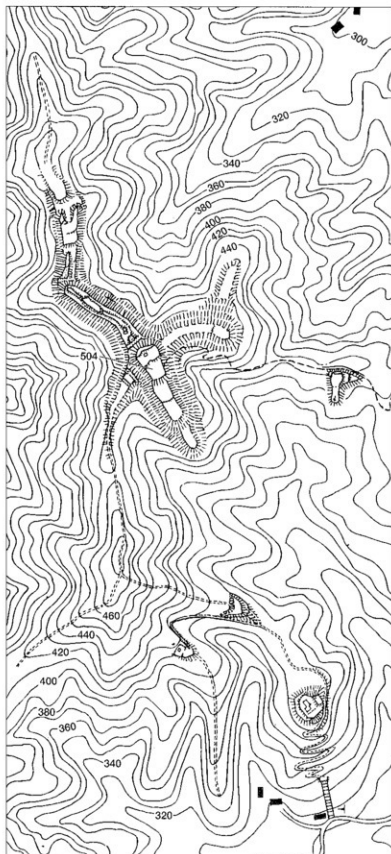
立地 丘陵頂部 標高 504m

比高 220m

参考文献 『日本城郭大系』『西石見の豪族と山城』

概要

主郭を中心として四方の尾根筋に郭を配している。北側の尾根筋の防御が最も厳重で、堀切で切断し、堅壘を設けている。城域の南側の愛宕神社とそれに通じる稜線に出丸が配されており、東側が大手と思われる。元々は土居丸館の詰の城で、それを吉見氏が支城として改修したものかもしれない。北方にある益田氏の勢力圏に対する構えが重視されている。



御嶽城跡略測図 (S=1:6,000)

## 5 城館関連史料一覧

### 凡 例

1 ここに見られる城館名は、石見の中世城館で、中世文書に明確に当該城館もしくは当該城館をめぐる事項と判断されるもの([ ])を付して表記を掲載した。従って、戦記物など史料的に検討を要するものは、今回は、これに含めなかった。

1 ここで用いた史料は「萩藩閩閩録」(萩閩)、「大日本古文書 家わけ 毛利／古川／小早川家文書」、「島根県史」(旧県史)、「新修島根県史 史料編」(新県史)、「出雲意字六社文書」、鈴木國弘編 日本大学総合図書館所蔵「俣野文書」S61、「石見久利文書の研究」(立命館大学人文科学研究所紀要16, 1967)、岡守進「石見内田家文書について」(山口県文書館研究紀要1)S47(以下 石見内田家文書)などの既活字史料集を中心にしたものである。これに「津和野町史」(津和野町誌)など市町村史所載史料を参照補足した。また、このほか「益田家什書」、「岩国藩中藩家古文書纂」、「古川家中並寺社文書」など未活字本に見られるデータを用いた。

従って、これら島根県石見地方の記事が特に多くみられる中世史料群については用いたが、それ以外の史料については調査の体制的制約もあり未参照であるので、後日の補訂を期さなければならぬ。

1 ここに見られる城館名は、史料上の名称であり、現在残されている城館名とかならずしも一致しないことをあらかじめお断りしておく。

島根県内中世城館文献目録(石見編)

城館名	年月日	西暦	文書名	出典
有 福 城	貞治 5、9、3	1366	益田兼見軍忠状	益田家什書1巻6-3
飯 山	永祿 3、5、24	1560	尼子晴久判物	旧県史7巻-93(羽根久太郎文書)/新県史p442
飯 山	永祿 3、5、24	1560	尼子家奉行入連署奉書	旧県史7巻-94(羽根久太郎文書)/新県史p442
飯 山	永祿 3、5、24	1560	尼子義久判物	波根 新県史P442
飯 山	弘治 2、4、11	1556	佐波興進感状	旧県史7巻-103、104(尾原義雄蔵文書)
飯 山	弘治 2、4、4	1556	小笠原長雄寄進状	旧県史7巻-274(荻荻英一蔵文書)
泉 山	年未詳 4、1		毛利隆元書状	旧県史7巻-140(萩岡文書)
出 羽	年未詳 5、9		毛利元就書状	旧県史7巻-341(児玉八郎左衛門家蔵文書)
出 羽	年未詳 3、13		毛利隆元書状	旧県史7巻-376(林愛吉蔵文書)
出 羽 城	年月日未詳		出羽系図	吉川家中並寺社文書2巻-148
出 羽 城	貞治 3、正、11	1361	荒河詮頼安堵状	萩岡巻43出羽-42
出 羽 城			伴氏出羽家白緒	萩岡巻43出羽-補
出羽上下要害	定安元、9	1368	来原遠盛軍忠状	萩岡巻121周布-262
泉 山	永祿 5、6、23	1562	毛利元就・同隆元連署書状	萩岡遺4 斉藤-3
井田之城	天文22	1553	毛利元就書状	萩岡遺5 松岡-1
板井川要害	(弘治4)正、2		吉川元春書状	旧県史7巻-170(萩岡文書)
板井川要害	年未詳 正、2		毛利元就書状	益田家什書4巻29-6/新県史p534
板井川要害	年未詳 正、5		毛利隆元書状	益田家什書4巻29-6/新県史p536
市 木	年未詳 10、16			岩国藩中諸家古文書纂8巻-17
市 木	年未詳 9、12			岩国藩中諸家古文書纂8巻-18
市山之城	曆応 2、8、20	1339	小笠原貞宗代武田孫三郎軍忠状	鹿原 新県史p485
市山之要害			二宮俊実覚書	大日本古文書9 吉川家文書別集 二宮561
一本松	天文23、4、26	1554	吉見頼郷書状	萩岡巻148下瀬-2
一本松	天文23、5、10	1554	寺戸兼勝書状	萩岡巻148下瀬-6
一本松之城				萩岡巻6 毛利-補
一本松之城				萩岡巻56赤木-補
井手懸城	年未詳 10、10		益田家代々忠節候條々事	益田家什書2巻19-5
福積城	曆治 4、2	1341	益田兼朝軍忠状	益田家什書1巻6-3
福積城	曆応 4、3	1341	益田兼朝軍忠状	益田家什書1巻6-3
井原番手	弘治 3、5、15	1557	毛利隆元書状	萩岡巻40井原-47
井原相城	弘治 3、3、23	1557	毛利元就書状	萩岡巻84児玉-9
井原城	弘治 3、4、4	1557	毛利元就書状	萩岡巻84児玉-12
井原表一城	弘治 3、5、9	1557	毛利元就書状	萩岡巻84児玉-15
井原番衆	弘治 3、5、18	1557	毛利隆元書状	萩岡巻84児玉-59
井 村 城	康永 2、10、25	1343	上野頼兼軍勢催状	大日本古文書9 吉川家文書1064
宇津河要害	弘治 2、7、4	1556	益田藤兼感状	侯質文書p46
宇津川要害	弘治 2、7、4	1556	益田藤兼感状	侯質文書p47
宇津河要害	弘治 2、7、4	1556	益田藤兼感状	侯質文書p47
宇津川城	弘治 2、7、4	1556	益田藤兼感状	侯質文書p48
宇津河要害	弘治 2、7、4	1556	益田藤兼感状	侯質文書p49
鶴之丸普請	年未詳 2、20		毛利元就・同隆元連署書状	萩岡巻101児玉-34
鶴丸城誘	年未詳 3、24		毛利輝元書状	萩岡巻146佐々木-4
鶴丸城	年未詳 4、3			岩国藩中諸家古文書纂6巻-58
鶴丸城	年未詳 9、20			岩国藩中諸家古文書纂9巻-95
鶴丸城	年未詳 9、27		毛利輝元書状	石見久利文書の研究p62-31



城館名	年月日	西暦	文書名	出典
鶴丸	(元龜2カ)3、11	1571	毛利輝元書状	中島 新泉史p499
大石城	貞治5、8	1366	久利長阿軍忠状	石見久利文書の研究p46-16
板井川要害	弘治4、1、2	1557	毛利元就書状	萩園巻7益田-9
板井川要害	弘治4、1、5	1557	毛利元就書状	萩園巻7益田-16
大田高城	享祿4、4、7	1531	小笠原長徳・同長陸感状	庵原 新泉史p488
太田造山	天文18、12、5	1549	小笠原長雄感状	旧泉史7巻-144(林愛古藏文書)
太田造山	天文18、12、5	1549	小笠原長雄感状	旧泉史7巻-144(平田確藏文書)
大多和外	曆応5、6、18	1342	逸見大阿代了息有朝軍忠状写	大日本古文書11小早川家文書568
小笠原	永祿2、8、22	1559	益田全忠書状	侯賢文書p56
小笠原長雄之城	天正8、4、17	1558	吉川元春・小早川隆景進軍書状	萩園巻53樋崎-22補
小笠原	年未詳 6、21		毛利隆元書状	旧泉史7巻-343(元口片勘兵衛藏文書)
小笠原	年月日未詳			古川家中並寺社文書9巻-206
小笠原居城				萩園巻127岡-補
小笠原要害	年未詳、6、11		湯原幸清・河副久盛進軍書状	大日本古文書9吉川家文書399
笠取山普請	弘治3、4、4	1557	毛利元就書状	萩園巻84兒玉-12
春日尾之城	弘治元、3、24	1555	毛利元就書状	萩園巻31山田-23
金岐城	貞治5、8	1366	米原遠盛軍忠状	萩園巻121周布-261
益田兼見軍忠状	貞治5、9、3	1366	益田兼見軍忠状	益田家什書1巻6-3
鐘尾城	天文24、2、13	1556	益田藤兼感状	侯賢文書p45
鐘尾城	天文24、2、13	1554	益田藤兼感状	萩園巻5山原-7
鐘尾城	天文24、2、13	1554	益田藤兼感状	萩園巻5山原-8
鐘尾	天文24、2、13	1554	益田藤兼感状	萩園巻5山原-9
上黒谷	建武4、9	1337	内田彦九郎軍忠状	侯賢文書p71
上黒谷	建武4、9	1337	内田掃部左衛門尉軍忠状	侯賢文書p71
河合城	文和2、4	1353	久利亦波重房軍忠状	石見久利文書の研究p45-15
河内城	延元元、7、26	1336	三隅信性兼進言上状	萩園巻121周布-250
河上	(永祿4)	1561	毛利元就白筆書状	大日本古文書8毛利家文書431
河上	永祿5、1、7	1562	毛利隆元書状	萩園巻97佐藤-6
河上	永祿5、2、2	1562	毛利元就書状	萩園巻55相式-3
川上之城	延元元、6、19	1336	渡辺長覚書	萩園巻28渡辺-17
河登	天正2、5、25	1574	毛利輝元袖判桂元将覚書	萩園巻39桂-3
河上	年未詳 2、2			岩田藩中諸家古文書類6巻-55
川登城				萩園巻47南方-補
川上城郭	建武4、7、26	1337	小笠原貞宗代藤原九郎次郎家兼軍忠状	庵原 新泉史p485
河登之城	年未詳 1、9		小川昌秀軍忠感状・捨文付立	萩園巻110小川-1
河登要害	天正20、2、9	1592	藏川頼之覚書	萩園巻126藏田-3
河本城	永和2、7、24	1376	細川頼之感状	庵原 新泉史p486
河本	年未詳 11、19		毛利元就書状	旧泉史7巻-377(岡野松崎天満家藏文書)
河本	年未詳 3、26		吉川元春書状	岩田藩中諸家古文書類3巻-21
喜汁表	天文23、6、4	1554	賀賀軍忠状	旧泉史7巻-134(萩町白井家藏文書)
喜汁表	天文23、8、2	1554	内藤隆世感状	旧泉史7巻-136(萩園文書)
喜汁原	天文23、4、21	1554	益田藤兼感状	侯賢文書p42
北尾崎木戸	延元元、7、26	1336	三隅信性兼進言上状	萩園巻121周布-250
木東城	貞和2、8	1346	内田左衛門三郎致世軍忠状	石見内田家文書
木東城	康永3、7、2	1344	益田兼見書状	益田家什書1巻6-3
木東城	康永2、8、19	1343	足利幕府奉書	益田家什書15巻82-18
木村山	曆応2、8、20	1339	小笠原貞宗代武田勇三郎軍忠状	庵原 新泉史p485

城館名	年月日	西暦	文書名	出典
工藤三郎城	永正7、3、占	1340	三井家由緒書	萩園巻65三井-11
黒谷城	建武3、5、12	1336	久利赤波公房軍忠状	石見久利文書の研究p41-11
黒谷城	建武4、8、27	1337	平子親重軍忠状	萩園巻45二浦-162
黒谷城	暦応2、9、14	1339	俣賀文書p72	俣賀文書p72
黒谷城	暦応3、8、1	1340	足利直義御感御教書	俣賀文書p11
黒谷城	貞和7、正	1351	岩田胤時軍忠状	益田家什書15巻82-18
黒谷城	文和2、2、30	1353	口直奉書	石見内田家文書
熊ヶ峠			二宮俊実覚書	大日本古文書9 古川家文書別集 二宮561
けこや	(永祿4)	1561	毛利元就白筆書状	大日本古文書8 毛利家文書431
けこや	永祿5、1、7	1562	毛利隆元書状	萩園巻97佐藤-6
小石見城	暦応5、6、18	1342	逸見大阿代子息有朝軍忠状写	大日本古文書11小早川家文書568
小石見城	康永2、正、9	1343	益田兼朝軍忠状	益田家什書1巻6-3
小石見城	康永2、2	1343	内田孫八郎致景軍忠状	石見内田家文書
江表	年未詳 9、9		吉川元春白筆書状	大日本古文書9 古川家文書別集 372
江城	享祿5、9、15	1532	足利義種袖判下文	萩園巻97都野-18
江津	年未詳 10、28		吉川元春外二人連署書状	益田家什書4巻29-6
江津	永和2、閏7、29	1376	細川領之奉書	益田家什書7巻52-9
江要	永正7、2、10	1510	某感状	飯田 新原史p484
刺賀之城				萩園巻66刺賀-補
佐波泉山	天文13、9、3	1543	赤穴久清置文	萩園巻37中川-114
佐波泉山登城	弘治2、4、1	1556	毛利隆元書状	萩園巻50飯田-5
山南	年未詳 2、20		毛利元就書状	旧史史7巻-139、140(萩園文書)
山南一城	(弘治2)3、20	1556	毛利元就書状写	萩園巻27熊谷-9
山南一城	弘治2、3、20	1556		古川家中並寺社文書2巻-58
三本松合戦		1461		萩園巻7 益田-165
三本松	(天文23)3、22	1554	益田兼貴等四名連署状	津和野町史1巻-p524(下瀬文書)
三本松	天文23、4、21	1554	益田藤兼感状	俣賀文書p41
三本松之城	天文23、4、26	1554	藤本頼郷書状	萩園巻148下瀬-2
三本松落居	天文23、4、26	1554	伊香賀家明書状	萩園巻148下瀬-11
三本松	天文23、6、28	1554	益田藤兼感状	俣賀文書p42
三本松	天文23、6、28	1554	益田藤兼感状	俣賀文書p43
三本松	天文23、8、4	1554	益田藤兼感状	俣賀文書p43
三本松	天文23、8、6	1554	益田藤兼感状	俣賀文書p44
二本松喜汗口	天文23、9、20	1554	大内義長論証判乃美賢勝軍忠状	萩園巻11浦-69
二本松固屋口	天文23、9、20	1554	大内義長論証判乃美賢勝軍忠状	萩園巻11浦-69
三本松之城	天文23、12、5	1554	吉見正頼書状	萩園巻148下瀬-13補
三本松	天文24、4、26	1555	伊香賀家明書状	萩園巻148下瀬-11
三本松城	天正15、正、27	1587	吉見正頼覚書	津和野町史1巻-p532~533
二本松	天文24、8、4	1554	益田藤兼書下	萩園巻5 山泉-3
三本松	年未詳 8、30		元権書状	益田家什書2巻16-4
三本松	年未詳 8、30		常忠書状	益田家什書2巻16-4
三本松	年未詳 9、3		細川道賢書状	益田家什書2巻16-4
三本松合戦		1570		萩園巻139栗屋-補
三本松ノ城				萩園巻6 毛利-補
三本松之城		1554		萩園巻56赤木-補
下黒谷丸要害	年月日未詳			益田家什書16巻85-19
下佐波表一城	天文16、2、20	1547	尼子晴久書状	萩園巻37中川-85

城館名	年月日	西暦	文書名	出典
下瀬要害	(天文20) 3.20	1554	益田衆五名連習書状	萩園巻148下瀬-3
下瀬山取懸	(天文23) 4.26	1554	脇本頼郷書状	萩園巻148下瀬-2
下瀬城	(天文23) 5.10	1554	寺戸兼勝書状	萩園巻148下瀬-6
下瀬城	(天文23) 4.26	1554	伊香賀家明書状	萩園巻148下瀬-11補
下瀬城	(天文23) 12.5	1554	古見正頼書状	萩園巻148下瀬-13補
下瀬山今城	天文23.8.23	1554	益田兼順書状	萩園巻148下瀬-1
下瀬之城	(弘治3) 1.11	1557	毛利元就書状	萩園巻148下瀬-14補
下瀬御城	天正10.4.26	1586	古見頼盛奉石見下瀬御城番帳	萩園巻148下瀬-18
下瀬山普請	(天正10) 11.14	1582	古見広頼書状	萩園巻148下瀬-20
下瀬山御普請	(天正10) 11.14	1582	須子興盛書状	萩園巻148下瀬-21
下瀬御城	年未詳 10.28	1579	石見東光院周信書状	萩園巻148下瀬-17
下瀬山	年未詳 12.15	1582	古見頼盛書状	萩園巻148下瀬-19
しもせ山	年月日未詳		せうしやう書状	津和野町史1巻-p522(下瀬文書)
下瀬山城主				萩園巻148下瀬-補
白上	正平8.9.25	1353	足利直冬御教書	益田家什書1巻6-3
忍原	(永祿元) 7.30	1558	毛利元就自筆書状	大日本古文書8 毛利家文書636
周布城	暦応5.6.18	1342	逸見大阿代子息有朝軍忠状写	大日本古文書11小早川家文書568
石州新原	永祿3.12.31	1560	尼子晴久感状	八東群論文書編p450
石州口要害	弘治2.9.16		大内義長下文	萩園巻13山内-369
赤城籠城	永祿2.6.24	1559	小早川隆景知行先行状	萩園巻98山根-3
赤城	年未詳 12.7	1558	大内家々臣連習状	益田家什書14巻76-16
赤城		1558		萩園巻56赤木-補
祖式友兼居城	寛永9.9.3	1632	毛利秀就加冠状	萩園巻55祖式-2補
祖式	年未詳 4.11			岩国藩中藩家古文書彙6巻-55
高衣	天文11.4.28	1542	毛利元就感状	旧歴史7巻-34(萩園文書)
たうか丸	(永祿2) 3.26	1559	小笠原長雄感状	清水 新泉史p504
高城	天文24カ.2.11	1554	益田兼義書状	萩園遺5山根-10
高城	年月日未詳			益田家什書11巻65-13
高城	年月日未詳		某書状	益田家什書
高城				萩園巻68二開-補
高津	止平16.11.25	1361	足利直冬感状	石見内田家文書
高川城	応永30(13).10.3	1423	古見頼弘書下	津和野町史1巻-p440(中島要一氏所蔵文書)
高津城	建武4.9.25	1337		侯賀文書p71
高津城	暦応2.2.18	1339		侯賀文書p72
高津城	永正7.3.吉	1340	三井家由緒書	萩園巻65三井-11
高津城	正平10.10.5	1355	足利直冬感状	萩園巻7益田-87
高津城	正平10.10.7	1355	新田義貞(足利直冬)感状	萩園巻121周布-247
高津城	正平10.10.5	1355	新田義貞(足利直冬)感状	萩園巻121周布-248
高津城	暦応3.8.27	1340	益田兼見軍忠状	益田家什書1巻6-3
高津城	暦応4.2	1341	益田兼朝軍忠状	益田家什書1巻6-3
高津城	正平10.10.5	1355	足利直冬御教書	益田家什書7巻52-9
高津小城	年未詳 10.10		益田家代々忠節候條々事	益田家什書3巻19-5
高津小城	年未詳 12.7		大内家々臣連習状	益田家什書14巻76-16
高津馬場之城				萩園巻73大野-補
高津与次郎城郭	建武3.正.19	1336	久利赤波友房軍忠状	石見久利文書の研究p39-9
高はち	天文23.4.26	1554	古見頼郷書状	津和野町史1巻-p525(下瀬文書)
部賀行	(天文23) 3.12	1558	内藤隆世書状	萩園巻168福永-7

城館名	年月日	西暦	文書名	出典
郡賀行城番	弘治 2、12、14	1556	毛利元就知行充行状	萩関巻95柳沢-3
郡賀行城番	(弘治 2)11、26	1556	毛利元就判物	萩関巻95柳沢-1
郡賀行城番	(弘治 2)12、5	1556	毛利隆元書状	萩関巻95柳沢-2
郡賀行城番	(弘治 2)12、5	1556	毛利隆元知行充行状	萩関巻95柳沢-4
郡賀 賀	年未詳 7、4			岩国藩中諸家古文書纂13巻-84
郡賀丁之要害	天文 12、8、22	1543	小笠原長徳書下	森木 新県史p516
郡野城	康永 2、3	1343	内田孫八郎政景軍忠状	石見内田家文書
郡野城	康永 2、8、21	1343		益田家什書1巻6-3
坪尾 尾	天文 23、8、2	1554	吉見正頼感状	津和野町史1巻-532(下瀬文書)
坪尾 尾	(天文 23)8、2	1554	大内義長書状	津和野町史1巻-532(萩藩譜録益田越中)
津毛城	貞和 5、6、23	1349	足利直冬感状	石見内田家文書
釣鐘之城				萩関巻56赤木-補
津和野	文明 8、3、5	1476	某感状	津和野町史1巻-455(風上注進家)
津和野	天文 23、8、2	1554	内藤隆世感状	旧県史7巻-136(萩関文書)
津和野	天文 23、10、23	1554	某感状	旧県史7巻-134(萩田久芳家藏文書)
津和野	年未詳 3		大内政弘書状	津和野町史1巻-456(益田家什書16-25)
津和野	年月日未詳			益田家什書11巻65-13
津和野表	年未詳 正、23		大内義長書状	旧県史7巻-122(平賀家文書)
津和野境目要害	年未詳 正、4		毛利元就、隆元連署状	益田家什書4巻30-6
津和野下瀬門	天文 23、10、23	1554	某感状	旧県史7巻-136(萩八木家文書)
津和野要害	天文 23、8、15	1554	大内義長感状	旧県史7巻-136(萩町三輪家文書)
津和野要害	天文 23、9、20	1554	某感状	旧県史7巻-135、136(萩八木家文書)
津和野要害	天文 23、10、23	1554	大内義長感状	萩関巻62脇-9
(三隅)洞明寺山	永正 15、4、26	1518	益田貞兼感状	侯質文書p35
(三隅)洞明寺山	永正 15、6、26	1518	益田宗兼感状	侯質文書p35
(三隅)洞明寺山	永正 15、6、26	1518	益田宗兼感状	侯質文書p36
鳥屋尾	貞和 4、10、9	1348	足利直義感状	萩関巻121周布-21
鳥屋尾	貞和 5、1、18	1348	上野頼兼手軍忠注進状	萩関巻121周布-259
鳥屋尾	年未詳 7、4			岩国藩中諸家古文書纂13巻-84
鳥屋尾城	暦応 3、3、15	1342	足利尊氏証書上野頼兼手勢鑑状	萩関巻121周布-270
鳥屋尾城	暦応 5、6、18	1342	逸見人阿代子息有朝軍忠状写	大日本古文書11小早川家文書568
鳥屋尾城大手	貞和 4、9	1348	君谷(出羽)実祐軍忠状	萩関巻43出羽-31
鳥屋尾城	康永 3、7、2	1344	益田兼見書状	益田家什書1巻6-3
豊田城	暦応 3、10	1340	平子親重軍忠状	萩関巻45二浦-163
豊田城	正平 8、6、25	1353	足利直冬感状	石見内田家文書
豊田城	年未詳 10、10		益田家代々忠節候條々事	益田家什書3巻19-5
豊田川	年未詳 12、7		大内家々臣連署状	益田家什書14巻76-16
中村要害	(永祿 4)12、10	1561	毛利隆元書状	萩関巻78井上基-4
中之村	(永祿 4)12、11	1561	毛利元就書状	萩関巻78井上基-5
中之村	(永祿 4)	1561	毛利元就白平書状	大日本古文書 8 毛利家文書431
中ノ村			二宮俊実覚書	大日本古文書 9 川田家文書別集 二宮361
中之村之城	(永祿 3)、9、15	1560	毛利元就書状	萩関巻51国重-1
中之村之城	年月日未詳		氏名未詳軍忠付立	萩関巻83福間-24
中之村要害	(永祿 5)正、7	1562	毛利隆元書状?	萩関巻97佐藤-6
中ノ村	年未詳 12、13		毛利元就感状	旧県史7巻-379(萩関文書)
永安村	年未詳 10、16			岩国藩中諸家古文書纂8巻-17
永安要害	(弘治元)3、24	1555	毛利元就書状	萩関巻311山田-23

城館名	年月日	西暦	文書名	出典
七尾城	年未詳 6、9		重連良道二人連署状	益田家什書15巻82-18
七尾城				萩園巻68二開-補
七尾之城				萩園巻7益田-補
七ツ尾城	年月日未詳			益田家什書16巻85-19
湯井	弘治 2、4、4	1556	小笠原長雄寄進状	旧歴史7巻-274(打获英一藏文書)
湯井築城				萩園巻81小笠原-補
ぬく井山手	天文10、7、10	1541	小笠原長徳書下	武明八幡宮 新泉史p477
温湯之城		1558		萩園巻94小笠原-補
温井要峯	永祿 3、2、17	1560	毛利元就同降元進署状	大日本古文書9 古川家文書458
[温湯]籠城	永祿 2、9、3	1559	小笠原長雄感状	清水 新泉史p504/旧歴史7巻-352
旗山小屋丸	弘治 3、4、27	1557	小笠原長雄感状	旧歴史7巻-146/新泉史p496 平田
旗山岡屋	(弘治 3) 2、19	1557	小笠原長雄寄状	旧歴史7巻-146/新泉史p496 平田
浜田之城		1587		萩園巻5毛利-補
槽之曲輪	(永祿 4) 2、21	1561	毛利元就-同降元進署感状	萩園巻15同司-26
日和	(弘治 3カ) 5、6	1557	毛利隆元白筆書状	大日本古文書 8 毛利家文書746
日和	弘治 3、5、11	1557	小笠原長雄感状	旧歴史7巻-147(平田福藏文書)
日和之城	慶長 15、4、23	1610	伊志美作守覚書	岩国藩中諸家古文書集1巻-49
日和ノ城	慶長 15、4、23	1610		古川家中並寺社文書3巻-170
福光要峯	(永祿 4) 10、22	1561	毛利隆元書状	萩園巻102冷泉-48
福光要峯	永祿 5、4、7	1562	都治隆行書下	森 新泉史p517/旧歴史7巻-372
福光要峯				萩園巻102冷泉-補
福光籠城	(永祿 4) 11、19	1561	毛利元就書状	萩園巻146竹内-3
[福光]籠城	永祿 4、12、23	1561	都治隆行感状	笠井 新泉史p511/旧歴史7巻-373
福屋城	暦応 5、2	1342	越生光氏軍忠状	萩園巻121周布-251
福屋城	暦応 5、2	1342	久利赤波公房軍忠状	石見久利文書の研究p43-13
福屋城	暦応 5、2、9	1342	上野頼兼感状	石見久利文書の研究p44-14
福屋城	暦応 5、2	1342	益田兼躬軍忠状	益田家什書1巻6-3
福屋城	暦応 5、6、18	1342	逸見大阿代子息朝軍忠状写	大日本古文書11小早川家文書568
福屋	永祿 3	1560		古川家中並寺社文書1巻-35
福屋大石城	貞治 5、9、3	1366	益田兼見軍忠状	益田家什書1巻6-3
[福屋]大石城	貞治 5、9、3	1366	益田兼見軍忠状	益田家什書1巻6-3
藤根	年月日未詳		毛利元就知行注文	大日本古文書 8 毛利家文書251
藤根城	年月日未詳		毛利元就知行注文	大日本古文書 8 毛利家文書252
二ツ山				萩園巻43出羽-補
二ツ山之城				萩園巻50飯田-補
ほそこし要峯	年不詳 5、25		内田素家書状	大日本古文書9 古川家文書378
益田城	延元、7、26	1336	三隅信性兼遠言上状	萩園巻121周布-250
益田城	永和 2、開7、8	1376	室町將軍御教書	保賢文書p23
松尾要峯	年月日未詳		毛利元就知行注文	大日本古文書 8 毛利家文書251
松山	永祿 5、2、13	1562	小笠原長雄感状	清水 新泉史p505
松山	永祿 5、5、8	1562		古川家中並寺社文書10巻-149
松山	天正 7、12、18	1579		古川家中並寺社文書10巻-160
松山	年未詳 12、13			古川家中並寺社文書10巻-154
松山	年月日未詳		毛利隆元白筆書状	大日本古文書 8 毛利家文書737
松山	年月日未詳			古川家中並寺社文書9巻-218
松山			宮俊実覚書	大日本古文書9 古川家文書別集 宮561
松山表	年未詳 9、5		毛利元就書状	旧歴史7巻-451、452

城館名	年月日	西暦	文書名	出典
松山城	(永祿5)2,21	1562	毛利元就・同隆元進署書状	萩園巻15国司-26
円嶽	永正7,3,吉	1510	二井家由緒書	萩園巻65三井-11
丸竹山	暦応3,8,27	1340	益田兼見軍忠状	益田家什書1巻6-3
二久須(次)	年未詳 3,11		吉川元春書状	岩国藩中詰家古文書纂3巻-25
三久須	年月日未詳			吉川家中並寺社文書9巻-72
三久須	(弘治3カ)8,9	1557	毛利元就書状	萩園巻11浦-3
三久須在番書	年不詳,3,26		毛利元就・同隆元進署書状	萩園遺5山本-8
三久須山	年月日未詳			吉川家中並寺社文書9巻-204
三隅	貞和4,4	1348	内田左衛門二郎致世軍忠状	石見内田家文書
三隅	年未詳 正,11		毛利元就・同隆元進署書状	益田家什書4巻30-6
三隅	年未詳 6,16		益田藤兼書状	侯賀文書p59
三隅	年未詳 9,18		左近将監兼軍勢催促状	石見内田家文書
三隅	年月日未詳			益田家什書11巻65-13
三隅	年月日未詳		某書状	益田家什書11巻65-13
三隅表	年未詳 3,1		毛利元就	旧原史7巻-157,158
三隅表	年未詳 正,11		毛利元就・隆元進署書状	旧原史7巻-170(萩園文書)
三隅表	年未詳 6,27		陶晴賢書状	石見久利文書の研究p115
三隅表	年未詳 6,27		陶晴賢書状	吉川家中並寺社文書4巻-130
三隅表	弘治2,10,11	1556	益田藤兼書状	侯賀文書p49
三隅城	康永2,11	1343	内田孫八郎致景軍忠状	石見内田家文書
三隅城	貞和4,4	1348	内田三郎致世軍忠状	石見内田家文書
三隅城	貞和4,4	1348	内田左衛門二郎致世軍忠状	石見内田家文書
三隅城	貞和4,5,2	1348	上野頼兼書状	石見内田家文書
三隅城	貞和4,8	1348	内田三郎致世軍忠状	石見内田家文書
三隅城	貞和4,9	1348	苕谷(出羽)実祐軍忠状	萩園巻43出羽-32
三隅城	貞治5,9,3	1366	益田兼見軍忠状	益田家什書1巻6-3
三隅城	貞和7,正	1351	岩田胤時軍忠状	益田家什書15巻82-18
三隅高城	年未詳 2,18		垂井資安書状	益田家什書11巻65-13
三隅城坂井川貫首	年未詳 正,5		毛利隆元書状	旧原史7巻-172
三子	(永祿5)3,13	1562	毛利隆元書状	林新原史p507/旧原史7巻-376
三子	(永祿5)3,15	1562	毛利隆元書状	林新原史p507/林新原史p507
三ツ子敵城	(弘治3カ)8,9	1557	毛利隆元書状	萩園巻11浦-3
[三子山]当城	(永祿5)3,12	1562	毛利隆元書状	林新原史p507
みはらしの丸	年未詳 10,19		毛利輝元書状	萩園巻76村上-7
三原	年未詳 2,2		毛利元就書状	旧原史7巻-380(萩園文書)
矢上			宮俊実書	大日本古文書9吉川家文書別集二宮561
山吹	年未詳 9,3		尾了晴久書状	旧原史7巻-345(益田高友藏文書)
山吹	年未詳 5,20		小笠原長雄書状	旧原史7巻-370(林愛古藏文書)
山吹	(弘治3カ)8,9	1557	毛利元就書状	萩園巻11浦-3
山吹	暦応5,6,18	1342	逸見大阿代了息有朝軍忠状写	大日本古文書11小早川家文書568
山吹	永祿2,6,4	1559	毛利元就・同隆元進署書状	萩園巻84兒玉-53
[山吹城]	天文22,4,5	1553	大内義長判物	萩園巻66劍賀-11
山吹城				萩園巻66劍賀-補
山吹以下敵城	(永祿元)9,3	1558	尾了晴久書状	萩園巻168益川-2
山吹在番				萩園巻65神村-補
山吹之城	永祿2,9,3	1559	毛利秀就加冠状	萩園巻55組式-2補
山吹之城	天文22,9,13	1553	福光久兼契約状影写	大日本古文書9石見吉川家文書35

城館名	年月日	西暦	文書名	出典
山吹之城	年未詳 6、20		鞍懸燈籠寄進状	旧歴史7巻-220(日御崎文書)/日御崎新歴史p291
山吹(水手)	永祿 4、5、20	1561	小笠原長雄感状	清水 新原史p504
湯谷城	天文 10、1、28	1541	小笠原長徳感状	森木 新原史p515
湯泉城	正平 11、10、6	1356	修理権大夫某感状	石見内田家文書
温泉城	(永祿 5カ) 6、15	1562	毛利元就書状	萩園巻103郡野-5
温泉要害	(永祿 5) 6、23	1562	毛利元就・同隆元進器書状	萩園遺 4 斎藤・3
湯ノ要害	(元龜元) 3、3	1570	古川元春書状	萩園巻115湯原-30
用路	(弘治 2) 3、20	1556	毛利元就書状写	萩園巻27熊谷-9
用路	弘治 2、3、20	1556		古川家中並寺社文書2巻-57
用路之城	(弘治 2) 11、4	1556	毛利元就起請文	萩園巻71佐波-8 補
用路御在城	(弘治 2) 8、26	1556	毛利元就書状	萩園巻71佐波-9
横山	(天正 8) 2、1	1580	吉見広頼書状	萩園巻148下瀬-15
横山御番所	年未詳、12、15		吉見頼盛書状	萩園巻148下瀬-19
横山之城				萩園巻 6 毛利・補
古見	年月日未詳			旧歴史7巻-129
古見大藏少輔要害	天文 23、8、2	1554	内藤隆世感状	旧歴史7巻-136(萩園文書)
古見督城岡屋口	天文 23、6、4	1554	賢胤軍忠状	旧歴史7巻-134(萩町白井家藏文書)
古見正頼因城				萩園巻78生田・補
古見正頼要害	天文 23、9、20	1553	大内義長袖原判 乃美頼房軍忠状	萩園巻11浦-60
古見要害普請				萩園巻 6 毛利・補
鰐走城	(永祿 5) 6、23	1562	毛利元就・同隆元進器書状	萩園遺 4 川尻浦斎藤・3





### 第Ⅲ章 総括「石見の城館跡」

# 中世石見国城館成立の歴史的背景

## はじめに

ここでは、城館調査の成果を中世石見地域社会の中に位置付ける試みとして、南北朝動乱期から応永の乱、そして、応仁・文明の乱から毛利氏の領国支配に至る戦国時代、いわゆる中世石見史のうちでも社会変動期における、地域の政治勢力のありかたや経済構造を可能な限り簡略に整理して、地域社会の状況に対応して成立展開した当該地域城館について考えていく手がかりを提示してみたい。

## 1、南北朝動乱期から応永の乱

石見における動乱の本格化は、足利尊氏が後醍醐天皇に反旗を翻した直後の建武3(延元元/1336)年1月、石見小山城の公家方高津長幸を武家方吉川経明が攻め降し(吉川)、同年5月、尊氏方の上野頼兼が石見に入る(萩関121)ころからである。

この年12月、後醍醐天皇が吉野へ動座して南北朝動乱がよいよ展開されることになる。

石見においては、おおむねこのころから1348年ころまで、北朝方上野・益田氏が南朝方三隅・福屋・新田・高津氏らと最も激しく対戦している。

暦応2(延元4/1339)年、南朝方新田義氏・高津長幸・長瀬八郎らが小山城を攻撃するなど邑智郡方面に展開。一方、この年から暦応4(興国2/1341)年にかけて、北朝方吉川経明・益田兼光・上野頼兼らが豊田城の工藤三郎(益田市)を攻め、同城を落している。また、ほぼ同じころ、北朝方益田兼躬・上野頼兼らが南朝方の高津津・福積城を落城させるなど、益田周辺で南北朝両軍が対決し、北朝方が勝利をおさめている。

那賀郡方面では、上野頼兼が吉川経明を派遣して永安の南朝方を攻めさせ、暦応5(興国3/1342)年には、益田兼躬が福屋城(那賀郡)を落し、小石見城(現浜田市)の南朝方新田義氏・周布兼氏・井村兼雄らを降伏させるなど内陸部を中心に戦いを展開している。

ついで、上野頼兼は、石見南朝方の一大拠点であった三隅氏に対抗するため、井尻四郎太郎に鳥屋尾城を、翌康永2(興国4)年には吉川経明に井村城を守らせ、益田兼見とともに自らも三隅城を攻めている。同年には、北朝方田村盛泰・上野頼兼らが、都野で南朝方と戦う(萩関121)など石見那賀郡沿岸部で戦いを展開している。この戦いは一進一退を続けたようで、康永3(興国5/1344)年から貞和4(正平3/1348)年にかけて、北朝方益田兼見・上野頼兼らが鳥屋尾城を攻め、吉川経明・上野頼兼らが再び都野において石見南朝方と戦い、吉川経明・上野頼兼・君谷実祐らが三隅城をめぐる長期戦を展開するなどして、ようやく三隅領周辺まで北朝方が迫っている。

貞和6(観応2/1351)年になると、反足利尊氏・義詮方として、足利直冬が出雲方面に侵入し、石見方面を窺うことになる。これに対して、足利義詮は、荒川詮頼を石見に遣わすこととした。

これからしばらくの間、直冬が石見国内に政治的な影響力をおよぼす。正平10(康安元/1361)年には羽羽城で戦いが展開されるが、正平18(貞治2)年には直冬の備後方面脱出に伴い、直冬方の活動は急速にみられなくなる。

これにかわって、周防の大内弘世が石見に影響をおよぼすようになる。弘世は、後に守護職となり義弘がこれに続くことになる。このことが、大内氏と石見の深い関係を形作っていくことになる。大内氏は義弘が応永6(1399)年に応永の乱で討死して守護職が京極・山名氏へと移行して後も、迦摩郡を

「分郡」として知行し、これを足掛かりとしながら石見地域と関係を持ち続けることになる。

## 2、戦国期の石見

応仁(文明)の乱は、石見国内にも波及した。石見守護は山名政清であり、石見と関係の深かった大内政弘も西軍方に属した。このことで、石見の国人衆も多く西軍に従って参戦したと考えられる。ところが、文明2(1470)年に大内政弘の叔父教幸が長門で反政弘の旗を挙げ、東軍に属する。石見国内にもこれに応じる国人衆が現れ、にわかに関連の様相を呈したが、乱そのものはこの年のうちに鎮圧された。この文明年間、石見国人衆は、幕府の要請もあり、益田氏を中心にいわゆる国人一揆を結び、益田・三隅・高橋・福屋氏などの主要な国人衆が盟約を結んだ。また、明応年間には、益田・周布・福屋・小笠原・三隅氏らが盟約を結び、この上に漣摩分郡に足掛かりを持った大内氏が指導的な役割を果たした。この時期、石見は山名領国でありながら、山名氏の領国支配権は弱体であった。大内氏が再び石見守護として登場するのは永正14(1517)年の大内義興の時代である。

この直後の大永元(1521)年、隣国出雲で急速に勢力を拡大していた尼子氏が、安濃・漣摩・邑智郡に侵入し、同六年には大内義興がこれをふたたび奪回するという、石見三郡にとっては政治的に不安定な状況が訪れた。

大永から天文年間(1521～1555)にかけて、漣摩郡は空前の銀山開発期をむかえる。これにより、日本は銀の世界的産出国となる。これとともに、石見の政治・社会構造も急速に変容を遂げていくことになる。このことから、天文年間(1532～1555)には、銀山のある漣摩郡の領有をめぐる国防の大内氏・出雲の尼子氏・邑智郡の国人小笠原氏など、近隣の大名、領主権力による争奪戦が展開されることになった。また、銀山をめぐる人や物の往来は、漣摩郡に集中する石見国内の沿岸交通をさらに活発化させた。その影響で江の川をはじめ内陸に網の目のようにはりめぐらされた河川交通や山間部の陸上交通が益田・三隅・熱田・浜田・都野・温泉津ほかの沿岸港湾部へと集中していく経済構造を作りだした。その影響が政治秩序にも波及したものとみられ、河上氏・大家氏・永安氏など多くの国人領主権力が滅亡している。

天文20(1551)年、中国地方最大の大名で石見の守護でもあった大内義隆は、家臣陶隆房らの謀反により滅亡する。義隆の滅亡は、石見地域の政治秩序に大きな混乱をもたらした。大内氏と姻戚関係にあった津和野三本松城の古見氏は、陶隆賢(隆房)に反抗し、陶氏と益田氏による攻撃に遭い、同地で戦っている。また、江の川水系では、那賀郡の国人福屋氏と、邑智郡川本の小笠原氏が戦端を開き、一方、漣摩郡方面でも大内氏の残存勢力岡田衆らと福屋氏が対峙しはじめるなど急速な混迷状態をむかえることになった。

こうした中、安芸の毛利氏は天文19(1550)年の家臣井上氏の討滅事件以来、戦国大名として成長しつつあったが、備後を抑え、江の川水系を日本海側出口として安定的に確保しようとしていた。天文23年末から24年にかけて毛利・吉川氏は、那賀郡の福屋氏と提携して石見に侵入し、永安氏を滅亡させ、井原から江の川水系にかけて小笠原氏と戦いを繰り返した。また、石見侵入と同時に、いち早く漣摩郡方面に進出し、温泉津を抑えて、銀山方面を窺った。毛利氏が石見に侵入して以後、三隅氏が滅亡。永禄2(1559)年には川本の小笠原氏が温湯城を開城して降伏、小笠原氏を江の川以北の邑智郡三原方面に移し、川本から南は、毛利氏がこれを領有した。ちょうどこのころ毛利氏は銀山方面に進出し、尼子氏らと戦いを繰り返したが、尼子勢力はこれを契機に石見からじょじょに撤退した。永禄5(1562)

年には毛利氏に反抗した那賀郡の福屋氏を滅亡させることで、毛利氏は石見をほぼ平定した。

毛利氏は、銀山の外港として温泉津の港を整備し、元龜2(1571)年鵜丸城を普請して防御に備えた。銀山から西田を経て温泉津に至る街道は、天正初年ころにはすでに整備されており、温泉津の港の整備に並行して、これら街道筋の整備も行われ、その周辺の城郭も整備されたものと考えられる。

毛利権力が、秀吉の統一権力の傘下に入って後行われた天正検地は、石見の政治秩序を大きく変化させ、益田氏・周布氏など一部の例外を除いては、天正19(1591)年頃までにおおむね旧来の領主権力を淘汰してしまい、ここに事実上石見の中世は終焉を迎えた。

(島根県古代文化センター 佐伯徳哉)

# 石見地方の中近世城館跡の分布とその特徴について

## 1、はじめに

島根県石見地方は、旧石見国に相当する島根県西部地方をいう。南北に細長いこの地方は、南方の中国山地が、北方の日本海沿岸部までその山稜をのび、まとまった平野が見られない山がちな土地である。したがって、この地方に築かれた城館跡の多くはいわゆる「山城」が圧倒的多数を占めている。以下、今回の現地調査を基に石見地方の城館跡の分布とその遺構の特徴を述べることにする。

※文中( )内の記号は、本書における遺跡番号を示す。

## 2、立地について

石見地方は、先に触れたように平地が少ないため、大多数の城郭が山城に分類される。平城は、ごく少数しか確認できず、江戸期を通じて使用された津和野城(w5)、浜田城(H15)も主要な防御施設は山上に築かれた。

平家伝説の残る城郭や、足利直冬や大内弘直等、南北朝と伝えられる城郭が益田市や邑智郡、那賀郡を中心に各所に存在している。これらの城郭は高い山上に築かれている場合が多いが、高城(o16、那賀郡三隅町)や青杉城(e17、邑智郡邑智町)等、明らかに後世に改修強化された遺構が残存するものを除けば、明確な普請は認められない。

吉見氏や益田氏、三隅氏等の有力豪族は高所に築いた城郭を戦国末期まで維持した。彼らは、生活空間として麓に土居を築く場合が多いが、七尾城(q15)等山腹に築く例も認められた(註1)。一方、数少ない平城の好例としては、三宅御土居(q18)があげられる。これは、益田氏の居館とされるが、七尾城とは川向かいに位置している。従来単郭と考えられてきたが、昭和22年のアメリカ極東空軍撮影の空中写真によれば、現在知られる郭の東隣に別の郭らしき遺構も想定しうる(註2)。

## 3、特殊な城郭について

まず、遺跡の立地等からしていわゆる「水軍の城」と推定されるものを取り上げよう。水軍とは海上で活躍する武士団を指す。彼らの戦場はあくまで海上・水上であるため、城郭は平時における生活空間として位置付けできよう。したがって、城郭を死守する意志は希薄であったと思われ、普請は不十分な場合が多い傾向にある。

水軍の拠点となりうる城郭は、益田市、三隅町、温泉津町、大田市等において確認された。温泉津町には毛利水軍の要港であった温泉津湾を押さえる形で鶴島城(c5)、鶴丸城(c6)、笹島城(c7)が築かれている。一方、大田市久手町の鰐走城(a11)は尼子方に属する水軍の城郭として知られ、この地域の陸の要衝である松山城(a14)と相互連絡可能な位置に築かれている。前者の温泉津港を押さえる城郭群は港の防御としての性格が要求されるためある程度の普請が行なわれているが、後者の鰐走城にはほとんど普請が認められない。同じ「水軍の城」でありながら様相を異にするのは興味深い。

次に、いわゆる「陣城」を取り上げよう。陣城は、あらゆる軍事行動において自軍に有利な状況を確認するため、攻める側も守る側も状況に応じて築いた臨時的な軍事施設といえる。その臨時性ゆえに、所期の目的が達成されれば破棄される場合が多かったようだ。したがって、普請が不十分な例が多く、主郭さえ判断できない場合が多い。なお、野戦に際して築かれる場合もあったようだ(註3)。

今回、陣城らしき城郭は各所で確認された。例えば、陶氏は古見氏を攻めるにあたり、三本松城(津和野城)を包囲する形で、陶晴賢本陣(w10)等多くの陣城を築いている。尼子氏は江川の渡川地を確保するために尼子陣所(i17)を築いている。また、毛利氏は温湯城(i4)を包囲した際に会下山城(i3)を、日和城(j10)を攻めた際に大谷山城(j9)など、合戦に際し多くの陣城を築いている。毛利氏の陣城は攻撃目標である城郭の尾根筋に築く傾向が顕著に認められるようである(註4)。

#### 4、遺構各論

ここで、石見地方の城館跡で見られた各種遺構の性格と特徴の概要を整理してみたい。

##### (ア)堀切

堀切は敵に攻められやすい尾根筋を遮断するために築かれた防御施設で石見地方全域で確認できる。郭に接して築かれる場合が圧倒的に多いといえる。地形に応じて築かれており、連続して築いたり、堀切の端を堅堀として築く等様々なタイプがある。規模は、現状で人間が飛び越せる程度のものから堀底に下りることを躊躇するほどの大規模なものまで存在する。

古見氏の三本松城(津和野城)、益田氏の七尾城、周布氏の齋東城(i16)、小笠原氏の温湯城、高橋氏の本城(h24)等の居城に築かれている堀切は大規模であるが、属城に築かれている堀切は概して小規模なものが多い。

##### (イ)堅堀

堅堀とは等高線に対して垂直に掘込まれた堀を指し、堅堀単体の断面は、登城ルートとして利用された場合を除けば、概ねV字形をしている。堀底の直登はもちろんのこと、山腹の水平移動を遮断する機能を果たしたと推定される。なお、堅堀の分布状況には粗密が認められるが、これは斜面上に築かれているため現地踏査時に見落とすことに起因するものかもしれない。

##### (ウ)連続堅堀

連続堅堀とは、前述の堅堀を連続して築いたものである。あたかも堀の畝のごとく見えることから、畝状堅堀とも呼ばれる。攻撃側にとって攻めやすい緩斜面を、防御側が防御を堅固にする意味で地形そのものを破壊する効果もあったと考えられる。

石見地方における連続堅堀は、古見氏、益田氏、三隅氏、永安氏、周布氏、小笠原氏、木城氏、高橋氏に属するとみられる城郭に確認されている(註5)。

ここで、幾つかの事例をあげてみよう。

古見氏は大内義隆を滅ぼした陶晴賢への服従を拒んだため、天文23年(1554)に陶氏の攻撃を受けた。連続堅堀は、古見氏の居城である三本松城(津和野城)の南端、および西側に築かれている。南端の遺構は大規模である。この地は急峻な地形にも関わらず、壁を削り込む方法で横堀(等高線に水平に築かれた堀)を築き、さらに横堀の外側の壁を破壊する形で堅堀を築いている。地形が急峻なため堅堀の長さは短いが幅は広い。これらの遺構の正面に陶氏が本陣を築いた枡ヶ岳が位置すること、また内側の連続堅堀が陶氏と激戦を繰り返した喜時雨に向けて築かれていることなどからして、いずれも陶氏との攻防戦を契機に築かれたものと理解される。

管見によれば、石見地方において、現状で純然たる横堀の確認できる城郭は波田城(q10)と矢川城(p7)が知られるばかりで、石見地方に広く普及していなかったものと考えられる。しかし、その一方で横堀を破壊して連続堅堀を築く技法は、角井城(q22)、井野城(o5)等にも確認することができる。これ

らは、横掘を攻撃側の進攻を遮断する防御施設ではなく武者溜(出撃に備えた待機所)とし、連続堅堀を出撃のための道として機能させた可能性を示唆するものである。角井城や井野城の連続堅堀に多様な構造、築き方が認められるのは、こうした戦略上における連続堅堀の機能の変化や多様性に起因するもので、連続堅堀の技法を採用するにあたって試行錯誤がなされた時期の遺構ともとらえることが出来るよう。

益田氏は陶氏とともに、吉見氏を攻めたため、陶氏が滅ぼされた後は毛利氏の石見進攻の口実とされ、永安領と益田領の宇津川方面から激しい攻撃を受けた。益田氏は永安氏、そして当時益田氏に服属していた三隅氏と共に反撃したが、永安氏は矢懸城(p6)を持ちこたえられず益田氏を頼って敗走し、益田氏も程なく降伏したとされる(註6)。

連続堅堀は益田氏の居城の七尾城、高津川沿いの角井城、七尾城の東方に位置する丸茂城(r5)等に認められる。七尾城の連続堅堀は主郭の南側と北東端に築かれているが、水害のため部分的に破壊されているのは惜まれる。角井城では、尾根上の堀切と連続堅堀が上手く噛み合っていないのが特徴的である。これは、連続堅堀が後の改修強化時に追加して築かれたことを物語るものといえる。

三隅氏の城郭では、居城の高城、井野城等において連続堅堀が確認できる。高城においては、堅堀の一部を登城ルートとして使用していた可能性がある。高城も水害によって連続堅堀が破壊されているのが惜まれる。

永安氏の城郭では、居城の矢懸城には明確な連続堅堀は確認できない。しかし、北方にある千穂山城(p5)には、主郭を半周する連続堅堀が確認できる。この千穂山城と益田氏の丸茂城、三隅氏の井野城は尾根筋の防御がほぼ同じ技法で築かれているため、同一時期に改修された可能性が高い。井野城は、矢懸城と、益田氏が陣替えしたとされる三隅高城のほぼ中間に所在し、千穂山城は矢懸城の北方に所在する。丸茂城は、宇津川方面より侵入した毛利軍を迎撃する拠点とされる城郭であり(註7)、いずれも対毛利戦において重要な城郭であったものと考えられる。この戦いにおける反毛利勢力の盟主は明らかに益田氏であったため(註8)、これらの城郭は益田氏の指導、強要によって改修されたものと考えられる。

周布氏の城郭では、居城の鳶巣城等に確認できる。鳶巣城の堅堀は幅が狭く、尾根筋の防御は不十分なものとなっている(註9)。

小笠原氏の城郭では、居城の温湯城、飯の山城(i6)等において連続堅堀が確認できる。

福屋氏の城郭では、居城とされる本明城(d33.n1)、主要な属城の加古屋城(m10)には連続堅堀は確認されていない。属城とされる松山城(d15、江津市松川町)に連続堅堀が確認されるが、小笠原氏が入城したとされる点を考慮すれば、福屋氏による改修の可能性は低いといえる。

高橋氏の城郭では、居城の本城(h24)、二ツ山城(h21)、琵琶甲城(g3)等に確認できる。いずれも規模が大きく、先端部で合流しているパターンが多いのが特徴である。なお、本城の主郭部に築かれている畝状の堀は破城の跡である(註10)。

本城氏は高橋氏の一族で、高櫓城(熊川郡佐田町)を居城としていたが、大森銀山の守将として抜擢され山吹城に入城したとされる。山吹城(a31、b16)には本城氏の他に小笠原氏も入城しているため断定はできないが、高櫓城の連続堅堀との類似性から本城氏による改修の可能性が高い。

以上、連続堅堀の分布を見てきたが、総じて連続堅堀は、より強力な攻撃側勢力に対して籠城戦を行った防御側勢力によって築かれた傾向が強うかがえる(註11)。組織的な抗戦が出来ないまま滅亡

した福屋氏(註12)の居城に連続竪堀が確認できないこと、毛利氏や吉川氏の領国内に連続竪堀が確認されなかったこと(註13)は興味深い事実で、今後の検討課題である。

#### (エ) 櫓 台 (欠倉台)

櫓台とは防御の拠点となる施設で、戦況に応じて部隊の移動を指示する指揮所的な要素もあったと思われる。おそらく、見通しの効く重層の櫓を建てたものと考えられる。

益田氏の七尾城の主郭部両端に堀切を伴った櫓台が築かれている。このように櫓台と堀切のセットは、角井城、吉見氏と争奪を繰り返した横山城(q35, 益田市柏原町)等の益田氏の属城に散見できる。その他の豪族では、小笠原氏の温湯城、佐波氏の要路城(f16)等で確認できる。主郭の中央に櫓台を築く例は、三隅氏の高城、高橋氏の藤掛城(g13)、その匿城の鷺影城(g10)、小笠原氏の属城の飯の山城等に確認できる。また、虎口とセットになった明確な櫓台は山吹城、津和野城のように近世初頭に改修強化された城郭を除けば確認されなかった。

#### (オ) 上 塁

土を突き固めたり削り残して築いた障壁をいう。堀切や虎口とセットで築かれる場合が多いが、郭全体に土塁を築く例はほとんど確認できなかった。七尾城主郭部に築かれている土塁は、食い違わせることによって虎口を形成している。さらに、主郭部北側の堀切を隔てた郭には主郭に向かって土塁が築かれている。これは堀底に殺到した攻城勢力を伏撃するために築かれたものであろう。また、上位の郭と下位の郭が接する箇所から城外に向かって竪土塁を築く例が毛利氏の関係した城郭を中心に散見できる。この竪土塁を登城ルートに使用したと推定しうる事例がある(註14)。

#### (カ) 虎 口

虎口は、郭の入口を言い、多くの場合は登城ルートに接して築かれている。平入り(直進して虎口を通る)で櫓等によって構築されるものが一般的だが、攻撃が集中する主要な虎口には、土塁や石塁で補強したり、守りやすいようにルートに虎口内や直前で何回も曲げる等の工夫が凝らされた。

石見地区では明確な虎口を持たない城郭が大多数を占めており、山吹城等近世初頭に改修された城郭以外では、毛利氏に関わったとされる城郭に確認できることが多い。毛利氏の関与した城郭には、様々な虎口が築かれているが、泉山城(e1)、青杉城(e17)、矢滝城(a33,c3)等で小規模だが柵形虎口を確認することができる。矢滝城の柵形虎口は、連続して築く工夫が認められ、また、青杉城、市山城(k9)等では、下位の郭との間に方形の郭を築きそこを虎口空間とするなど独特の構造が見られ注目に値する。

#### (キ) 石 垣、石 積 み

ここでは、コーナーのあるものを石垣、無いものを石積みとした。石積みは、虎口周辺や斜面の土止めとして築かれた例が多いが、いずれも低い。琵琶甲城のように石を斜面に張った事例も見られる。

郭内を仕切る石積みが二ツ山城の通称「お倉の段」・「東の丸」や津和野城の南端の郭等に認められる。石垣は、山吹城のように近世初頭に改修された城郭以後しか確認できない。川本町の丸山城(i16)は総石垣の城郭であるが、築かれた時期等の多くの検討課題がある。

なお、今回の分布調査に際しては、調査カードおよび本書の城館跡一覧において石垣と石積みを区別する事無く「石垣」として扱っており今後の検討が必要である。

#### (ク) 居 館

石見地方では、居館を土居(どい)と称する事例が多い。多くは、城郭の築かれている山の麓か中腹に



築かれている。一方、ごく少数ながら城郭から距離を置き、平地などに独立して築かれた事例も、益田氏の三宅御土居等で見られる。

#### (ケ)その他

邑智郡羽須美村周辺には比丘尼(びくにん)と称する削平地が数ヶ所認められる。いずれも城郭の周辺に位置し、井戸等の生活施設を備えている事が多い。地元では、城主の隠居所等と伝えているが、いわゆる「山小屋」(註15)の可能性も含め検討の余地がある。

### 5、城郭と類似する遺構・遺跡について

最後に、分布調査の実施中に度々遭遇した城郭と類似する遺構・遺跡の問題に触れておきたい。

筆者の具体的な経験をあげてみよう。大田市三瓶町の茶臼山城(a8)を調査した際、尾根の稜線に沿って土塁と横掘から構成される防御施設と思われる遺構を発見した。この地域は、毛利氏と尼子氏の古戦場と伝えられているため、当時の陣城であろうと推測しつつ山上へと登っていった。ところが、山頂部にコンクリート製のトーチカが発見されたことから、転じて、戦前、三瓶山周辺が軍の弾薬演習場として使用されていた当時のものと判断するに至った。この場合、トーチカ存在に気付いたため城郭に伴う遺構でないと判断されたが、気付かなかった場合、適正な判断が出来たかどうか非常に疑わしい。

また、邑智郡を中心によく見られる類似遺構・遺跡として鉄生産に伴う「鉄穴流し」があげられる。尾根上や山腹を削って、水源から水を導いて溜池に溜め、ある程度溜まったところで水を流して、砂鉄を選別採取するものである。厄介なのは、この水路が横掘、溜池が柵形虎口、水を流した痕跡が堅堀に見えてしまうのである。また、半山城塞群(h11.12.13)等の周知の城郭においても、後世の「鉄穴流し」が行なわれているために、地表面観察による遺構の峻別を一層困難にしている事例も知られる。

今回の分布調査の実施にあたっては、これら類似遺構・遺跡との区別について、調査員に「防御すべき郭が有るか無いか」「どうやって防御し得るか」を念頭に置き慎重に調査するよう協議してきたが、果たしてどこまで徹底出来たであろうか。その意味において、本報告書の城館跡一覧に記されている横掘等は「鉄穴流し」の跡や古道、自然地形を防御施設と見誤った可能性も残している。今後の再調査と適正な評価が課題といえる。

### 6、おわりに

今回の分布調査では、古地名や古地図、古老の聞き取り調査を基に、果敢に現地踏査を試みたため石見地方の城館跡数の総数は飛躍的に増加した。しかし、分布調査の実施箇所地域間格差が生じており、その数は今後さらに増すものと思われる。

また、「なぜこれほどの遺跡が今まで知られずにいたのか」「なぜ、地元では城館跡と伝えられてきた遺跡が、いわゆる遺跡地図に掲載されていなかったのか」など、従来の城館関連遺跡に関する理解、関心の低さや調査体制の不備、調査研究の遅れを再認識する結果も得ることとなった。

鳥根県の中近世城館跡に関する調査研究は、このたびの分布調査をもって、ようやく緒に着いたと言える。現地踏査による遺構・遺跡の認識方法と記録方法、専門用語の概念の整理など最も基礎的な課題が山積する状況ではあるが、本稿が今後の調査研究の一助となれば幸いである。

(調査員 寺井 毅)

- 註1 益田市教育委員会「石見空海開港1周年記念事業まちづくりシンポジウム「歴史の扉を開く」報告書」(1995年)  
p32
- 註2 同上 p24
- 註3 邑智郡石見町の雲井城西側の障城群はその好例である。
- 註4 出雲地区でも、瀬戸山城(飯石郡赤木町赤名)、熊野城(八束郡八雲村)、白鹿城(松江市法吉町)等の尾根郭に毛利氏の障城が確認されている。
- 註5 波佐一本松城(q8)にも連続堅堀が確認されているが、築き方に規則性がみられず、築城者を断定できない。
- 註6 廣田八穂「西石見の豪族と山城」(1985年)
- 註7 毛利氏によって占領された宇津川城とは約2kmの距離にある。また、丸茂城と七尾城の間の益田川沿いには主要な城郭は因ツ山城と大谷山城しか確認できていない。
- 註8 同 註6
- 註9 周布氏の居域に築かれている連続堅堀の技法にも、採用時の混乱が認められる。
- 註10 主郭部を欽状に破壊する例は山形県鶴岡市の湯田川館群(ゆだがわたてぐん)しか確認していない。
- 註11 敵状形堀群の使用が際立っているとされる出羽の小野寺氏、越前の朝倉氏、筑前の秋月氏などは、それぞれ実力的に上位にあたる最上氏、織田氏、大友氏、織豊政権という領城権力との対決を経験しており、それが使用の契機となった可能性は高い。
- 松岡 進「戦国期城館遺構の資料的利用をめぐって」【中世城郭研究 2号】(1988年)
- 註12 佐伯徳哉「市木地区中世城郭群をめぐる歴史的背景 福原氏成立～滅亡に至る動向を中心に」【中国横断自動車道広島浜田線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ】(1991年)
- 註13 広島県教育委員会「広島県中世城館遺跡総合調査報告書第4集」(1996年) p318
- 註14 山吹城主郭北側の郭の西側に築かれている土塁が好例である。
- 註15 民衆の避難所、宗教施設等様々な説がある。

# 鶴丸城(遡摩郡温泉津町大字温泉津所在)の普請役について

他地域と同様当石見国においても、城館の修築過程が判明する事例は極めて少ない。そうした中にあるのが鶴丸城(本書番号c6)の場合は、下記のような普請賦状(註1)によって、その一端をうかがい知ることができる稀有な事例である。つまりこの文書は、毛利元就と輝元(すなわち)の命を受けた桂就直ら毛利家の奉行衆が、武安就安らに対して鶴丸城の城講を伝達したものである。

鶴丸城普請賦状之事

御判  
一冊枝  
一冊一杖  
一四拾八杖  
一廿一杖  
一八杖  
一七杖  
一廿五杖  
一十一杖  
一八拾杖  
六拾杖  
一十五杖  
以上

右城講之事、後二月廿日内可被相講之由被迎出候不可  
有油所之通可申旨城也  
二月廿日

桂就直  
左衛門大夫 判  
豆下三郎右衛門尉 判  
井田守 判  
栗屋守 判  
内藤元光 判  
國司元光 判  
飛騨守 判

温室方  
大岡一芳  
静間  
波積  
宅野  
仁摩  
磯式・馬路・神護  
下藤治・井田  
福光  
大江  
河上り  
西郷・西河内

武安木工左衛門  
内藤内藏系殿  
河内新左衛門尉殿  
中田三郎兵衛殿  
見下美濃守殿

本文書は年季が不明であるが、永禄13年(1570)のものと考えられる。これ以前、永禄5年(1562)に温泉津港を掌握した毛利元就は、当地を直轄領にして温泉津奉行を置き、津料の徴収や町場の管理などに当たらせていた。ところが、永禄11年(1568)に山中鹿介らが出雲国に侵入していわゆる尼子家復興戦が始まると、温泉津港は石見銀山の経営に直結した外港としての機能に加えて、山陰沿岸に進出した毛利水軍の軍港ともなった。つまり、山中鹿介等を布部合戦で撃破した直後、温泉津の湾口に、尼子水軍の来襲に備えて急速築城されることになったのが鶴丸城なのである。というのも、この後も宍道湖南岸の高瀬城を拠点とした米原綱寛等が、船で毛利方の平田城や満願寺城に挑んだり、丹波や但馬の尼子方が出雲や隠岐の海岸部を襲ったように、しきりに船戦を展開したからであった。

なお、鶴丸城の北、温泉津湾の湾口の榑島には榑島城(本書番号c5)があり、湾口の西側の笹島にも物見程度の城を築いているので、温泉津港の湾口はこの三城によって厳重に防備されることになった。つまり、鶴丸城と北方の榑島城の間は直線距離にして約400mしかなく、西方の笹島城(本書番号c7)との間も約500m強である。温泉津港に船で侵入しようとする、この三城から文字どおり俯瞰射撃の十字砲火を浴びせられることになるわけである。

鶴丸城は、温泉津湾に向かってせり出した標高59.4mの瘦せ尾根上に主郭を置き、その北方と東方の尾根上に郭を配している。主郭に至る虎口は、土塁囲みの小規模な北端の枳形と15m四方の大規模な中央部の枳形と二つ設けられているが、いずれも北方の榑島との間の沖泊湾に向けて開口している。また主郭北方の海岸には、露出した岩盤を削って作られた階段も残っている。南と北側の斜面に、一段か二段、ところによっては三段に設けられた帯郭は、鉄砲架を配置するため、罐壇状に銃陣を敷く構えであったことを示している。詳しくは、榑島城・笹島城とともに本書掲載の略測図(縄張り図)を参照されたいが、鶴丸城は鉄砲が主な兵器となった段階の海城の典型と見てよからう。このような縄張りの鶴丸城を、前掲の文書に明らかなように、遡摩郡静間郷から那賀郡河上郷にいたる周辺の郷村(下図参

照)に最高八十杖から最低七杖を割り当てて、一ヵ月という期間内で完成させるよう命じたのである。



ここでの一杖とは、一般にいう一反＝5・6杖の意味での面積の単位ではなく、毛利氏の城誘えにあっては、一杖＝一間の普請役の意味である。時期はやや下るが安芸国の久芳郷が普請役を命ぜられた時は、貫高5貫文について一杖が割り当てられている。この場合は「一丸之隔扉間可申付候」とあり、一つの郭の扉と隔子(欄)の作事(おそらくは修理であって新設ではなからう)役であるから、一杖＝一間の扉・欄の作事(普請)役＝5貫役となる。(註2)

鶴丸城の場合でも、割り当ての根拠とされたのは恐らく郷村貫高であろう。貫高が判明する郷村をあげてみよう。まず、天正15・16年(1587・88)頃と推定される吉川広家の領地付立(註3)には、「百八十貫 湯三方」「二百貫 大國三方」とある。これによれば、温泉三方と大國三方は一杖あたり6貫役程度となる。次に天正2年(1574)の吉川経安の不知行分(註4)のうちには「波積 二百貫足」「井

田 七十貫足」とみえるが、このうち波積の負担は22杖だから、一杖あたり9貫役程度とある。郷村貫高の等しい大國三方と比べるとかなり負担が軽いといえよう。なお、井田に関しては、下都泊の貫高が不明なため推定できない。やや時代がさかのぼるが、永禄2年(1559)に毛利元就と隆元親子が「宅野村七十貫」を物部神社に寄進(註5)している。これによると、宅野は一杖あたり9貫役程度となる。宅野の負担が軽いのは温泉三方よりは遠距離だからと考えられるが、鶴丸城から大國までの距離と大差はない。しかも、それよりはるかに近距離の波積が9貫役なのは、なおさら臍に落ちないところである。したがって、波積・宅野と大國三方との間に、一杖あたり約3貫役の差があるのは、別な要因が加味されているからと考えなくてはならないが、今のところ、それを推定することができないている。

このように一杖が何貫役だったかは明言しがたいし、一杖あたり何人役を基準としたかはさらに不明である。後北条氏が永禄6年(1563)に玉縄城の塼の修理を命じた場合は、一間=16貫=四人役を基準としていたが、鶴丸城の場合そうした基準が果たしてあったかどうかは明らかではない。ただ江川以東の郷村に広く割り当てられているから、郷村と温泉津との距離の遠近は考慮されたであろう。

それにしても延べ386間という普請役は、1間=6尺3寸と仮定すると約737m分に当たる。いま試みに測量図(註6)の上で計測してみると、土塁囲みの櫓形を含めた主郭の外周は約180mである。この東方への字形の郭を、西側の櫓形の部分と東側に隣接する一段低い郭を含めて計測すると約370mで、合計しても550m程度となる。数段にわたる帯郭を含めて計測すれば386間を上回るが、帯郭を独立させて割り当てたとは思われない。なぜなら鶴丸城は急遽新築された城だから、一杖の割り当ては単に一間の塼か柵を作ればよいのではなく、複せ尾根の上部や山腹を削って郭や櫓形を造ったり切岸を加工したりする、いわゆる普請から、塼や柵を作る作業までを含んでいたと考えるべきであろう。したがって、帯郭の普請を別個に切り離して割り当てたとは考えにくいのである。ところで北方の鶴島城には、毛利系の山城に見られる削り残しの竪土塁などが認められる。延べ386間の普請役は、鶴島城の改修も含めて賦課されたと考えた方がよいのではなかろうか。

(調査員 山根正明)

- 註1 年未詳2月24日 毛利元就同輝元袖判同氏奉行衆連署普請賦「萩藩閩閩録」101 兒玉傳右衛門  
註2 以上の詳細は、拙稿「出雲における毛利氏の山城について」『山陰史談』22号所収を参照されたい。  
註3 年月日不詳 吉川広家領地付立「吉川家文書」  
註4 天正2年4月5日 吉川経安置文写「石見吉川家文書」  
註5 永禄2年8月26日 毛利元就同隆元連署寄進状「物部神社文書」  
註6 鶴丸城の縄張り図は温泉津町教育委員会作成の測量図を基礎とした。

## 終わりに ～城館調査随想～

随筆風の文章で恐縮だが、調査にかかわった一人として若干の感想を残しておきたい。

何といっても城館縄張図が一挙に100例あまり公表されたことの意義は大きい。それは、古墳の墳丘・実測図が数年間に100例集成されたことを思えば想像できよう。これをもって、島根県の城館研究は大きく前進したと評価できよう。とりあえず、毛利氏の石見侵入の状況を縄張図から明らかにする事ができたと考ええる。

残された文書や伝承と縄張図と対照できる城があるのではないか。今後は、この報告書を基礎に、地域間の分布調査の精粗を埋めていく作業が大切であろう。注目すべき地域、さらに調査が必要と感じられる地域も報告書刊行により歴然とするはずである。毛利氏以前の城がどうであったのかという追究も必要である。石垣の観察された城、連続竪堀のある城の分布なども問題になることと思う。

古墳研究の場合も、墳丘実測図の作成で完成というわけではない。出土遺物の研究や発掘調査による成果を総合して進められることになる。他地域の古墳との異同を参照することも必要である。城館についても、古墳研究の場合と全く同様だと思う。

少し古いことになるが、広島県福山市の草戸千軒遺跡と島根県美郷郡広瀬町の富田河床遺跡は陰陽で競うように発掘調査されていた時期があったと記憶する。富田河床遺跡の調査が終わってから草戸千軒の調査は続けられ、草戸千軒は日本の中世史研究や中世考古学に多大な貢献をした中世遺跡として有名である。

広島県では、城館分布調査報告書の完成が島根県より一足早かったが、報告書完成後も古川氏館跡の発掘調査など中世遺跡の計画的・継続的調査が進められている。

島根県でも今回のこの成果を基礎にして、さらに研究を深めていきたいものだ。今回、調査カードがありながら、諸般の事情で縄張図を掲載できない城館跡があった。補遺編の発行などは、まず最初に手掛けるべき仕事であり、まさに画竜点睛の事業となろう。

調査中には、何回か縄張図作成の実習を兼ねた城館調査会が開催された。これからは、考古学専攻の学生が古墳測量・土器実測・写真撮影・拓本・遺跡発掘の実習などを必修にしているように、中世史・考古学専攻の学生が縄張図作成実習を必修として履修する時代がくるだろう。なお、県市町村教育委員会の文化財担当者の、城館調査会への参加は少なかった。開発にかかわる発掘調査などで多忙を極めていたためだと想像される。県市町村教育委員会の文化財担当者が参加しやすい工夫をして、ぜひ今後も継続してほしい企画だと思う。縄張図が書けないということは、縄張図が読めないということである。城館の研究が短期間に急速に進展しているので、城館が開発に直面したときに、その取扱協議の第一線に立つ担当者の技量向上の方策として必要なことだろう。

最後になったが、一人で調査計画の企画から報告書の刊行まで担当された事務局のご芳苦に感謝したい。これも事情があって仕方のないことだったと想像するが、他県の報告書作成の体制を見聞するにつけ同情したところである。このような機会が再びあれば、今度は、もう少し無理のない体制を組まれるように望みたい。

今回の報告書刊行で、従来、断えること無く続いている登山道や不用意な城跡公園の整備、無線やテレビ・電気の中継所・鉄塔建設による城の破壊が多少とも止まることになれば幸いであり、現地踏査した人達の苦勞も報われることだろう。

(調査員 今 岡 稔)

# 付編 主要参考文献一覧 (1945年以降に発行されたもの)

No.	著者名等	発行年	文献名(出版元名)	主な掲載城館
〈調査報告書関係〉				
1	高根県教育委員会	1982	中国横断自動車道予定地内遺跡分布調査報告書	高城跡(m1, h36) 内ヶ原城跡(m3)
2	島根県教育委員会	1991	中国横断自動車道広島浜田線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ	神土城跡(d30) 佐賀甲松城跡(d8)
松山城跡(d15) 滝ノ屋谷城跡(h37) 源太ヶ城跡(j5) 熊ヶ峠城跡(j12) 龍ヶ城跡(l1) 高城跡(m1, h36) 森追城跡(m2) 内ヶ原城跡(m3) 重富城跡(m6) 大石谷城跡(m7) 古吉屋城跡(m10) 本明城跡(n1, d33) 波佐一本松城跡(n8)				
3	高根県教育委員会	1992	上久々茂土居跡	上久々茂土居跡(q8)
4	島根県教育委員会	1994	上久々茂土居跡・大峠遺跡	上久々茂土居跡(q8)
5	大和村教育委員会	1992	尼子陣所跡発掘調査報告書	尼子陣所跡(l17) 別当城跡(h8)
6	瑞穂町教育委員会	1989	二ツ山城跡発掘調査報告書	二ツ山城跡(h21)
7	瑞穂町教育委員会	1989	琢道城跡発掘調査概報	琢道城跡(h7)
8	瑞穂町教育委員会	1992	琢道城跡発掘調査報告書	琢道城跡(h7) 別当城跡(h8)
9	石見町教育委員会	1983	石見町の遺跡	源太ヶ城跡(j5) 郡山城跡(j7) 東屋城跡(j16)
10	石見町教育委員会	1996	日和城跡調査報告書 ～石見町文化財調査報告書第15集～	日和城跡(j10)
11	金城町教育委員会	1986	金城町内遺跡分布調査報告書Ⅰ	波佐一本松城跡(n8)
12	益田市教育委員会	1987	益田市遠田地区遺跡分布調査報告書Ⅰ	嶺城跡(q12)
13	益田市教育委員会	1991	三宅御土居跡Ⅰ	三宅御土居跡(q18)
14	益田市教育委員会	1992	三宅御土居跡Ⅱ	三宅御土居跡(q18)
15	益田市教育委員会	1993	益田氏関連遺跡群Ⅰ	七尾城跡(q15)
16	益田市教育委員会	1994	益田氏関連遺跡群Ⅱ	七尾城跡(q15)
17	津和野町教育委員会	1993	平成4年度町内遺跡分布調査報告書 ～藩校養老館・木蘭遺跡・観音平遺跡 ・高崎亀井家屋敷跡～	木蘭遺跡(w4) (古見氏館跡) 丸山城跡(w6) (高崎亀井家屋敷跡)
18	高根県立浜田高校	1983	歴像 復刊第7号	養楽城跡(l16)
19	広島県立千代田高校地理歴史部	1979	山城～広島県西北部における中世城郭の調査	藤掛城跡(g13) 二ツ山城跡(h21) 本城跡(h24)
20	江津市文化財研究会	1982	石見湯8号	本明城跡(n1, d33)
21	中世城郭研究会	1992	中世城郭研究6号	山吹城跡(a31, b16)
〈総論・概論〉				
22	井上宗和 編	1950	日本城郭全集 第5巻一中国編一 (日本城郭協会出版部)	浜田城跡(l15) 津和野城跡(w5)
23	矢富巖夫 ほか	1967	日本城郭全集 第11巻 鳥取・島根・山口篇(新人物往来社)	(省 略)
24	藤崎定久	1971	日本の古城 2 中国・四国・九州編(新人物往来社)	浜田城跡(l15) 津和野城跡(w5)

No.	著者名等	発行年	文献名(出版元名)	主な掲載城跡
25	中国新聞社編	1973 1974	古城の譜 一中国地方一 上・下巻 (たくみ出版)	(上)山吹城跡(a31, b16) 鷹巣城跡(i16) 七尾城跡(q15) 津和野城跡(w5) (下)物不言城跡(c9) 藤掛城跡(g13) 二ツ山城跡(h21) 温湯城跡(i4) 高城跡(o16)
26	矢高巖夫、祖田浩 ほか	1978	探訪日本の城 七 一山陰道一 (小学館)	浜田城跡(i15) 七尾城跡(q15) 津和野城跡(w5)
27	内藤正中	1983	山陰の城下町 (山陰中央新報社)	(省 略)
28	村田修三編	1987	図説中世城郭事典 第三巻 (新人物往來社)	鷹巣城跡(i16) 波佐一本松城跡(n8) 七尾城跡(q15)
29	藤岡大捕ほか編	1980	日本城郭大系 第14巻 鳥取・島根・山口(新人物往來社)	要害山城跡(a4) 刺鹿城跡(a10)
<p>松山城跡(a14) 古水陣屋跡(a16) 金子城跡(a22) 山吹城跡(a31, b16) 高城跡(a32) 久滝城跡(a33, c3) 鍋ヶ城跡(b18) 温湯城跡(c2) 鶴丸城跡(c6) 物不言城跡(c9) 埋築城跡(d6) 佐賀里松城跡(d8) 今井城跡(d9) 松山城跡(d15) 柳城跡(d17) 月出城跡(d26) 本明城跡(d33, n1) 泉山城跡(e1) 九日市城跡(e3) 木積三高城跡(e4) 登矢ヶ丸城跡(e7, f1) 八幡城跡(e10) 青杉城跡(e17) 小松地城跡(e22) 京寛原城跡(e25) 地頭所城跡(e28) 瀬城跡(f2) 天城跡(f5) 荒滝城跡(f6) 水玉山城跡(f7) 高梨城跡(f9) 都賀原城跡(f12) 都賀東城跡(f13) 要路城跡(f16) 尼子陣所跡(f17) 山南城跡(f21) 宮内城跡(f22) 名剣城跡(g1) 比丘人城跡(g2) 琵琶甲城跡(g3) 高畑城跡(g4) 幡屋城跡(g5) 柳尾城跡(g6) 藤掛城跡(g13) 布施城跡(h2) 鏡宝城跡(h4) 琢道城跡(h7) 別当城跡(h8) 宇山城塞群(h11, 12, 13) 黒岩城跡(h17) 二ツ山城跡(h21) 本城跡(h24) 高城跡(h36, m1) 堀城跡(h38) 飯の山城跡(i6) 湯谷城跡(i10) 丸山城跡(i16) 雲井城跡(j1) 日和城跡(j10) 熊ヶ峠城跡(j12) 東屋城跡(j16) 占城跡(k2) 鐘腰城跡(k3) 桜井城跡(k7) 市山城跡(k9) 大石城跡(k12) 笹山城跡(l3) 三子山城跡(l9) 小石見城跡(l11) 浜田城跡(l15) 鷹巣城跡(l16) 重富城跡(m6) 加古屋城跡(m10) 波佐一本松城跡(n8) 金木城跡(n9) 鷹泊城跡(o2, p19) 鳥屋尾城跡(o4) 井野城跡(o5) 水来城跡(o14) 高城跡(o16) 河内城跡(o17) 針葉城跡(o30) 矢原城跡(o32) 碓石城跡(o35) 大山城跡(o36, q2) 大多相外城跡(o37) 三隅石塁跡(o38) 千穂山城跡(p5) 矢懸城跡(p6) 田屋城跡(p14) 上久々茂土居跡(q8) 大谷土居跡(q14) 七尾城跡(q15) 三宅御土居跡(q18) 稲積城跡(q19) 高津城跡(q21) 豊田城跡(q26) 向橋田城跡(q29) 横山城跡(q35) 四ツ山城跡(r14) 道川城跡(s3) 叶松城跡(s15) 小松尾城跡(s17) 下瀬山城跡(t1) 野登呂城跡(t4) 三之瀬城跡(u4) 茶臼山城跡(v3) 指月城跡(v5) 大炊城跡(v7) 羽生城跡(v10) 能美山城跡(v11) 政国城跡(v12) 徳永城跡(w3) 吉見氏居館跡(w4) 津和野城跡(w5) 御嶽城跡(w11)</p>				
<b>&lt;各論・調査研究論稿ほか&gt;</b>				
30	矢高熊一郎	1961	益田七尾城史	七尾城跡(q15)
31	山根復久	1972	石見銀山遺話(鳥根照文財愛護協会)	山吹城跡(a31, b16)
32	田村紘一	1973	城一石見福光不言城一(関西城郭研究会)	物不言城跡(c9)
33	田村紘一	1975	城一石見浜田城一(関西城郭研究会)	浜田城跡(i15)
34	廣田八穂	1979	中世益田氏の遺跡(益田市史談会)	七尾城跡(q15)他
35	廣田八穂	1985	西石見の豪族と山城	七尾城跡(q15)他
36	村田修三	1989	『中世益田氏の居館と七尾城』 『月刊歴史手帖』第17巻12号(名著出版)	七尾城跡(q15) 三宅御土居跡(q18)他



No.	著者名等	発行年	文献名(出版元名)	主な掲載城館
37	市村高男	1990	「三宅御土居跡保存運動と中世城館研究の現状」『日本史研究』第339号	三宅御土居跡(q18)他
38	井上寛司	1990	「中世石見益田氏と三宅御土居」『会誌歴史地名通信』第14号	三宅御土居跡(q18)
39	井上寛司	1990	「三宅御土居跡」『季刊自然と文化』30秋季号 (『観光光資源保護財団』)	三宅御土居跡(q18)
40	寺井 毅	1991	「石見福屋氏の桜尾城・松山城・波佐一本松城の畝状竪堀群についての考察」『島根考古学会誌8集』	山吹城跡(a31, b16) 松山城跡(d15) 琵琶甲城跡(g3)
二ツ山城跡(h21) 本城跡(h24) 鷹巣城跡(i16) 高城跡(m1, h36) 波佐一本松城跡(n8) 井野城跡(o5) 高城跡(o16) 七尾城跡(q15) 角井城跡(q22) 丸茂城跡(r5)				
41	井上寛司 岡崎三郎	1994	史料集 益田兼光とその時代 ～益田家文書の語る中世の益田(一)	(省 略)
42	井上寛司 岡崎三郎	1995	史料集 益田兼光とその時代 ～益田家文書の語る中世の益田(二)	(省 略)

※注意：〈主な掲載城館〉の名称・番号(括弧内)は、本書に準じた。したがって各々の刊行物においては別称が使用されている場合が多々あることを承知願いたい。

島根県中近世城館跡分布調査報告書  
〈第1集〉 石見の城館跡

発行日 平成9(1997)年3月

編集 島根県教育委員会  
松江市殿町1番地

印刷 株式会社島根県農協印刷